

令和4年度 枚方市
「いのち支える行動計画に関する意識調査」
報告書（改訂版）
（市民アンケート調査結果）
（案）

令和5年3月

枚 方 市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査実施概要	1
3. 報告書の見方	1
4. 母集団と調査回収サンプルとの類似性比較	2
II 市民アンケート調査結果	3
1. 回答者自身のことについて	3
2. 自殺の現状について	7
3. 自殺対策について	8
4. 悩みの相談について	21
5. 自殺やうつについて	31
6. メディア（新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体）について	69
7. 新型コロナウイルス感染症について	81
8. 今後の自殺対策について	87
IV 資料編（調査票）	

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「枚方市いのち支える行動計画（自殺対策計画）（第2期）」策定の基礎資料とするため実施しました。

2. 調査実施概要

対 象	・枚方市内在住の満18歳以上の方 4,000人 （住民基本台帳から無作為抽出） ・市政モニターの方 500人
調査実施時期	令和4年9月12日（月）～10月31日（月）
調査方法	郵送配布、郵送・web回収
有効回収数	市民：1,469件（回収率36.7%） ※紙回答：1,218件、web回答：251件 市政モニター：417件（回収率83.4%）

3. 報告書の見方

- ・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ・クロス集計において、回答者数（N）が少数となる場合及び無回答は除外しています。性別では「男性・女性では答えられない」（N=0）「答えない」（N=14）「無回答」（N=23）、年齢別では「無回答」（N=6）を除外していますが、合計数には含まれています。
- ・前回調査とは、枚方市が平成30年7月に実施した「自殺対策に関する意識調査」のことです。（調査対象数：4,000人、有効回収数（回答率）：1,491人（37.3%）、調査方法：郵送配布・郵送回収）
- ・国調査とは、厚生労働省が令和3年8月に実施した「令和3年度自殺対策に関する意識調査」のことです。（調査対象数：4,000人、有効回収数（回答率）：2,009人（50.2%）、調査方法：郵送配布・郵送またはオンライン（インターネット）回収）

4. 母集団と調査回収サンプルとの類似比較

調査回収の男性18歳～59歳は母集団より1.44～4.79ポイント低く、女性18歳～29歳、80歳以上は1.32～1.61ポイント低くなっています。

表 住民基本年齢台帳人口（5歳階級）構成比と回答者構成比の比較

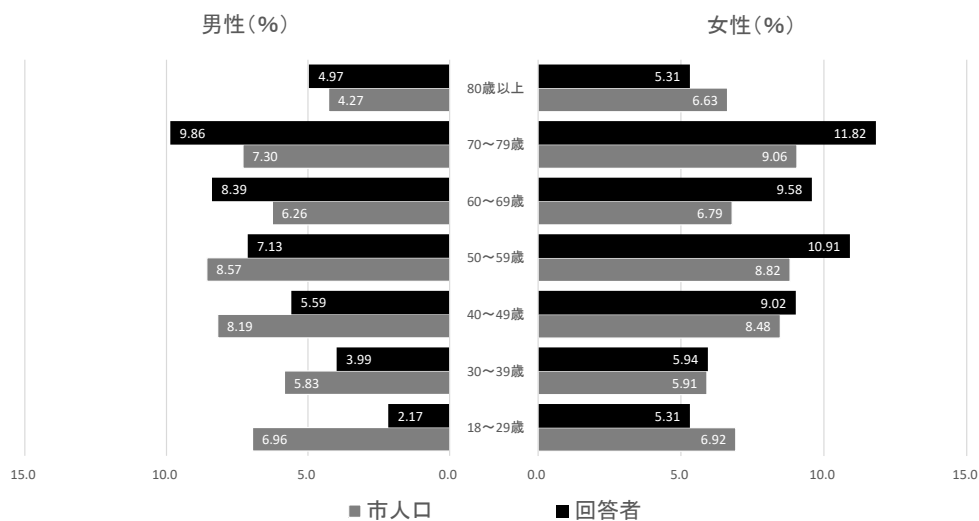
表 枚方市人口(母数)(性別・5歳年齢別)構成比と回答者構成比の比較

令和4年9月1日

	枚方市人口(母数)			総数に対する構成比(%)		回答者数(人)			総数に対する構成比(%)		構成比の差(ポイント)		人口構成比に対する回答者構成比の割合(%)	
	計	男性	女性	男性	女性	合計	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～29歳	46,869	23,499	23,370	6.96	6.92	107	31	76	2.17	5.31	▲ 4.79	▲ 1.61	31.2	76.7
30～39歳	39,641	19,688	19,953	5.83	5.91	142	57	85	3.99	5.94	▲ 1.84	0.03	68.4	100.5
40～49歳	56,304	27,663	28,641	8.19	8.48	209	80	129	5.59	9.02	▲ 2.60	0.54	68.3	106.4
50～59歳	58,723	28,940	29,783	8.57	8.82	258	102	156	7.13	10.91	▲ 1.44	2.09	83.2	123.7
60～69歳	44,061	21,126	22,935	6.26	6.79	257	120	137	8.39	9.58	2.13	2.79	134.0	141.1
70～79歳	55,262	24,661	30,601	7.30	9.06	310	141	169	9.86	11.82	2.56	2.76	135.1	130.5
80歳以上	36,821	14,420	22,401	4.27	6.63	147	71	76	4.97	5.31	0.70	▲ 1.32	116.4	80.1
合計	337,681	159,997	177,684	47.38	52.62	1,430	602	828	42.10	57.90	▲ 5.28	5.28	88.9	110.0

資料:住民基本台帳(令和5年9月1日)

図 住民基本年齢台帳人口（5歳階級）構成比と回答者構成比の比較



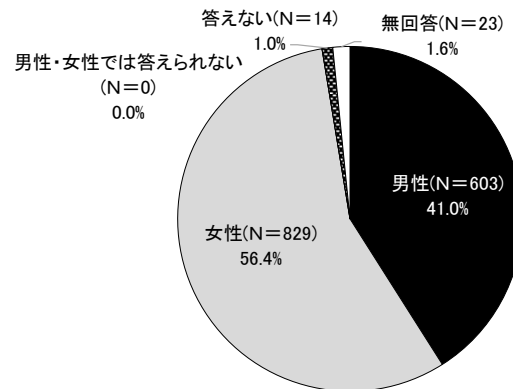
II 市民アンケート調査結果

1. 回答者自身のことについて

問1 あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。

回答者の性別については、「男性」が41.0%、「女性」が56.4%、「男性・女性では答えられない」が0.0%、「答えない」が1.0%となっています。

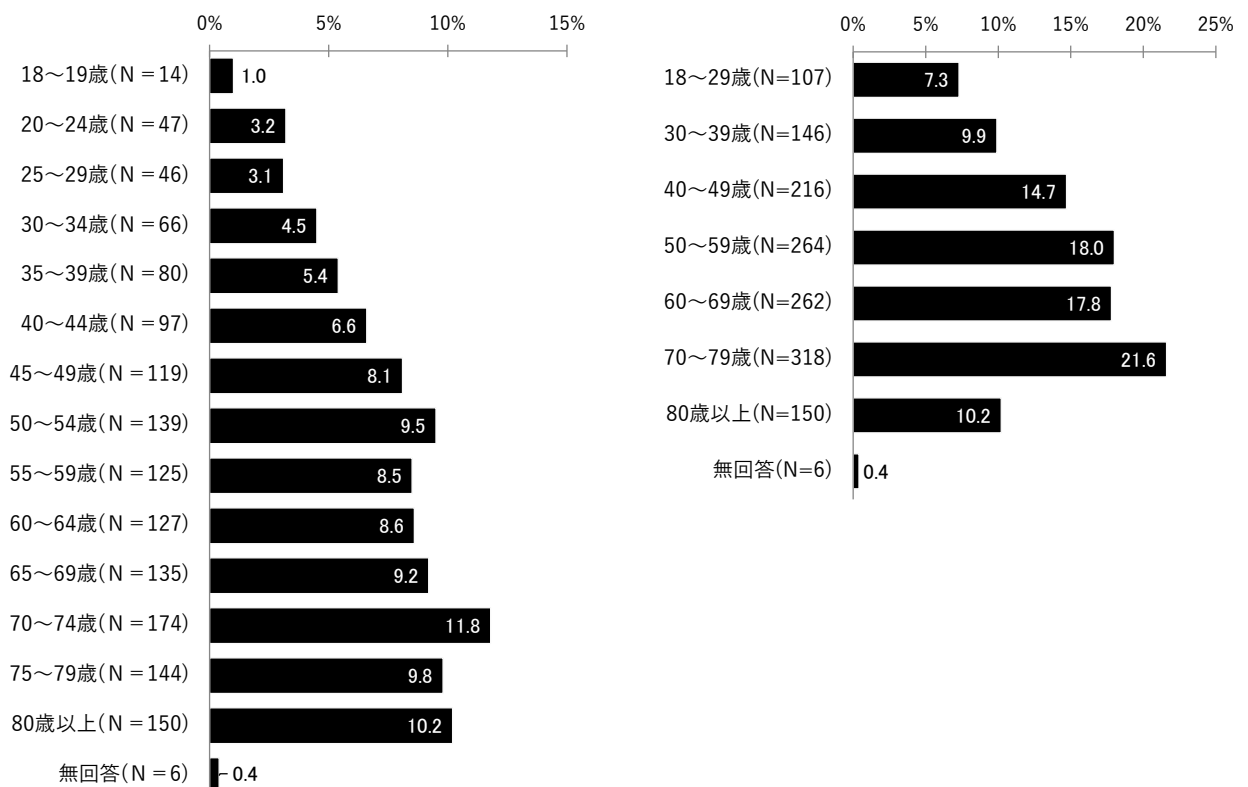
【図 問1 性別 (N=1469)】



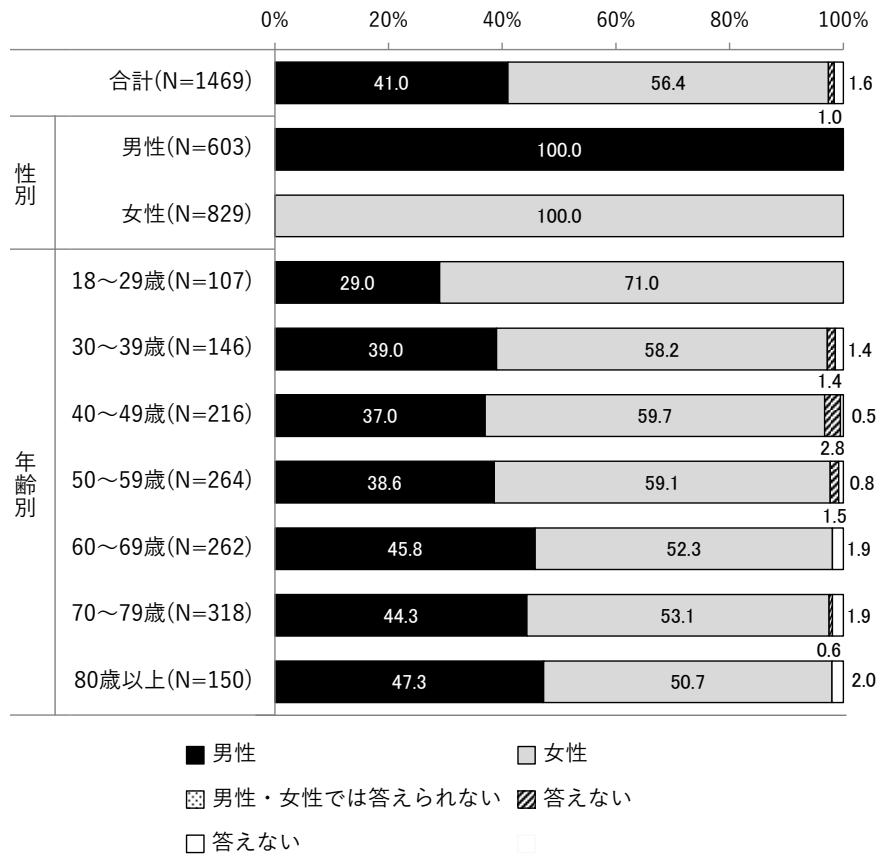
問2 あなたの年齢について、あてはまるものに○をつけてください。

回答者の年齢については、「70～74歳」が11.8%と最も高く、次いで「80歳以上」が10.2%、「75～79歳」が9.8%となっています。

【図 問2 年齢14区分 (N=1469)】 【図 問2 年齢7区分 (N=1469)】



【図 問2 (性別・年齢別) × 性別 (N=1469)】



問3 あなたの職業について、あてはまるものに○をつけてください。

職業については、「勤めている（常勤：管理職・役員以外）」が23.2%と最も高く、次いで「無職（仕事をしたいと思っていない）」が18.0%、「勤めている（派遣・パート・アルバイト）」が17.2%となっています。

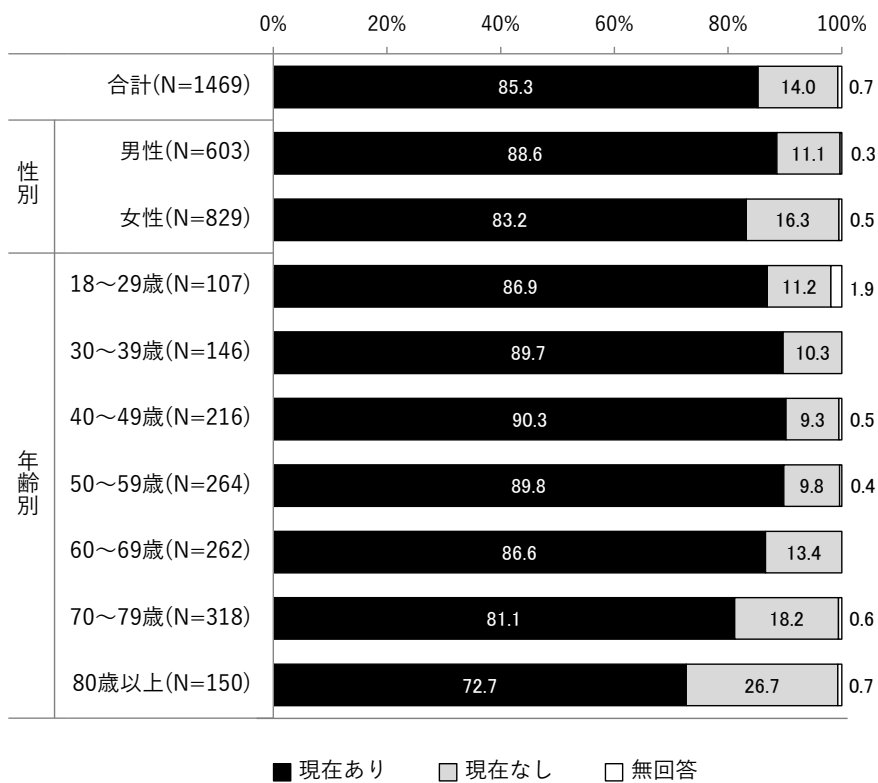
【図 問3 （性別・年齢別）×職業】

		勤めている （会社団体等 の役員）	勤めている （常勤：管理 職・役員以外）	勤めている （派遣・パート・ アルバイト）	自営業 （事業経営・個人商 店など）	専門的知識や技術を生かした 職業に従事	自由業 （個人で、自分の専 門的知識や技術を生かした専 業に従事）	家事・育児・介護など	学生	無職 （求職中）	無職 （仕事をしたいが、現 在は求職していない）	無職 （仕事をしたいと思っ ていない）	その他	無回 答
合計(N=1469)		8.8	23.2	17.2	2.9	2.0	10.9	2.6	1.4	4.6	18.0	6.4	2.0	
性別	男性(N=603)	16.3	30.3	8.6	4.8	3.2		1.8	0.8	5.5	23.5	4.0	1.2	
	女性(N=829)	3.4	18.5	23.2	1.7	1.3	18.5	3.3	1.9	4.1	13.9	8.3	2.1	
年齢別	18～29歳(N=107)	4.7	39.3	10.3			5.6	34.6	2.8	1.9			0.9	
	30～39歳(N=146)	10.3	49.3	17.1	1.4	0.7	12.3	0.7	1.4	1.4			4.1	1.4
	40～49歳(N=216)	13.9	42.1	25.9	2.3	2.8	6.5		1.4	2.3	1.4	0.5	0.9	
	50～59歳(N=264)	20.1	30.7	25.0	5.3	1.1	8.0		1.9	4.2	1.1	1.9	0.8	
	60～69歳(N=262)	5.3	16.8	27.1	2.7	3.4	16.4		1.1	6.1	14.9	4.2	1.9	
	70～79歳(N=318)	2.5	3.1	6.0	4.4	2.2	13.8		1.3	7.5	44.7	11.9	2.5	
	80歳以上(N=150)	2.0		2.0	0.7	2.7	9.3		0.7	5.3	51.3	21.3	4.7	

問4 現在、あなたと一緒に住んでいる方（家族など）はいらっしゃいますか。

同居家族の有無については、「現在あり」が85.3%、「現在なし」が14.0%となっています。

【図 問4 (性別・年齢別) × 同居家族の有無】



2. 自殺の現状について

問5 我が国の自殺者数は令和元年まで10年連続で減少していましたが、令和2年には11年ぶりの増加となり、約2万1,000人の方が亡くなっています。あなたは、毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。

【合計】

年間自殺者数の認知度については、「知っていた」が55.8%、「知らなかった」が43.2%となっています。

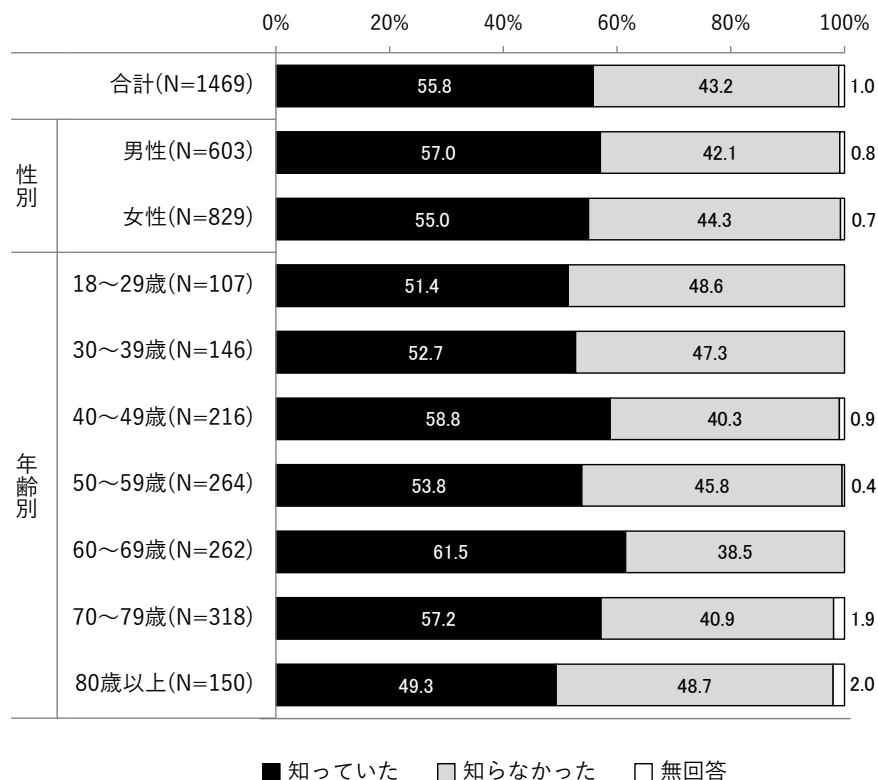
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

「知っていた」でみると、60～69歳(61.5%)が最も高く、「知らなかった」では80歳以上(48.7%)で最も高くなっています。

【図 問5 (性別・年齢別) × 年間自殺者数の認知度】



3. 自殺対策について

問6 あなたは、自殺対策に関する以下の事柄について知っていましたか。次の設問1)から9)について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

【合計】

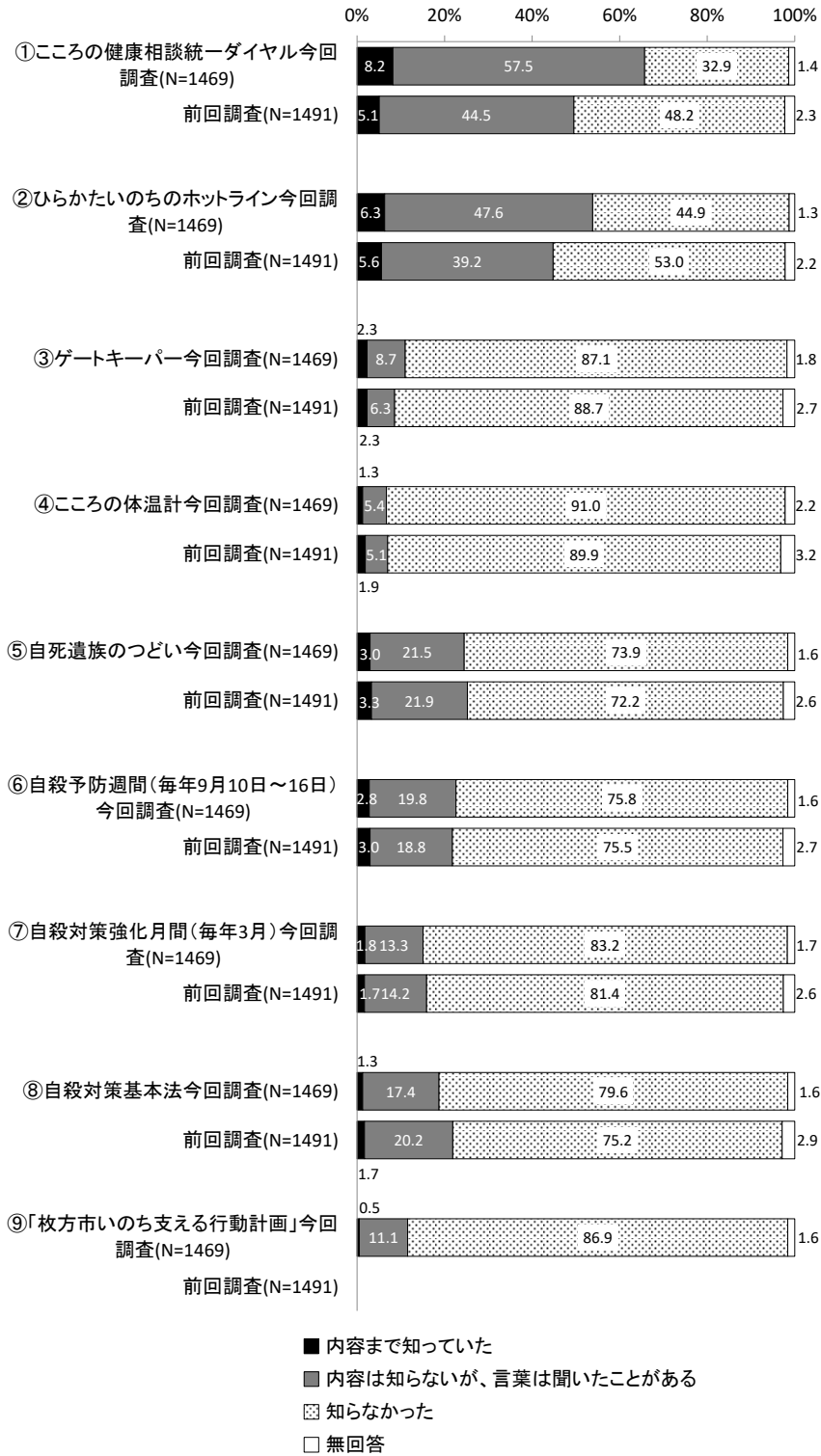
「内容まで知っていた」では、『①こころの健康相談統一ダイヤル』(8.2%)が最も高くなっています。

「内容まで知っていた」と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」と合わせた『言葉を聞いたことがある』で見ると、「①こころの健康相談統一ダイヤル」(65.7%)が最も高く、次いで、「②ひらかた いのちのホットライン」(53.9%)、「⑤自死遺族のつどいの認知度」(24.5%)、「⑥自殺予防週間(毎年9月10日～16日)」(22.6%)となっています。

【前回調査の比較】

『言葉を聞いたことがある』で見ると、『①こころの健康相談統一ダイヤル』は16.2ポイント(49.6%→65.7%)、『②ひらかた いのちのホットラインの認知度』は9.1ポイント(44.8%→53.9%)、前回調査より高くなっています。他は大きな変化はありません。

【図 問 6 (性別・年齢別) × 自殺対策に関する事柄の認知度①～⑨ (今回調査と前回調査の比較)】



問6 ①こころの健康相談統一ダイヤルの認知度

【合計】

「内容まで知っていた」(8.2%)、「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(57.5%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は、65.7%となっています。

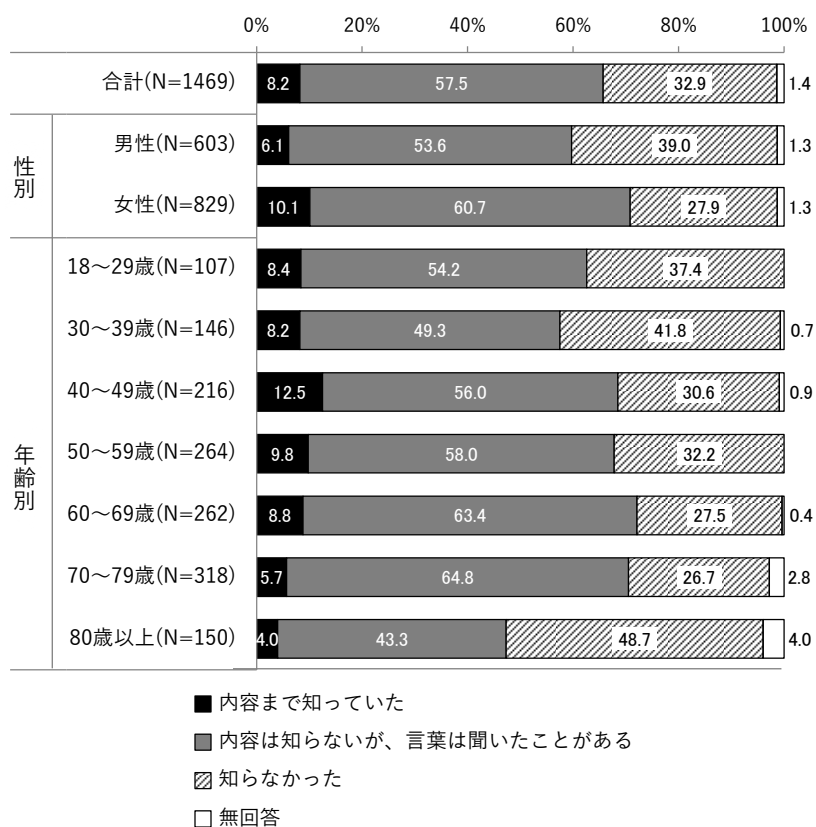
【性別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、女性(70.8%)は男性(59.7%)より11.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、40歳～79歳(67.8%～72.2%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問6 (性別・年齢別) × ①こころの健康相談統一ダイヤルの認知度】



問6 2) ひらかた いのちのホットラインの認知度

【合計】

ひらかた いのちのホットラインの認知度については、「内容まで知っていた」(6.3%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(47.6%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は、53.9%となっています。

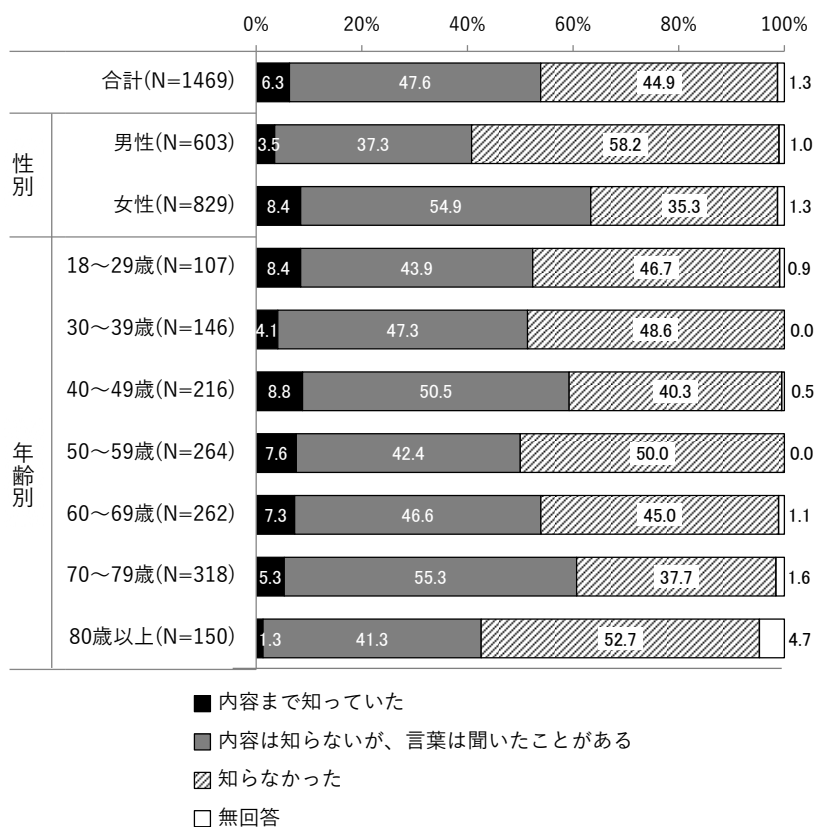
【性別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、女性(63.3%)は男性(40.8%)より22.5ポイント高くなっています。

【年齢別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、70~79歳(60.6%)、40~49歳(59.3%)は、他の年齢層より高くなっています。

【図 問6 (性別・年齢別) × ②ひらかた いのちのホットラインの認知度】



問6 3) ゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人）の認知度

【合計】

「内容まで知っていた」(2.3%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(8.7%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は11.0%となっています。

【性別】

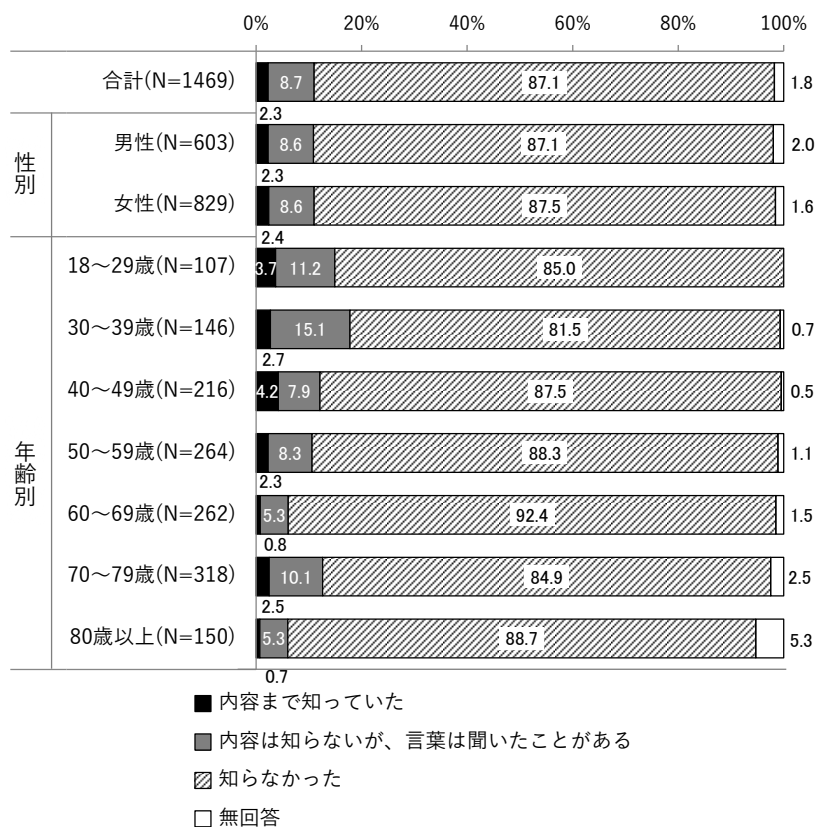
性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、18～39歳、70～79歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問6 (性別・年齢別) ×

③ゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人）の認知度】



問6 4) こころの体温計（ウェブサイトによるメンタルヘルスチェック）の認知度

【合計】

「内容まで知っていた」(1.3%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(5.4%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は6.7%となっています。

【性別】

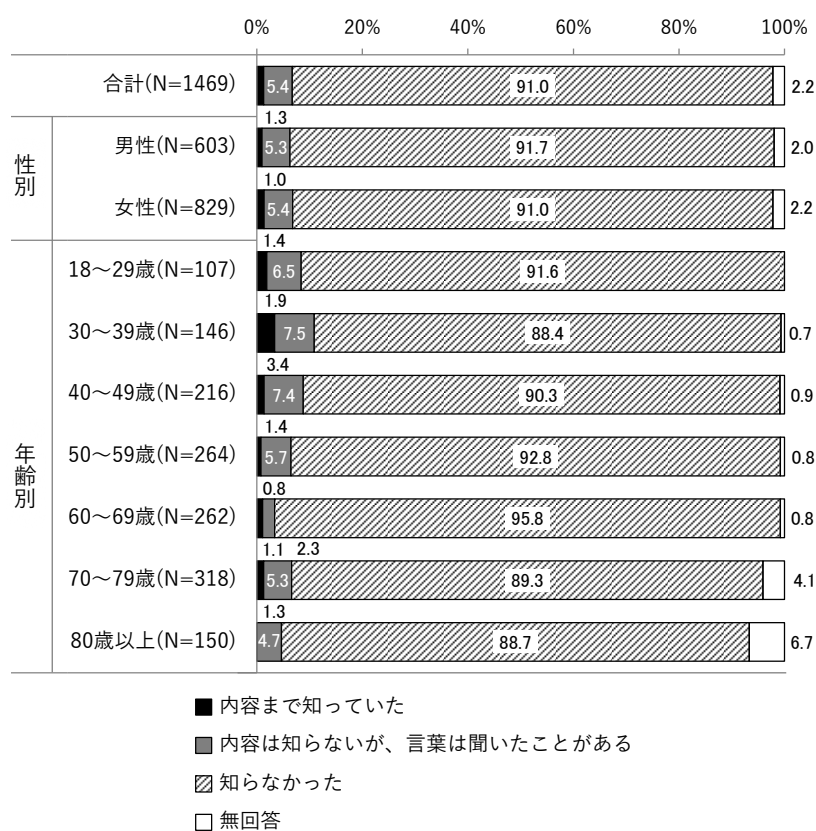
性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

年齢別で大きな差はみられません。

【図 問6 (性別・年齢別) ×

④こころの体温計（ウェブサイトによるメンタルヘルスチェック）の認知度】



問6 5) 自死遺族のつどいの認知度

【合計】

「内容まで知っていた」(3.0%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(21.5%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は24.5%となっています。

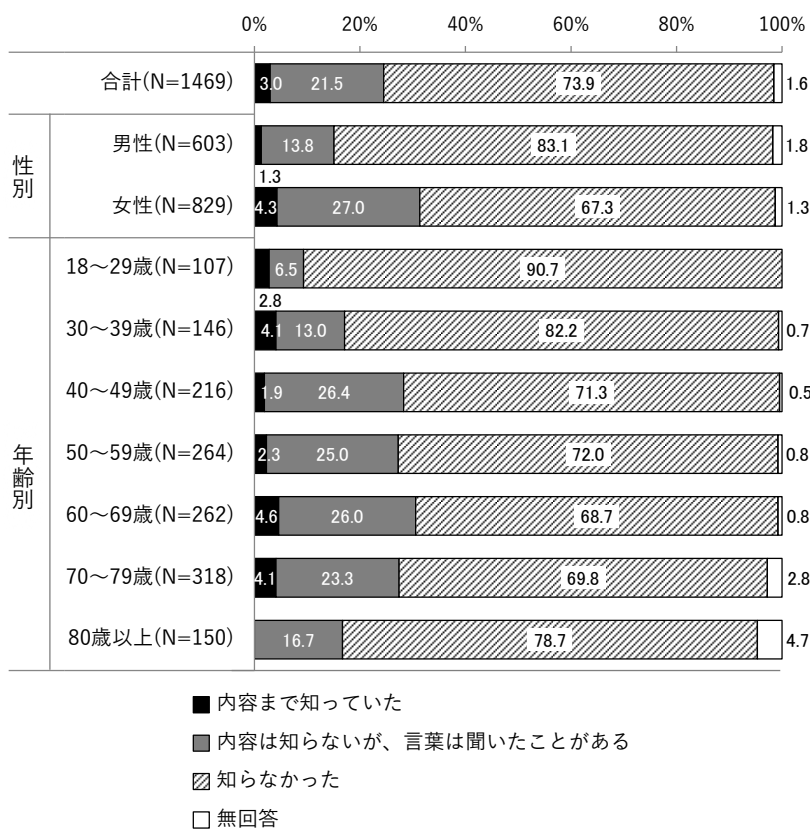
【性別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、女性(31.3%)は男性(15.1%)より16.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、40～79歳は他の年齢より高く、18～29歳(9.3%)は最も低くなっています、

【図 問6 (性別・年齢別) × ⑤自死遺族のつどいの認知度】



問6 6) 自殺予防週間(毎年9月10日～16日)の認知度

【合計】

「内容まで知っていた」(2.8%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(19.8%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は22.6%となっています。

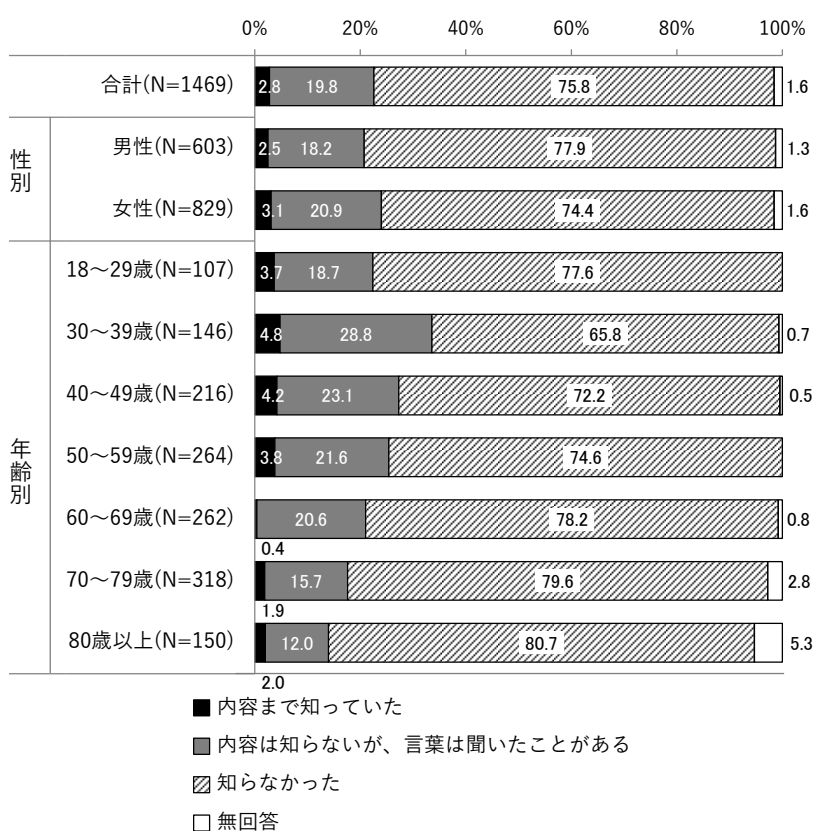
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、30～59歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問6 (性別・年齢別) × ⑥自殺予防週間(毎年9月10日～16日)の認知度】



問6 7) 自殺対策強化月間(毎年3月)の認知度

【合計】

「内容まで知っていた」(1.8%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(13.3%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は15.1%となっています。

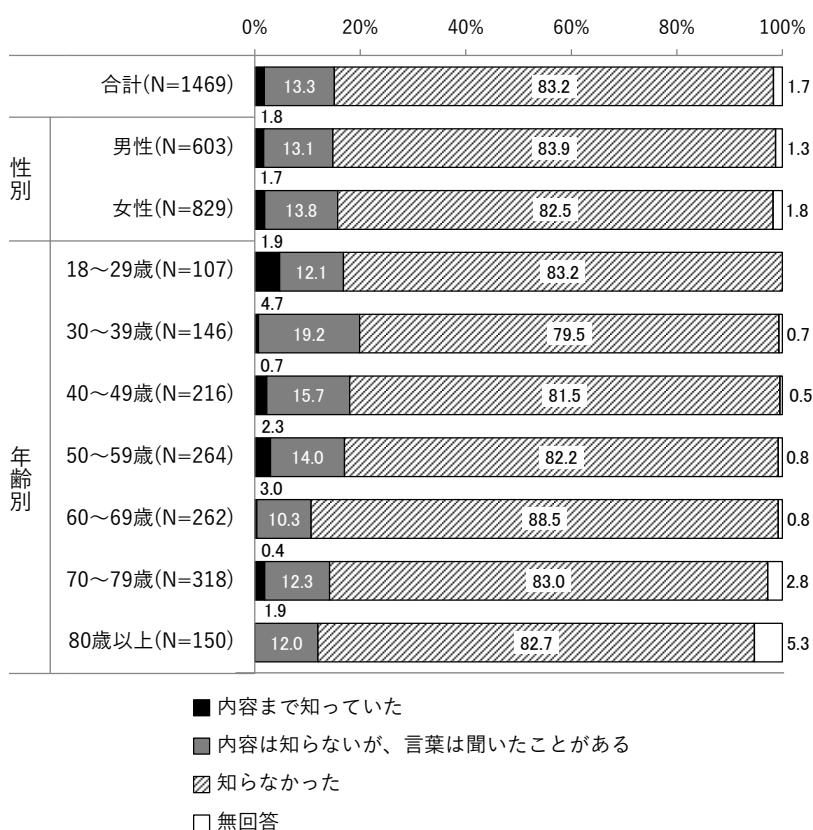
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、18～59歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問6 (性別・年齢別) × ⑦自殺対策強化月間(毎年3月)の認知度】



問6 8) 自殺対策基本法の認知度

【合計】

「内容まで知っていた」(1.3%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(17.4%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は18.7%となっています。

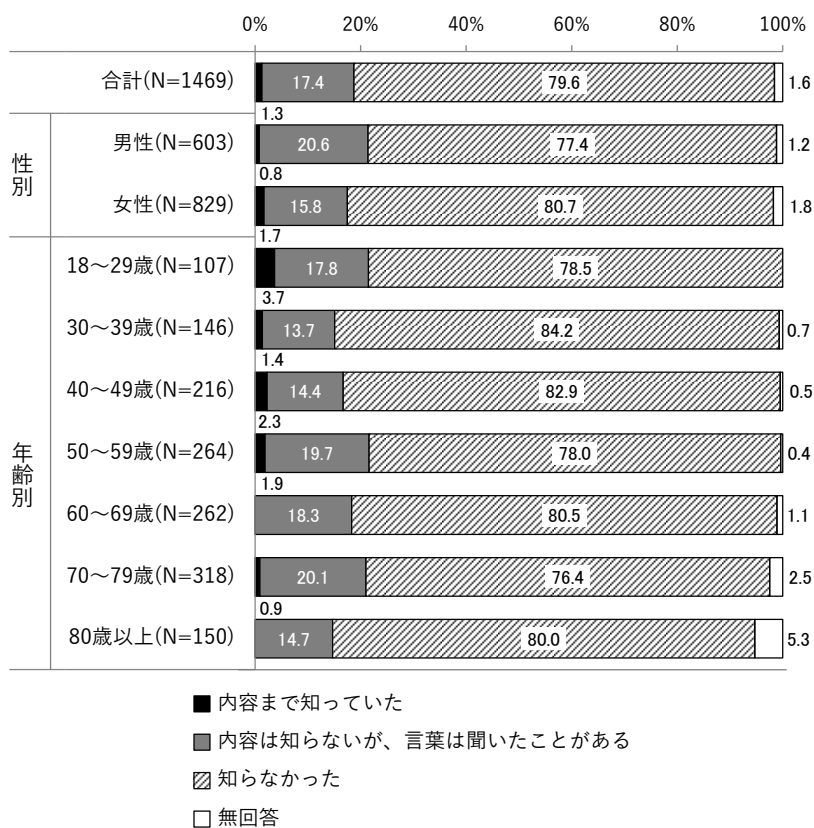
【性別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、50～59歳、18～29歳、70～79歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問6 (性別・年齢別) × ⑧自殺対策基本法の認知度】



問 6 9) 「枚方市いのち支える行動計画」の認知度

【合計】

「内容まで知っていた」(0.5%)と「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」(11.1%)を合わせた『言葉を聞いたことがある』は11.6%となっています。

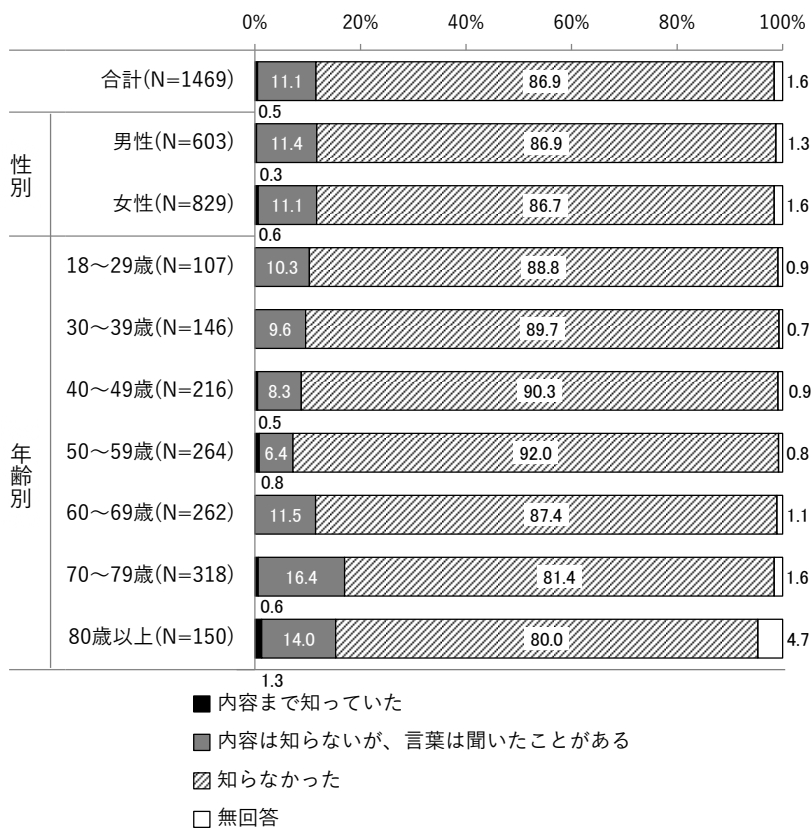
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『言葉を聞いたことがある』でみると、70～80歳以上は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 6 (性別・年齢別) × ⑨ 「枚方市いのち支える行動計画」の認知度】



問7 あなたは、『自死』という言葉を知っていましたか。

【合計】

『自死』という言葉の認知度については、「知っていた」(71.1%)となっています。

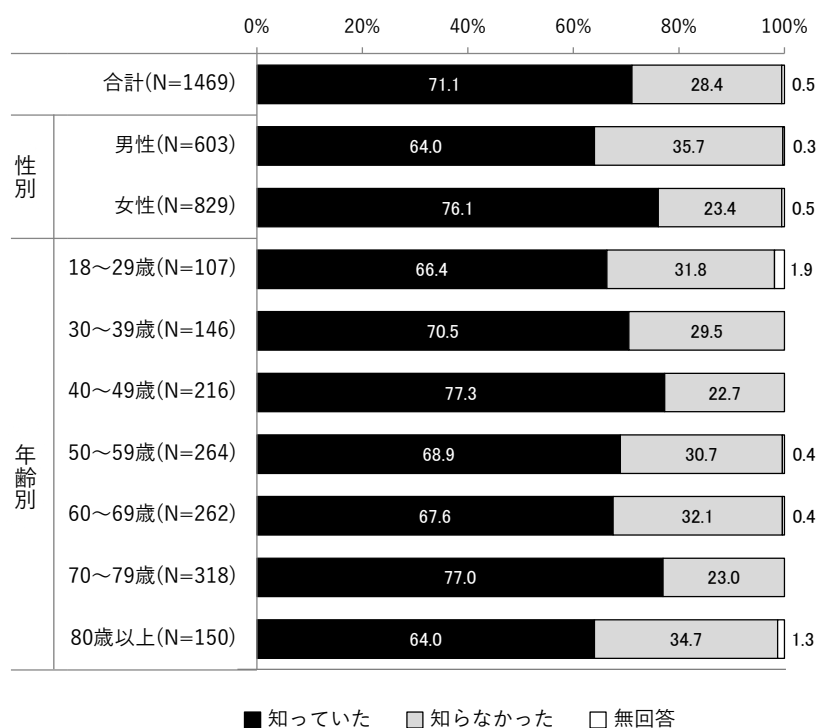
【性別】

「知っていた」で見ると、女性(76.1%)は男性(64.0%)より12.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

「知っていた」で見ると、40～49歳、70～79歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問7 (性別・年齢別) ×あなたは、『自死』という言葉を知っていましたか。】



問 8 自殺対策は自分自身に関わる問題だと思いますか。

【合計】

「そう思う」(15.0%)と「どちらかといえばそう思う」(21.7%)を合わせた『そう思う』は 36.7%、
「そう思わない」(24.2%)と「どちらかといえばそう思わない」(18.3%)とを合わせた『そう思
わない』は 42.5%で、『そう思わない』は『そう思う』より 12.5 ポイント高くなっています。

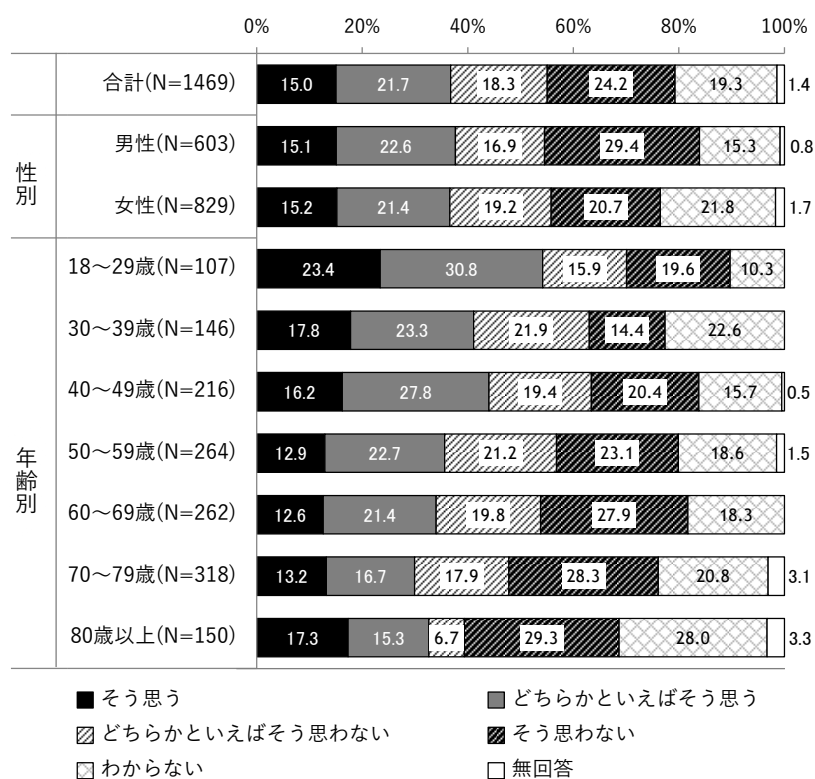
【性別】

『そう思う』で見ると、性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『そう思う』で見ると、18～29 歳 (54.2%)、30～49 歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 8 (性別・年齢別) × 自殺対策は自分自身に関わる問題だと思いますか。】



4. 悩みの相談について

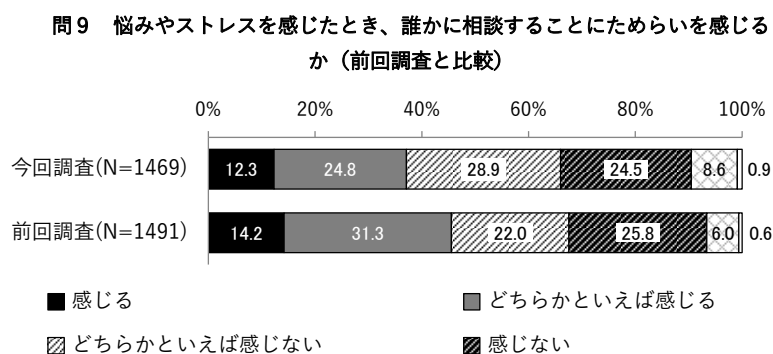
問9 あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたとき、誰かに相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じますか。

【合計】

「感じる」(12.3%)と「どちらかといえば感じる」(24.8%)を合わせた『感じる』は37.1%となっています。「感じない」(24.5%)と「どちらかといえば感じない」(28.9%)を合わせた『感じない』は53.4%となっています。

【前回調査と比較】

『感じる』で見ると、前回調査より8.4ポイント(45.5%→37.1%)減少し、『感じない』で見ると、前回調査より5.6ポイント(47.8%→53.4%)高くなっています。



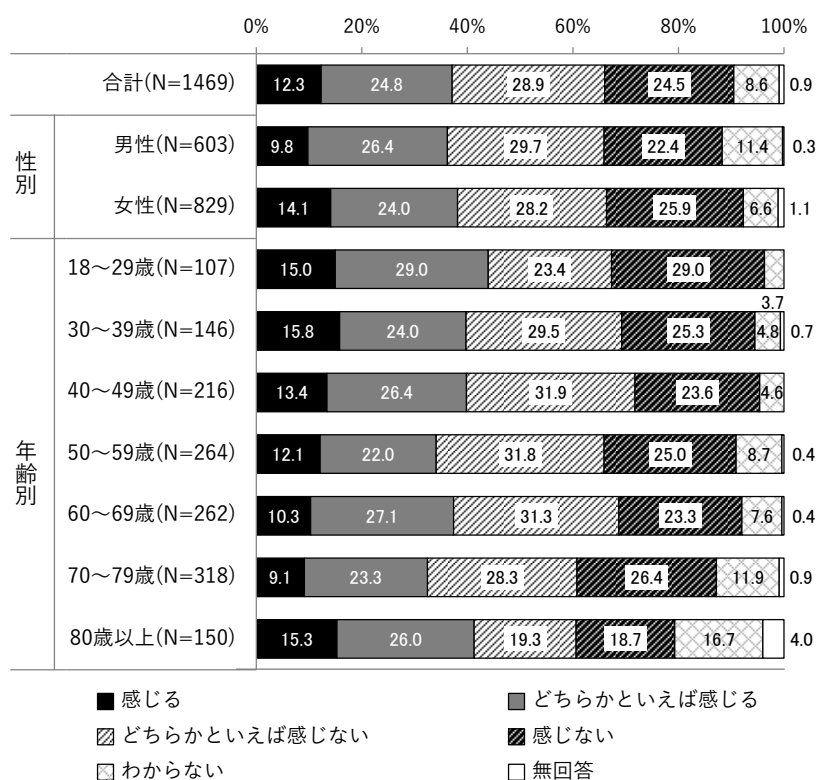
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『感じる』でみると、18～29歳、80歳以上は他の年齢層より高くなっています。

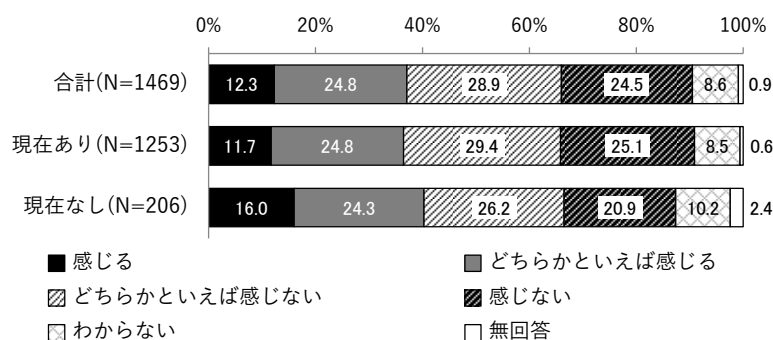
【図 問9 (性別・年齢別) ×あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたとき、誰かに相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じますか。】



【問4 同居家族の有無別】

『感じる』でみると、「(同居家族) 現在あり」と「(同居家族) 現在なし」は大きな差はみられません。

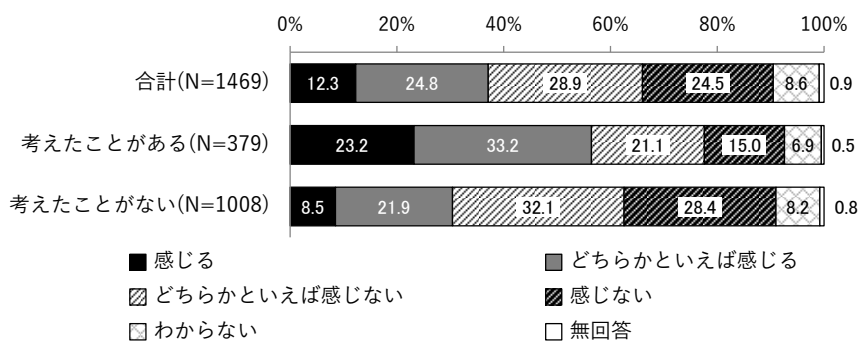
問4 同居家族の有無×問9 悩みやストレスを感じたとき、誰かに相談することにためらいを感じるか



【問 12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

『感じる』でみると、「(自ら命を絶ちたいと) 考えたことがある」(56.4%) は、「(自ら命を絶ちたいと) 考えたことがない」(30.4%) より 26.0 ポイント高くなっています。

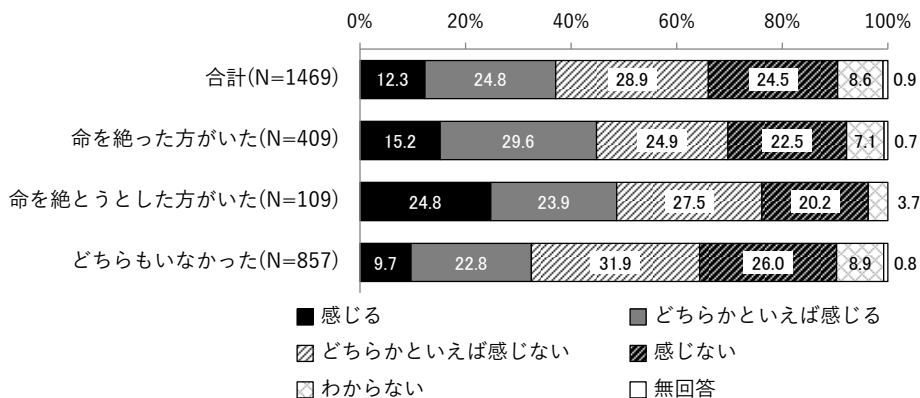
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無×問9 悩みやストレスを感じたとき、誰かに相談することにとめらるを感じるか



【問 13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

『感じる』でみると、「命を絶った方がいた」(44.8%) 「命を絶とうとした方がいた」(48.7%) は、「どちらもいなかった」(32.5%)より高くなっています。

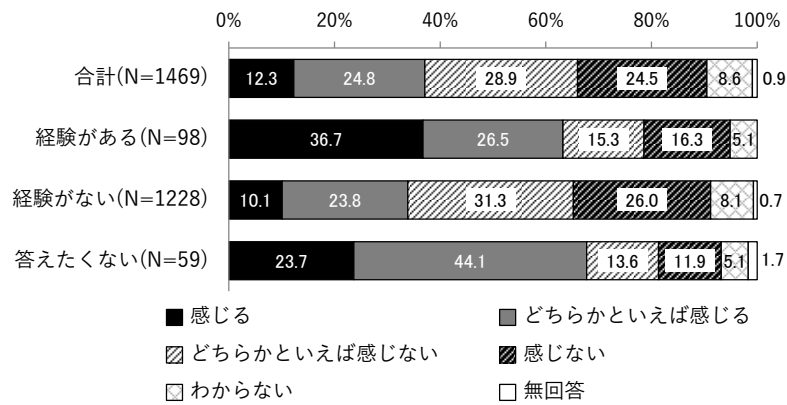
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか×問9 悩みやストレスを感じたとき、誰かに相談することにとめらるを感じるか



【問 14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

『感じる』でみると、「経験がある」(63.2%)「答えたくない」(67.8%)は、「経験がない」(33.9%)より高くなっています。

問14 自ら命を絶とうとした経験の有無×問9 悩みやストレスを感じたとき、誰かに相談することによりためらいを感じるか



問9-1 誰かに悩みを相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じる理由について、あてはまるもの全てに○をつけてください。(問9で「1. 感じる」、「2. どちらかといえば感じる」と答えた方のみ)

【合計】

「家族や友達などの身近な人には相談したくない(できない)悩みだから」(41.3%)が最も高く、次いで「自分の悩みを解決できるところはないと思っているから」(39.4%)、「病院や支援機関等(行政の相談窓口、保健所など)の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高いと感じるから」(29.0%)となっています。

【性別】

「過去に身近な人に相談したが、解決しなかった(嫌な思いをした)から」、「病院や支援機関等(行政の相談窓口、保健所など)の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高いと感じるから」でみると、女性は男性より高くなっています。

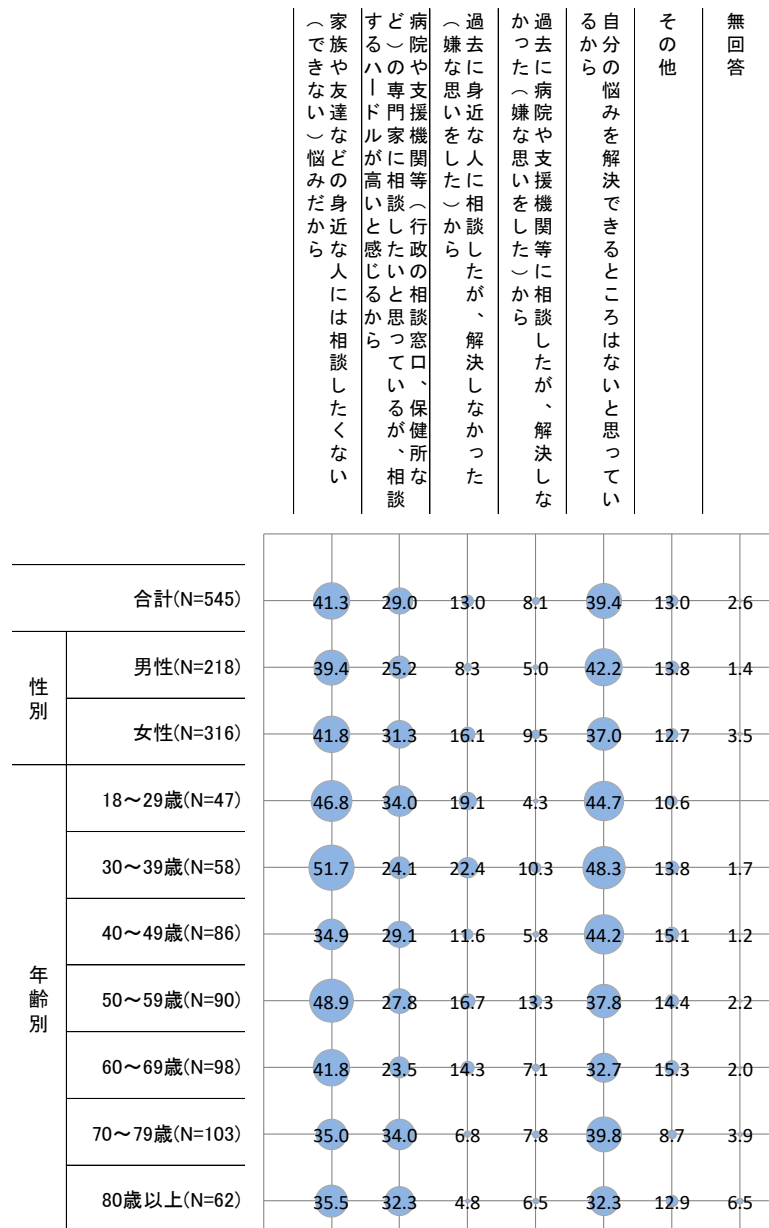
「自分の悩みを解決できるところはないと思っているから」でみると、男性は女性より高くなっています。

【年齢別】

「家族や友達などの身近な人には相談したくない(できない)悩みだから」でみると、「30～39歳」(51.7%)、「50～59歳」(48.9%)、「18～29歳」(46.8%)は他の年齢層より高くなっています。

「自分の悩みを解決できるところはないと思っているから」でみると、「18～49歳」は他の年齢層より高くなっています

【図 問9-1 (性別・年齢別) ×誰かに悩みを相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じる理由について、あてはまるもの全てに○をつけてください。】



【問4 同居家族の有無別】

【問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

【問14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

×問9-1 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにとめらる理由

家族や友達などの身近な人（できない）に悩みだから	病院や支援機関等の専門家（行政の相談窓口、保健所など）に相談したいと思ってるが、相談しなかった	過去に身近な人に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から	過去に病院や支援機関等に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から	自分の悩みを解決できることはないと思ってるから	その他	無回答
--------------------------	---	----------------------------------	--------------------------------------	-------------------------	-----	-----

合計 (N=545)	41.3	29.0	13.0	8.1	39.4	13.0	2.6
問4 同居家族 現在あり (N=457)	41.8	29.8	13.6	7.2	36.8	14.4	2.6
問4 同居家族 現在なし (N=83)	41.0	25.3	10.8	13.3	53.0	6.0	1.2
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えたことがある (N=214)	53.3	29.9	21.0	13.6	46.3	11.2	0.5
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えたことがない (N=307)	33.6	27.7	7.2	4.6	35.5	13.7	3.6
問13 これまでに周りで命を絶った方がいた (N=183)	35.0	24.0	14.2	12.6	42.1	14.2	1.1
問13 これまでに周りで命を絶とうとした方がいた (N=53)	49.1	24.5	26.4	7.5	47.2	7.5	
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がどちらもない (N=278)	44.6	32.4	9.4	6.1	37.1	13.7	3.2
問14 自ら命を絶とうとした経験がある (N=62)	64.5	29.0	33.9	27.4	50.0	9.7	1.6
問14 自ら命を絶とうとした経験がない (N=416)	38.2	26.0	8.9	5.0	37.7	13.9	2.9
問14 自ら命を絶とうとした経験を答えたくない (N=40)	40.0	47.5	22.5	15.0	40.0	10.0	

問 10 あなたの周囲の人たちとの関係について、お聞きします。あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人は、あなたの周囲にいますか。

【合計】

「そう思う」(49.4%)と「どちらかといえばそう思う」(32.1%)を合わせた『そう思う』は81.5%となっています。

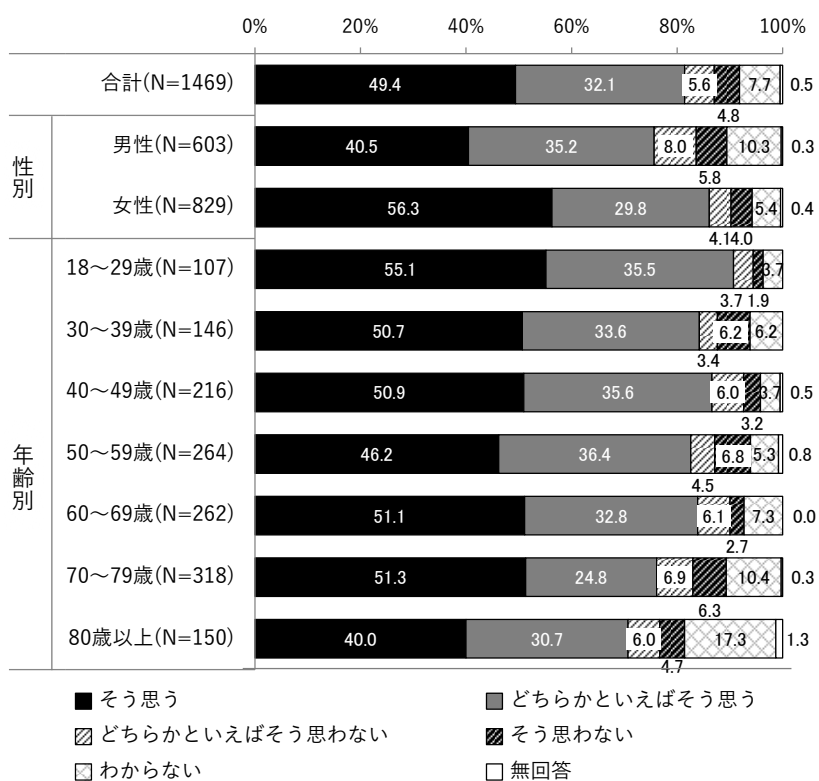
【性別】

『そう思う』で見ると、女性(86.1%)は男性(75.7%)よりのほうが10.4ポイント高くなっています。

【年齢別】

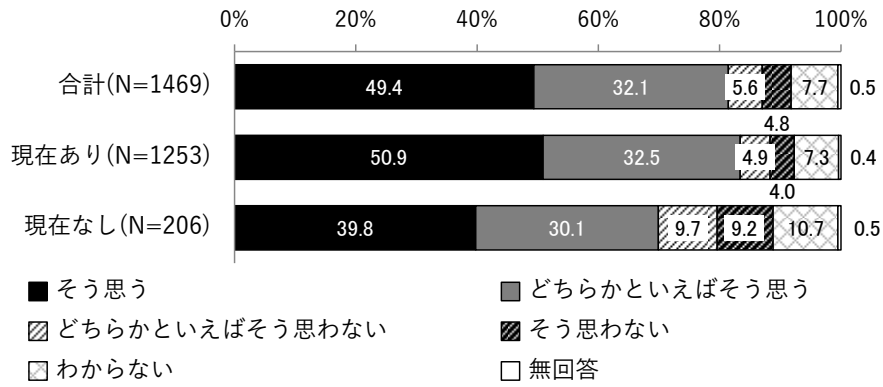
『そう思う』で見ると、80歳以上(70.7%)は他の年齢層より低くなっています。

【図 問 10 (性別・年齢別)×あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人は、あなたの周囲にいますか。】



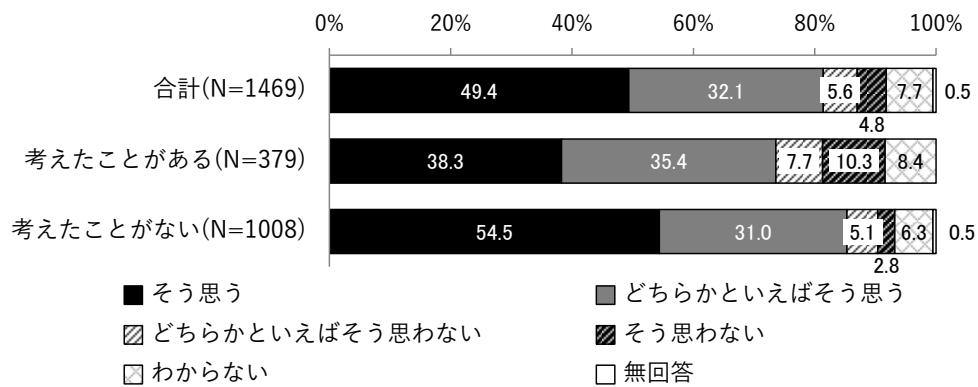
【問 4 同居家族の有無別】

問 4 同居家族の有無×問10 不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人が周囲にいるか

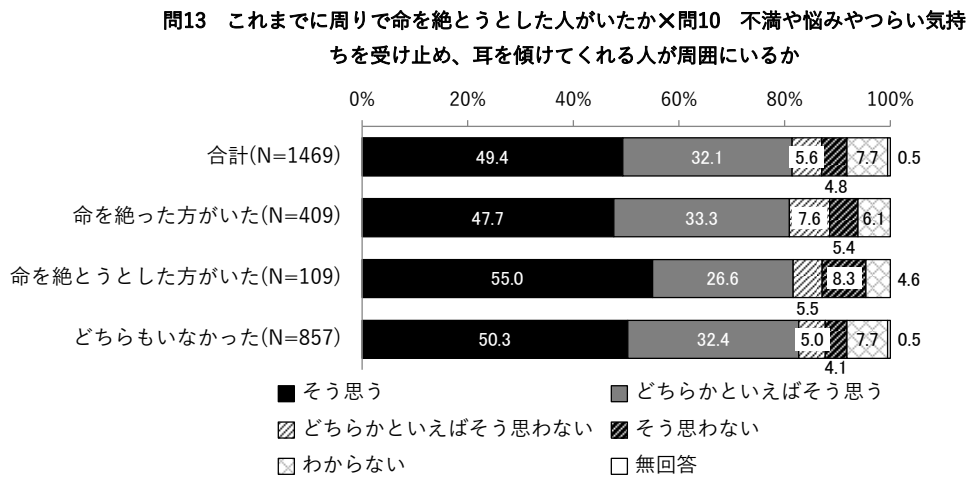


【問 12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

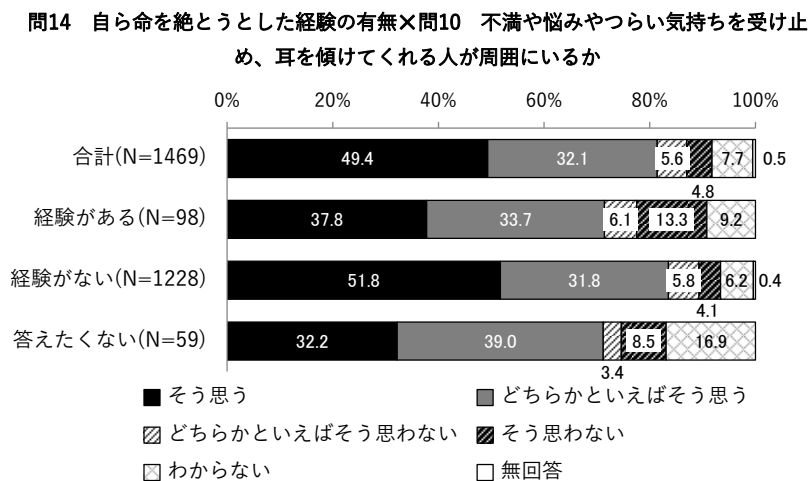
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無×問10 不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人が周囲にいるか



【問 13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】



【問 14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】



5. 自殺やうつについて

問 11 あなたは、自殺についてどのように思いますか。次の設問1) から6) について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

【合計】

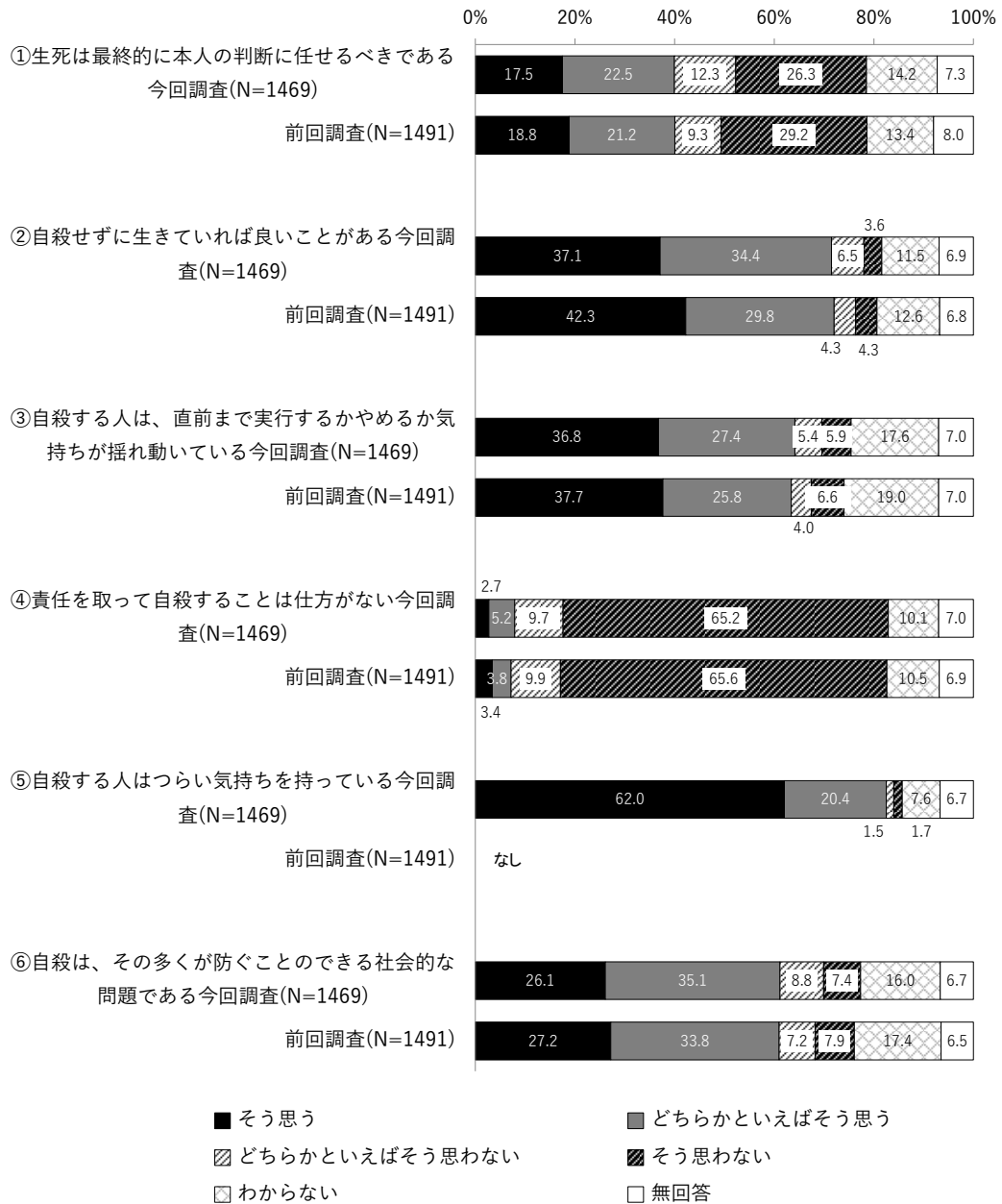
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』でみると、『⑤自殺する人はつらい気持ちを持っている』(82.4%) が最も高く、次いで『②自殺せずに生きていれば良いことがある』(71.5%)、『③自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている』(64.2%) となっています。

「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』でみると、『④責任を取って自殺することは仕方がない』(74.9%)、『①生死は最終的に本人の判断に任せるべきである』(38.6%) となっています。

【前回調査と比較】

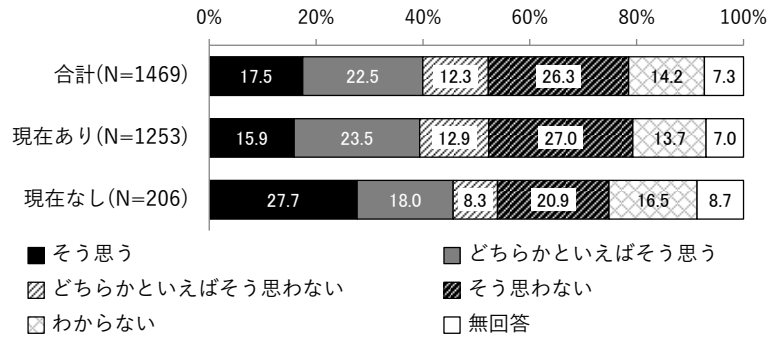
今回調査は前回調査と比較して、各項目とも大きな変化はみられません。

【図 問 11 (性別・年齢別) × ①～⑥あなたは、自殺についてどのように思いますか。】

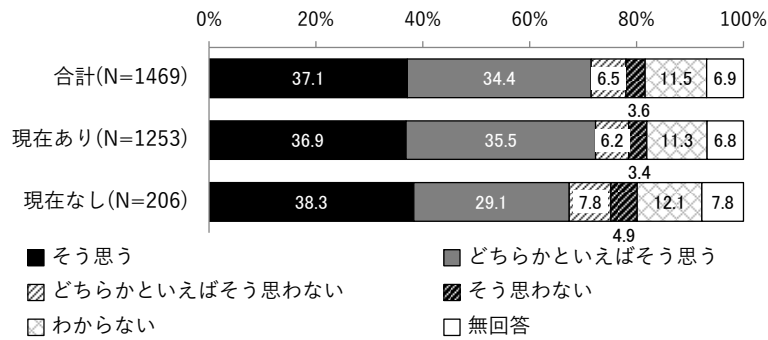


【問4 同居家族の有無別】

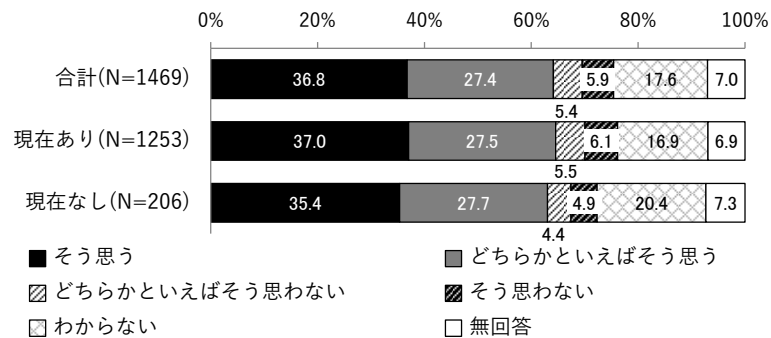
問4 同居家族の有無×問11① 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである



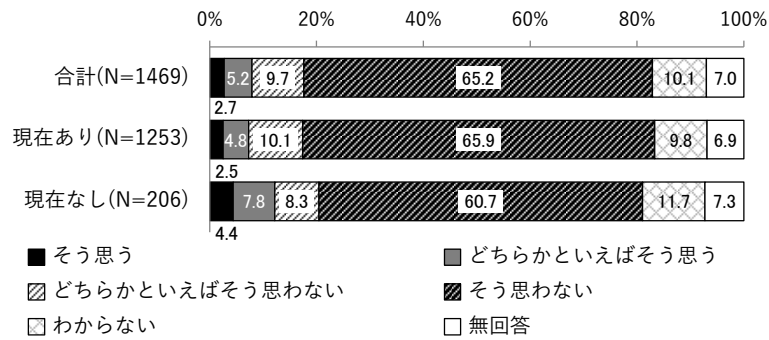
問4 同居家族の有無×問11② 自殺せずに生きていけば良いことがある



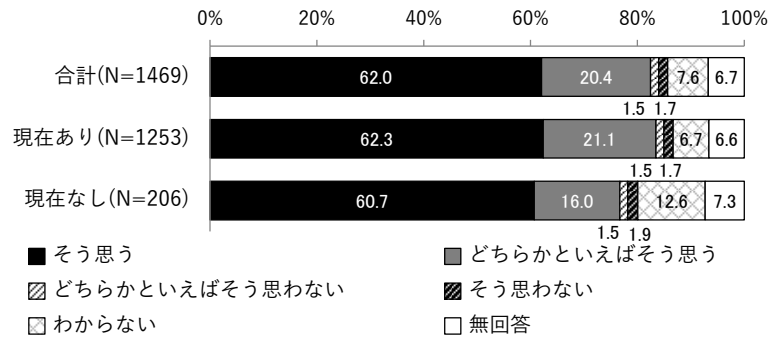
問4 同居家族の有無×問11③ 自殺についての考え③ 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている



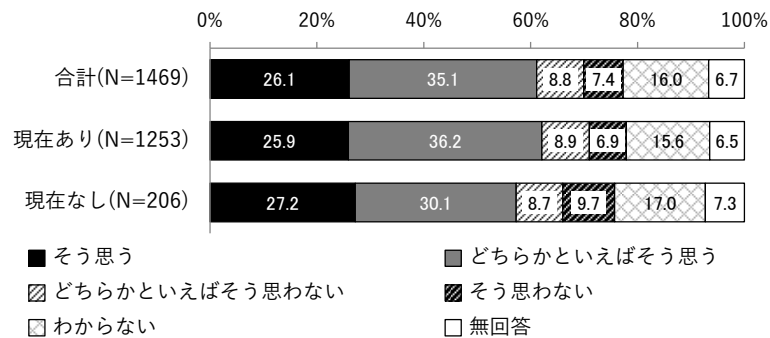
問4 同居家族の有無×問11④責任を取って自殺することは仕方ない



問4 同居家族の有無×問11⑤自殺する人はつらい気持ちを持っている

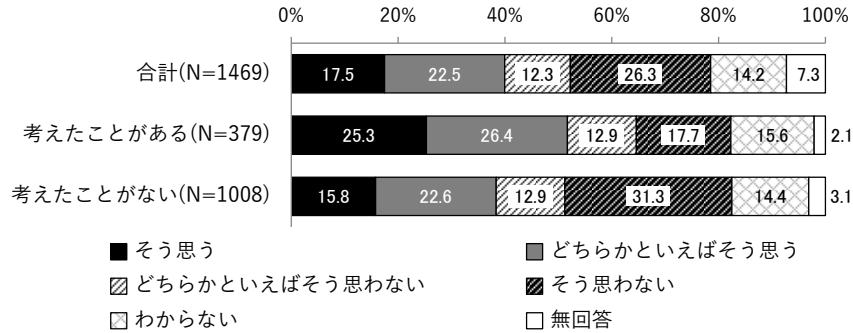


問4 同居家族の有無×問11⑥自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である

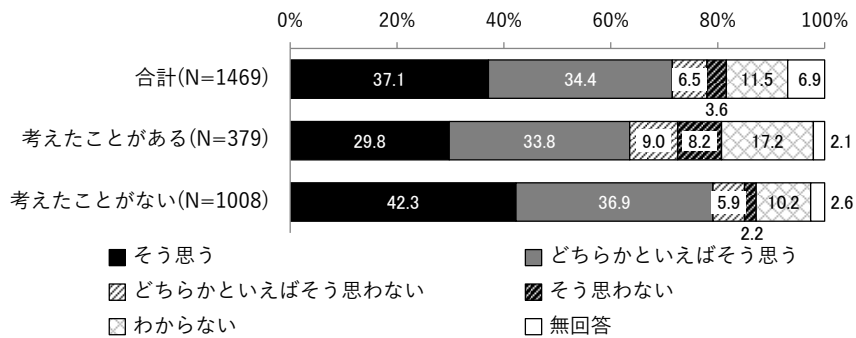


【問 12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無×問11① 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである

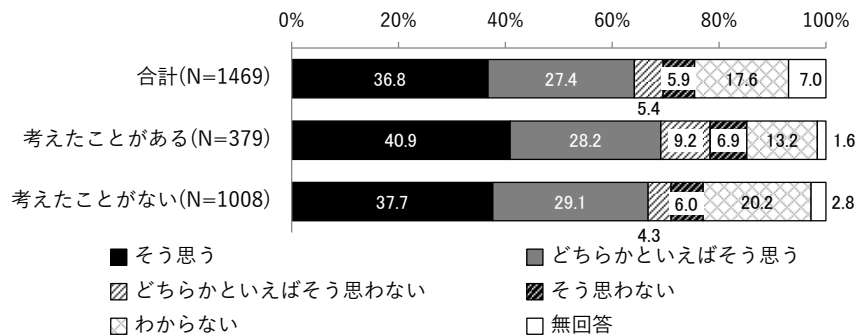


問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無×問11② 自殺せずに生きていけば良いことがある

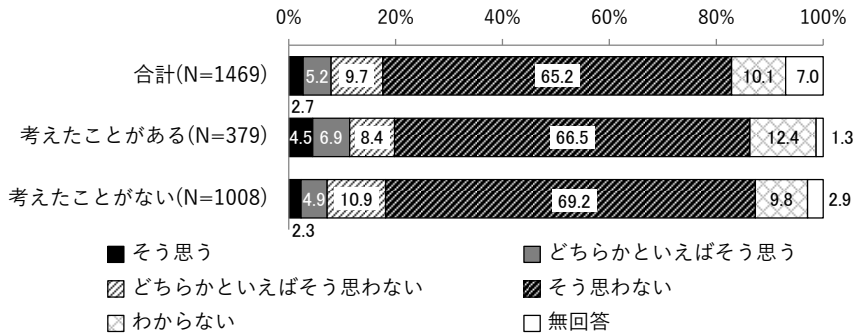


問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無×問11

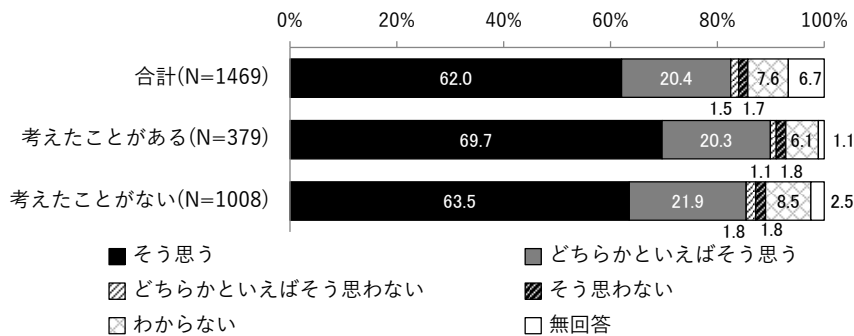
③ 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている



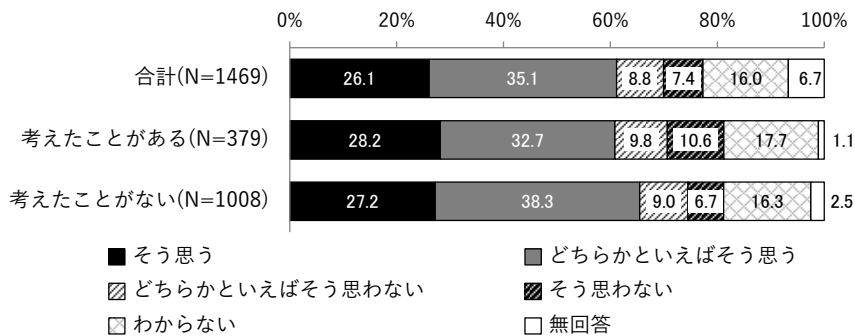
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無×問11④ 責任を取って自殺することは仕方がない



問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無×問11⑤ 自殺する人はつらい気持ちを持っている

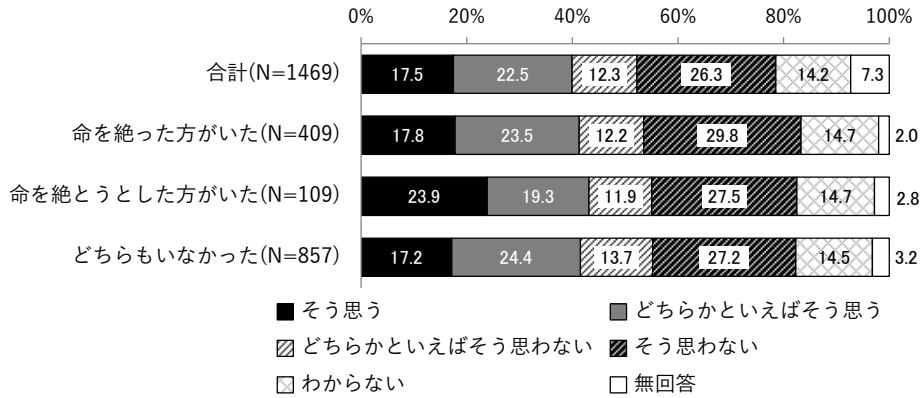


問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無×問11⑥ 自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である

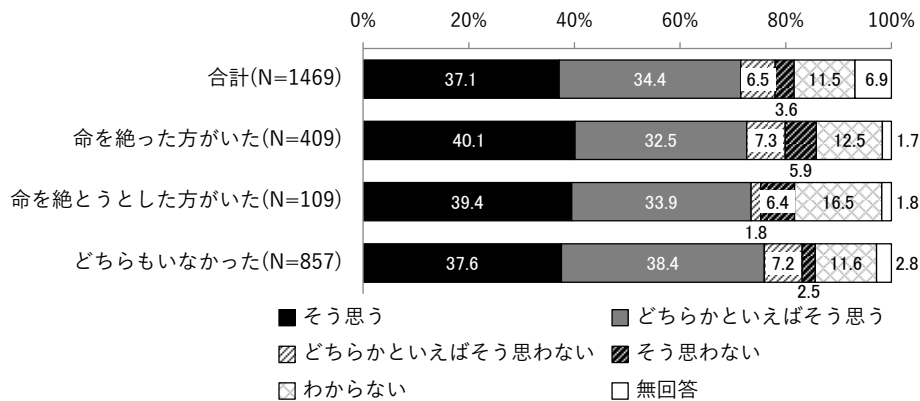


【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

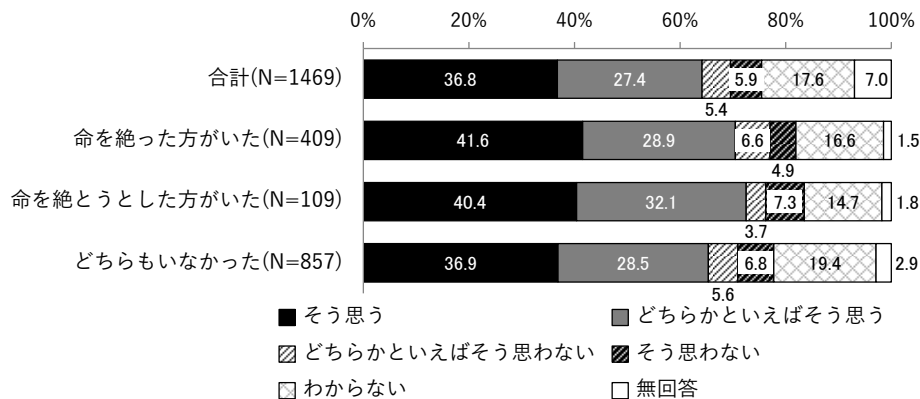
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか×問11① 自殺についての考え①
生死は最終的に本人の判断に任



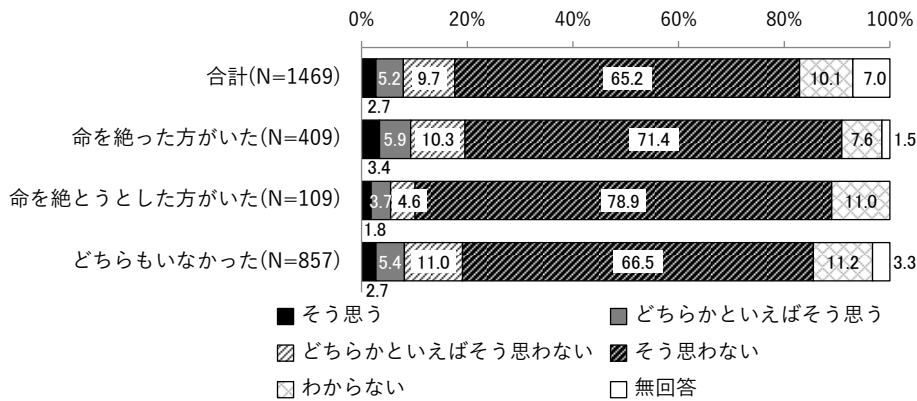
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか×問11② 自殺についての考え②
自殺せずに生きていれば良いことがある



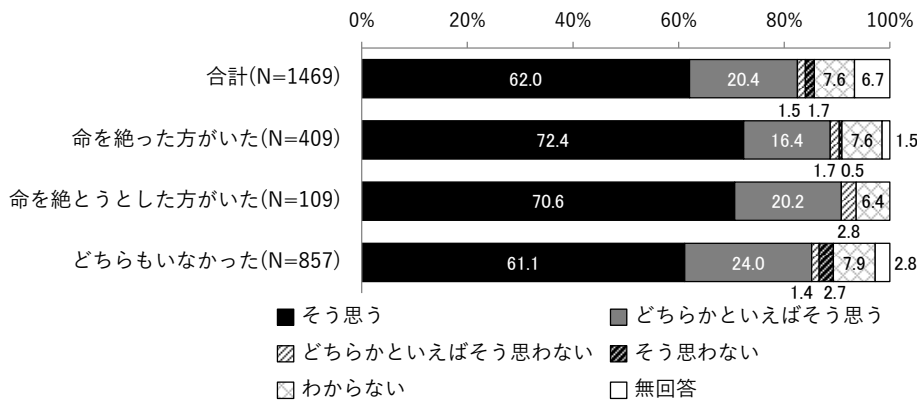
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか×問11③ 自殺についての考え③
自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ



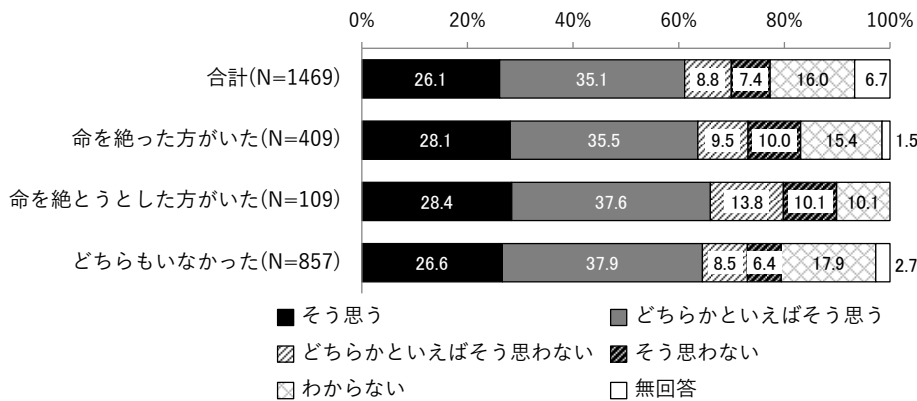
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか×問11④ 自殺についての考え④
責任を取って自殺することは仕方がない



問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか×問11⑤ 自殺についての考え⑤
自殺する人はつらい気持ちを持っている

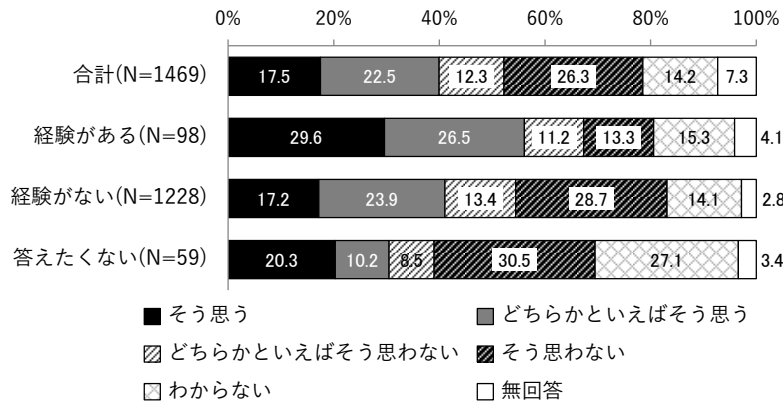


問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか×問11⑥ 自殺についての考え⑥
自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である

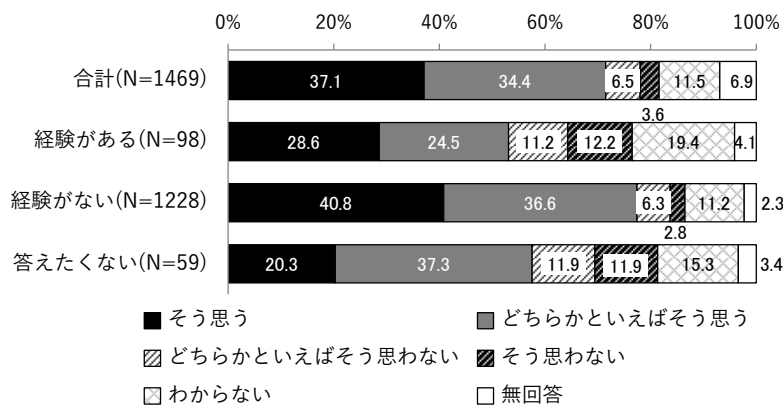


【問 14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

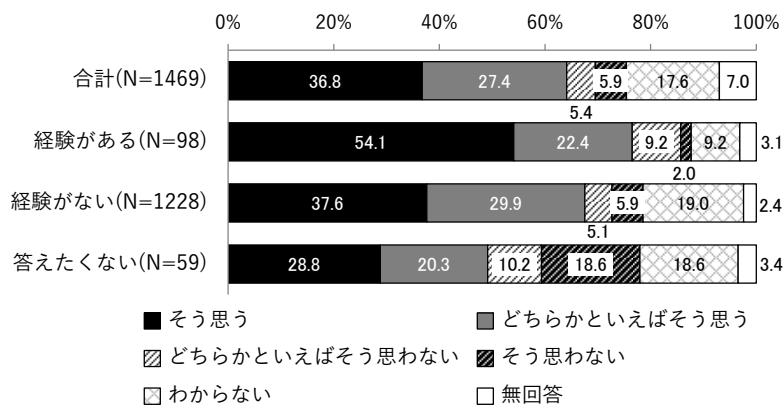
問14 自ら命を絶とうとした経験の有無×問11① 自殺についての考え① 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである



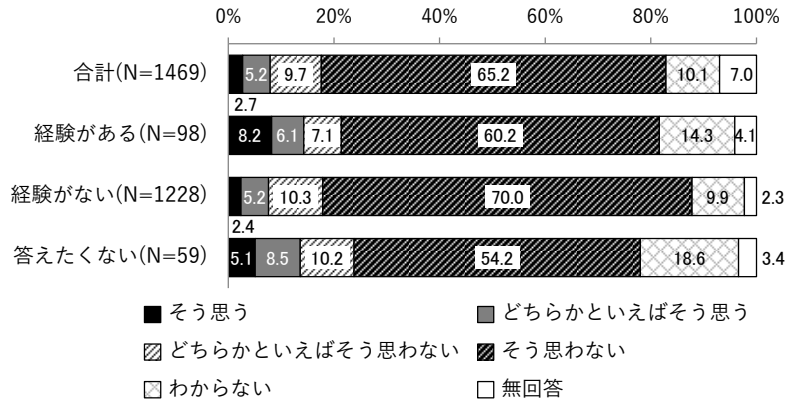
問14 自ら命を絶とうとした経験の有無×問11② 自殺についての考え② 自殺せずに生きていけば良いことがある



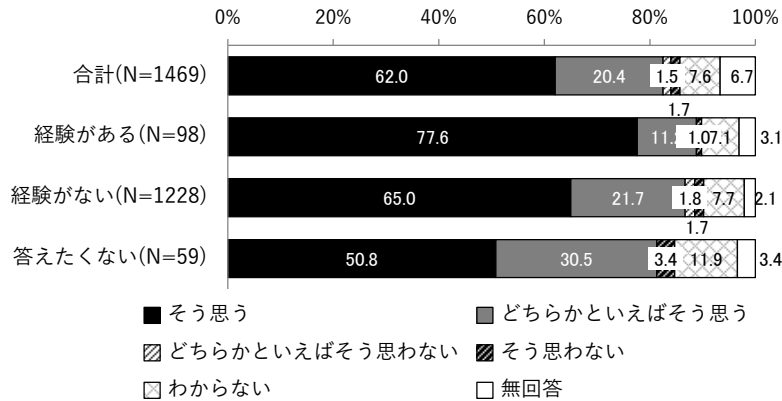
問14 自ら命を絶とうとした経験の有無×問11③ 自殺についての考え③ 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている



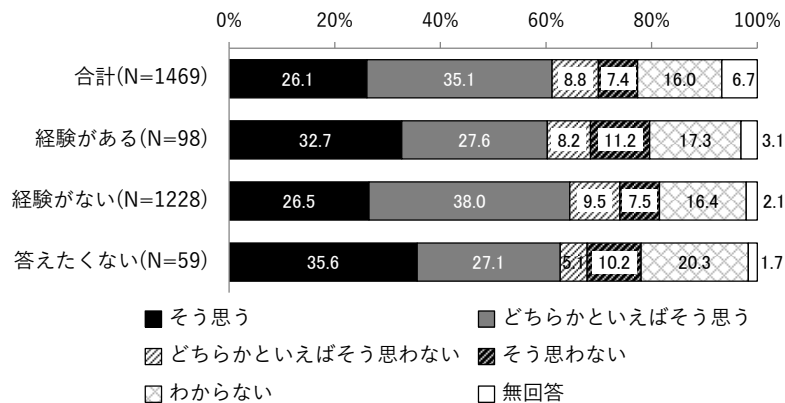
問14 自ら命を絶とうとした経験の有無×問11④ 自殺についての考え④ 責任を取って自殺することは仕方がない



問14 自ら命を絶とうとした経験の有無×問11⑤ 自殺についての考え⑤ 自殺する人はつらい気持ちを持っている



問14 自ら命を絶とうとした経験の有無×問11⑥ 自殺についての考え⑥ 自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である



問 11 1) 生死は最終的に本人の判断に任せるべきであるという考えについて

【合計】

「そう思う」(17.5%)と「どちらかといえばそう思う」(22.5%)を合わせた『そう思う』は40.0%となっています。

「そう思わない」(26.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(12.3%)を合わせた『そう思わない』は38.6%となっています。

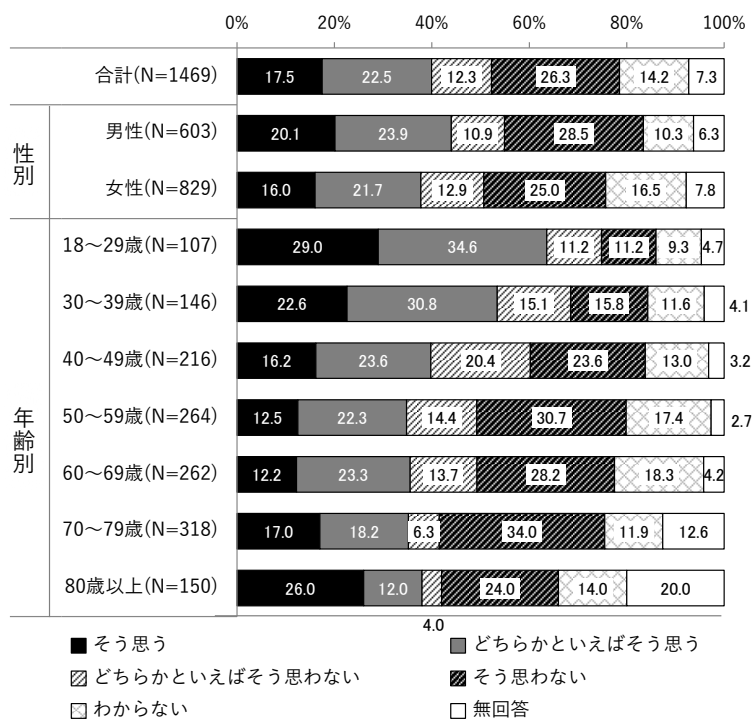
【性別】

『そう思う』で見ると、男性(44.0%)は女性(37.7%)より6.3ポイント高くなっています。

【年齢別】

『そう思う』で見ると、18～29歳(63.6%)から50～59歳までは年齢が高くなるに従って低下し、60歳以上では50～59歳と同程度となっています。

【図 問 11 (性別・年齢別) × ①生死は最終的に本人の判断に任せるべきである】



問 11 2) 自殺せずに生きていけば良いことがあるという考えについて

【合計】

「そう思う」(37.1%)と「どちらかといえばそう思う」(34.4%)を合わせた『そう思う』は71.5%となっています。

「そう思わない」(3.6%)と「どちらかといえばそう思わない」(6.5%)を合わせた『そう思わない』は10.1%となっています。

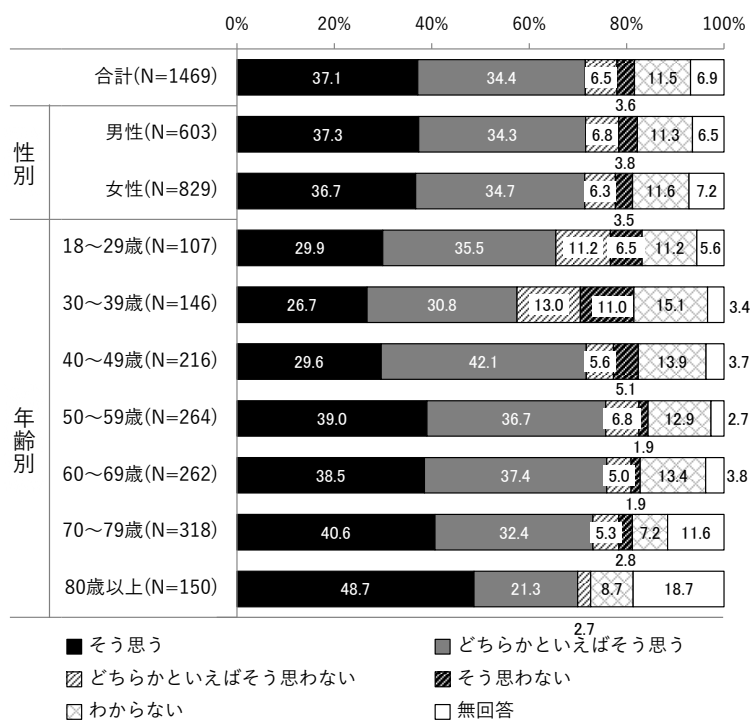
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『そう思う』で見ると、40～80歳以上は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 11 (性別・年齢別) × ②自殺せずに生きていけば良いことがある】



問 11 3) 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いているという考えについて

【合計】

「そう思う」(36.8%)と「どちらかといえばそう思う」(27.4%)を合わせた『そう思う』は64.2%となっています。

「そう思わない」(5.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(5.4%)とを合わせた『そう思わない』は11.3%となっています。

【性別】

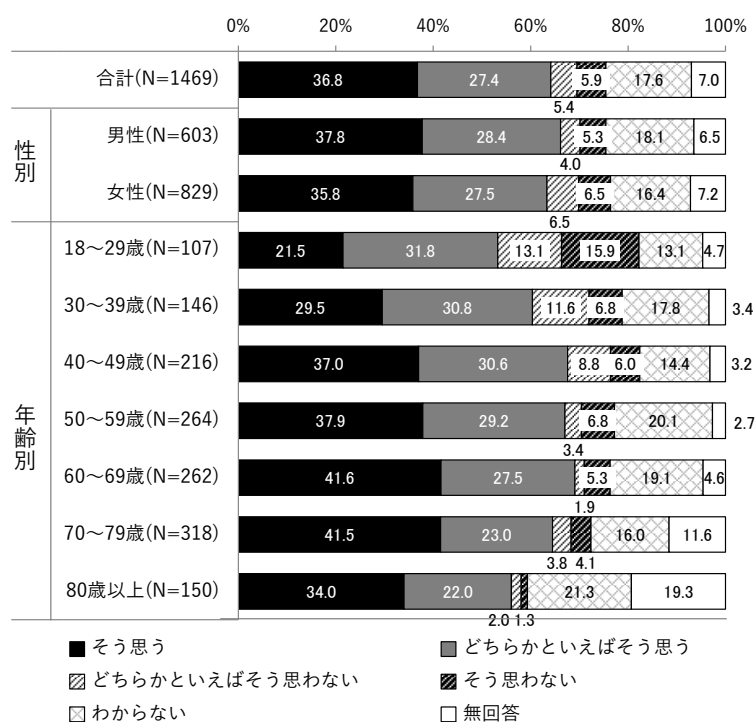
性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『そう思う』でみると、40～79歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 11 (性別・年齢別) ×

③自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている】



問 11 4) 責任を取って自殺することは仕方がないという考えについて

【合計】

「そう思う」(2.7%)と「どちらかといえばそう思う」(5.2%)を合わせた『そう思う』は7.9%となっています。

「そう思わない」(65.2%)と「どちらかといえばそう思わない」(9.7%)を合わせた『そう思わない』は74.9%となっています。

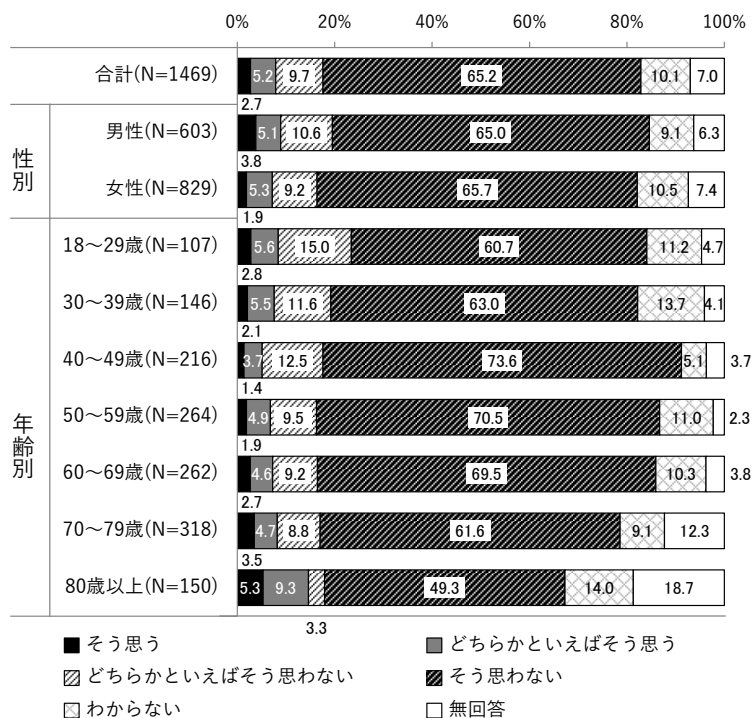
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『そう思う』で見ると、80歳以上(14.6%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 11 (性別・年齢別) × ④責任を取って自殺することは仕方がない】



問 11 5) 自殺する人はつらい気持ちを持っているという考えについて

【合計】

「そう思う」(62.0%)と「どちらかといえばそう思う」(20.4%)を合わせた『そう思う』は82.4%となっています。

「そう思わない」(1.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(1.5%)を合わせた『そう思わない』は3.2%となっています。

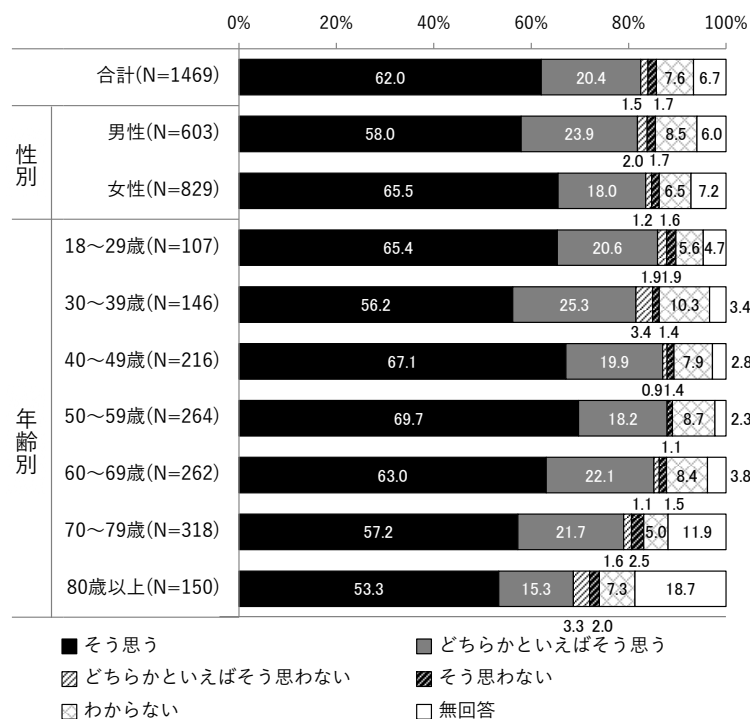
【性別】

『そう思う』で見ると、性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『そう思う』で見ると、80歳以上(68.6%)は他の年齢層より低くなっています。

【図 問 11 (性別・年齢別) × ⑤自殺する人はつらい気持ちを持っている】



問 11 6) 自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題であるという考えについて

【合計】

「そう思う」(26.1%)と「どちらかといえばそう思う」(35.1%)を合わせた『そう思う』は61.2%となっています。

「そう思わない」(7.4%)と「どちらかといえばそう思わない」(8.8%)を合わせた『そう思わない』は16.2%となっています。

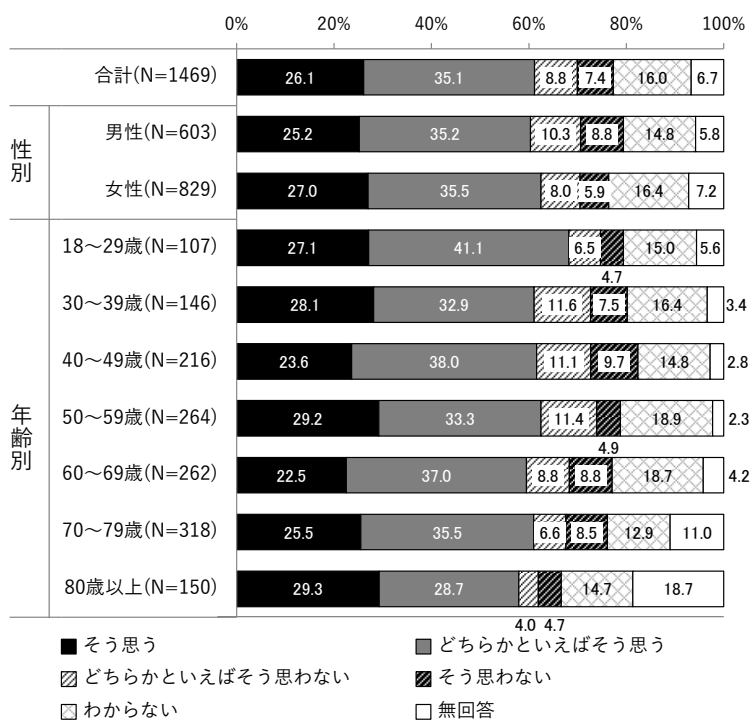
【性別】

『そう思う』で見ると、性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『そう思う』で見ると、18～29歳(68.2%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 11 (性別・年齢別) × ⑥自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である】



問 12 あなたは、これまでの人生のなかで、自ら命を絶ちたいと考えたことがありますか。

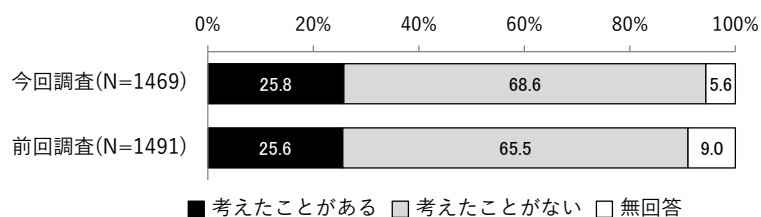
【合計】

自ら命を絶ちたいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が 25.8%、「考えたことがない」が 68.6%となっています。

【前回調査と比較】

今回調査は前回調査と比較して、各項目とも大きな変化はみられません。

問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無（前回調査と比較）



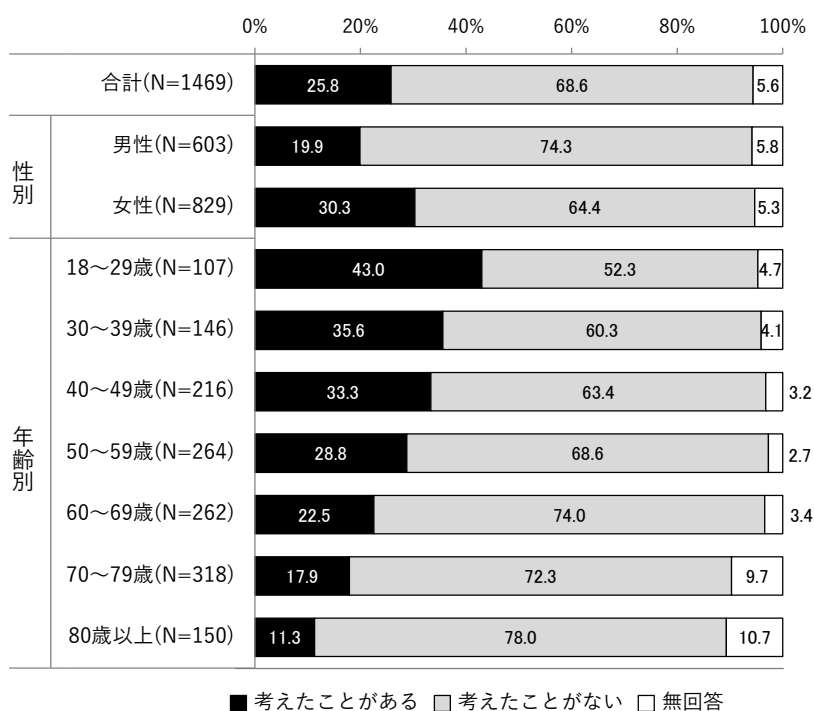
【性別】

「考えたことがある」でみると、女性（30.3%）は男性（19.9%）より 10.4 ポイント高くなっています。

【年齢別】

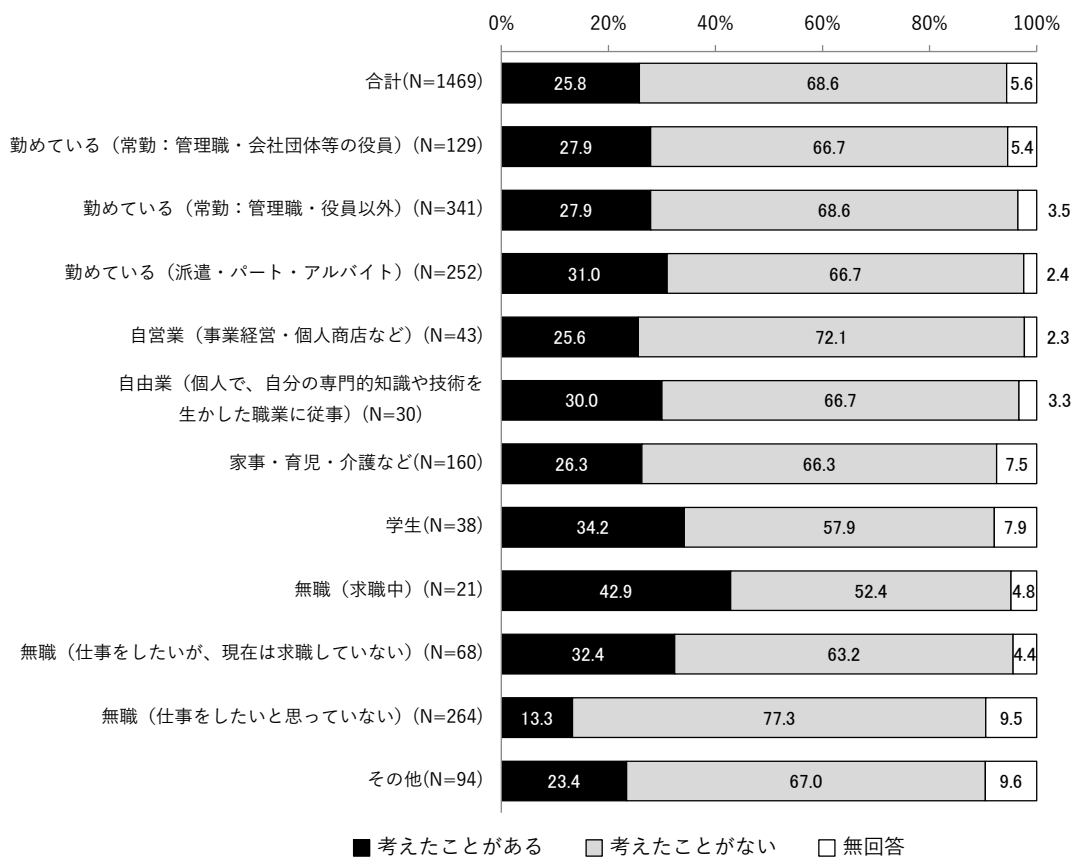
「考えたことがある」でみると、は 80 歳以上（11.3%）から年齢が低くなるに従って高くなっています。

【図 問 12 （性別・年齢別）×あなたは、これまでの人生のなかで、自ら命を絶ちたいと考えたことがありますか。】



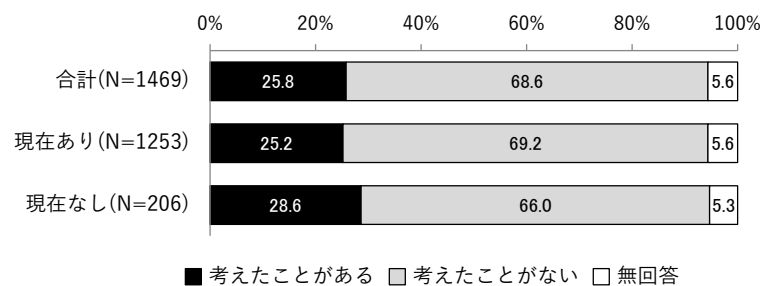
【職業別】

問3 職業×問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無



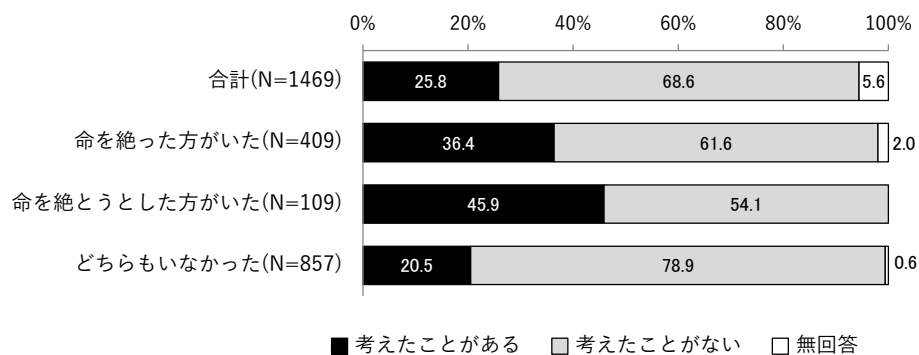
【問4 同居家族の有無別】

問4 同居家族の有無 × 問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無



【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか × 問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無



問 12-1 最近1年以内に、自ら命を絶ちたいと考えたことがありますか。(問 12 で「1. 考えたことがある」と答えた方のみ)

【合計】

「考えたことがある」が 29.0%、「考えたことがない」が 69.9%となっています。

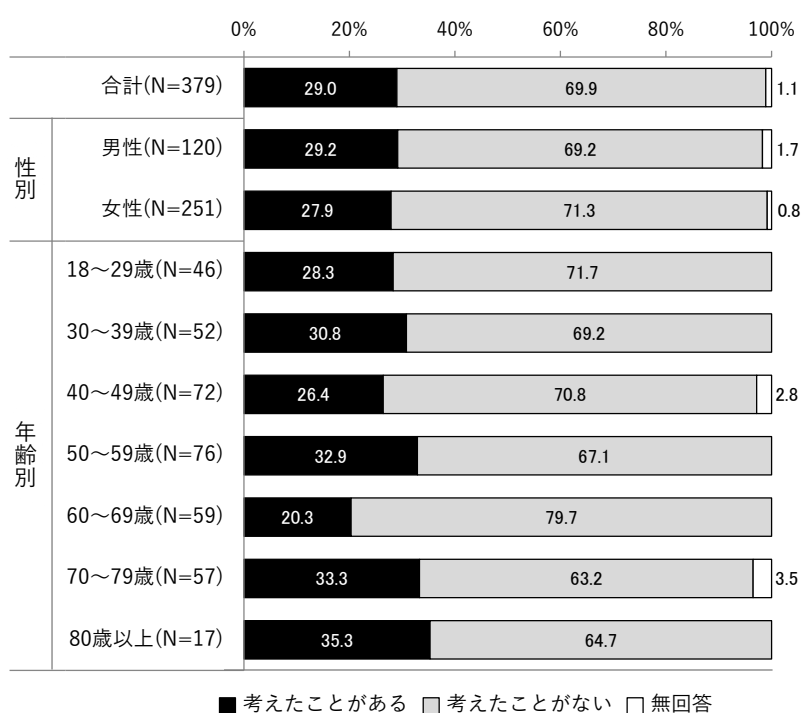
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

「考えたことがある」でみると、50～59歳、70～80歳以上は他の年齢層より高くなっています

【図 問 12-1 (性別・年齢別) ×最近1年以内に、自ら命を絶ちたいと考えたことがありますか。】



問 12-2 そのように考えた理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(問 12-1 で「1. 考えたことがある」と答えた方のみ)

【合計】

「家庭問題」(44.5%) が最も高く、次いで「人間関係」(40.9%)、「経済・生活問題」(34.5%) 「勤務問題」(29.1%)、「健康問題」(26.4%) となっています。

【性別】

男性は、「人間関係」(51.4%)、「勤務問題」(42.9%)、「経済・生活問題」(40.0%) の順となっています。女性は、「家族問題」(51.4%)、「人間関係」(35.7%)、「経済・生活問題」(32.9%) の順となっています。

【年齢別】

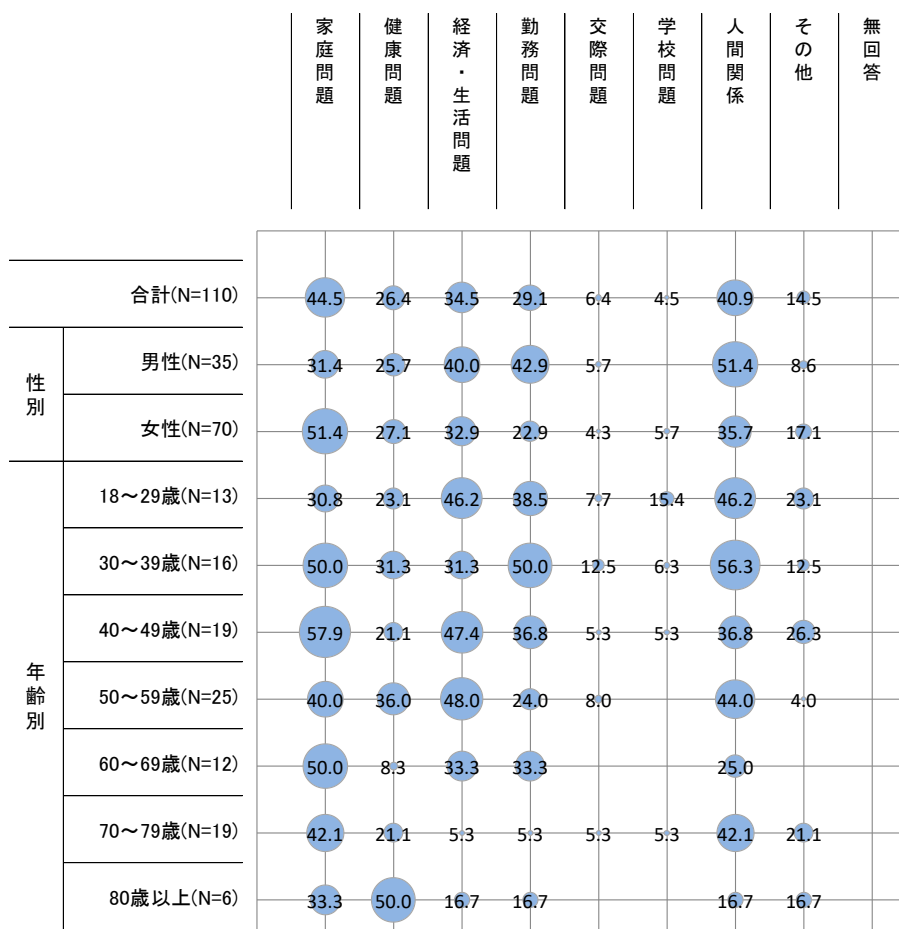
「家庭問題」で見ると、30～49 歳、60～69 歳は他の年齢層より高くなっています。

「人間関係」で見ると、18～39 歳、50～59 歳は他の年齢層より高くなっています。

「経済・生活問題」で見ると、18～29 歳、40～59 歳は他の年齢層より高くなっています。

「健康問題」で見ると、80 歳以上は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 12-2 (性別・年齢別) × そのように考えた理由は何ですか。(あてはまるもの全て)】



問 12-3 そのように考えたとき、どのようにして対処しましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(問 12-1 で「1. 考えたことがある」と答えた方のみ)

【合計】

「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」(42.7%) が最も高く、次いで「家族や友人、職場の同僚など、身近な人に悩みを聞いてもらった」(32.7%)、「できるだけ休養をとるようにした」(30.0%) となっています。

【性別】

男性は、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」(51.4%)、「できるだけ休養をとるようにした」(28.6%)、「家族や友人、職場の同僚など、身近な人に悩みを聞いてもらった」(22.9%) の順となっています。

女性は、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」(38.6%)、「家族や友人、職場の同僚など、身近な人に悩みを聞いてもらった」(38.6%)、「できるだけ休養をとるようにした」(30.0%) の順となっています。

「家族や友人、職場の同僚など、身近な人に悩みを聞いてもらった」でみると、女性は男性より 15.7 ポイント高くなっています。

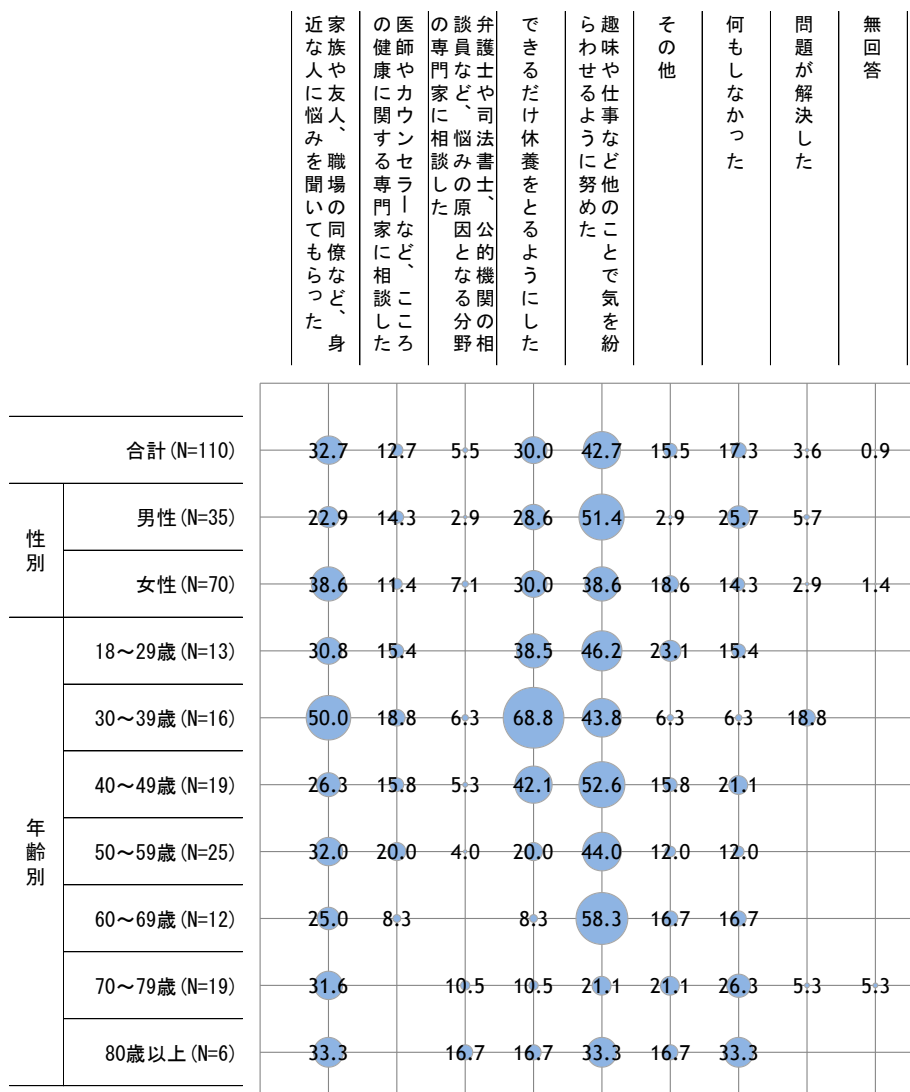
【年齢別】

「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」でみると、18～69 歳は他の年齢層より高くなっています。

「できるだけ休養をとるようにした」でみると、30～39 歳 (68.8%)、40～49 歳 (42.1%)、18～29 歳 (38.5%) は他の年齢層より高くなっています。

「家族や友人、職場の同僚など、身近な人に悩みを聞いてもらった」でみると、30～39 歳(50.0%) は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 12-3 (性別・年齢別) × そのように考えたとき、
どのようにして対処しましたか。(あてはまるもの全て)】



【問4 同居家族の有無別】

【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

【問14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

×問12- 3 自殺を考えたときにとった対処

	家族や友人、職場の同僚など、身近な人に悩みを聞いてもらった	医師やカウンセラーなど、こころの健康に関する専門家に相談した	弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの原因となる分野の専門家に相談した	できるだけ休養をとるようにした	趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた	その他	何もしなかった	問題が解決した	無回答
合計 (N=110)	32.7	12.7	5.5	30.0	42.7	15.5	17.3	3.6	0.9
問4 同居家族 現在あり (N=84)	35.7	10.7	4.8	32.1	50.0	15.5	15.5	4.8	1.2
問4 同居家族 現在なし (N=25)	20.0	20.0	8.0	24.0	20.0	16.0	24.0		
問13 これまでに周りで命を絶った方がいた (N=44)	31.8	15.9	4.5	27.3	40.9	11.4	20.5		
問13 これまでに周りで命を絶とうとした方がいた (N=20)	30.0	10.0	5.0	30.0	35.0	15.0	30.0	10.0	
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がどちらもいなかった (N=44)	36.4	11.4	6.8	34.1	50.0	20.5	6.8	4.5	
問14 自ら命を絶とうとした経験がある (N=28)	25.0	25.0	7.1	35.7	32.1	25.0	21.4	7.1	
問14 自ら命を絶とうとした経験がない (N=62)	38.7	9.7	4.8	25.8	43.5	12.9	16.1	3.2	
問14 自ら命を絶とうとした経験を答えたくない (N=18)	22.2	5.6	5.6	38.9	55.6	5.6	16.7		

問 13 あなたの周りで、これまでに自ら命を絶った方や命を絶とうとした方はいらっしゃいましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「どちらもいなかった」(58.3%)、「命を絶った方がいた」(27.8%)、「命を絶とうとした方がいた」(8.0%)となっています。

【性別】

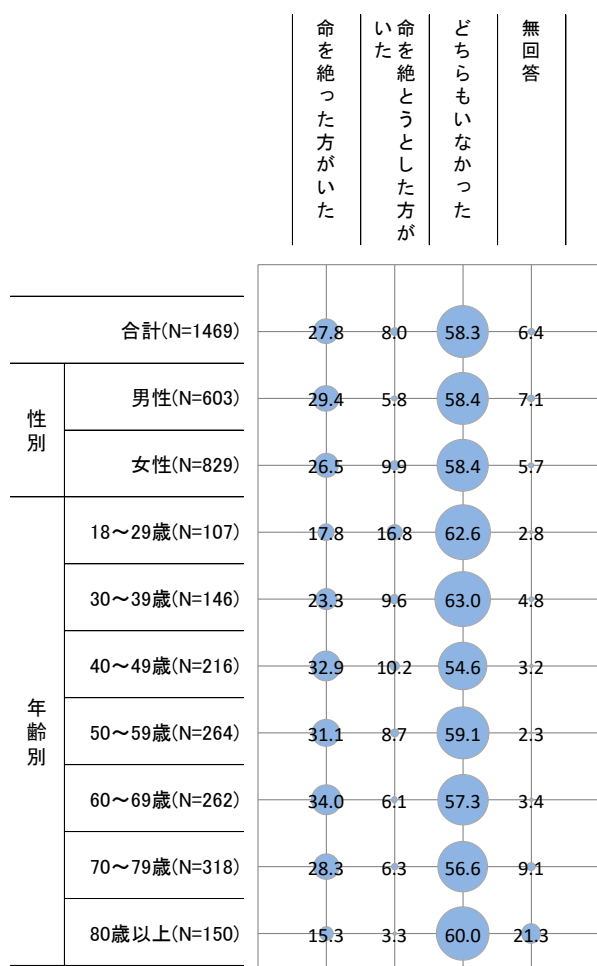
性別で大きな差はみられません

【年齢別】

「命を絶った方がいた」でみると、40～79歳は他の年齢層より高くなっています。

「命を絶とうとした方がいた」でみると、18～29歳(16.8%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 13 (性別・年齢別) × あなたの周りで、これまでに自ら命を絶った方や命を絶とうとした方はいらっしゃいましたか。(あてはまるもの全て)】



問 13-1 命を絶った方とあなたはどのような関係でしたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(問 13 で「1. 命を絶った方がいた」と答えた方のみ)

【合計】

「学校、職場や仕事関係の知人」(38.1%) が最も高く、次いで「その他」(24.9%)、「別居の親族(家族)」(22.2%) となっています。

【性別】

「学校、職場や仕事関係の知人」でみると、男性(53.7%)は女性(25.5%)より28.2ポイント高くなっています。

「その他」でみると、女性(31.8%)は男性(16.4%)より15.4ポイント高く、「別居の親族(家族)」でみると、女性(29.1%)は男性(14.1%)より15.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

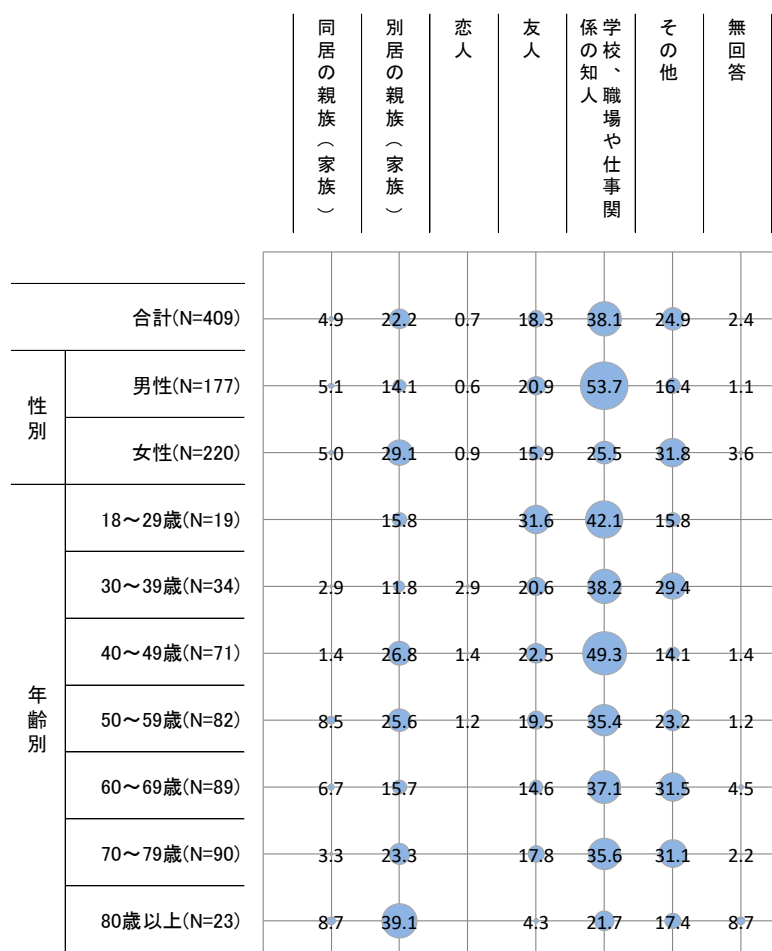
「学校、職場や仕事関係の知人」でみると、18～49歳は他の年齢層より高くなっています。

「別居の親族(家族)」でみると、80歳以上(39.1%)、40～59歳(26.8%、25.6%)は他の年齢層より高くなっています。

「友人」でみると、18～29歳(31.6%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 13-1 (性別・年齢別) ×

命を絶った方とあなたはどのような関係でしたか。(あてはまるもの全て)】



問 13-2 身近な方を亡くしたとき、あなたは公的な相談機関や民間団体の支援を利用しましたか。利用した支援にあてはまるもの全てに○をつけてください。(問 13 で「1. 命を絶った方がいた」と答えた方のみ)

【合計】

「特に何も利用していない」(90.0%)と最も高く、次いで「その他」(5.1%)、「医師やカウンセラーなどのこころの健康に関する専門家への相談」(2.2%)となっています。

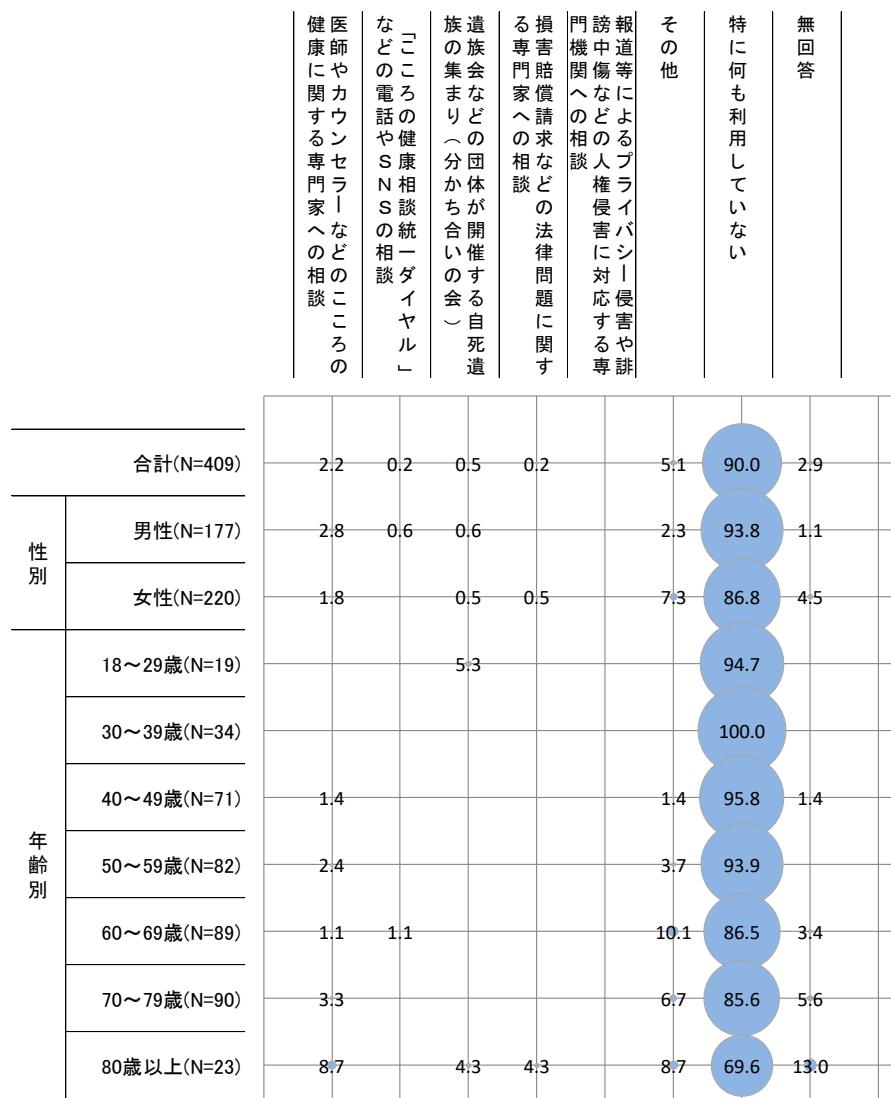
【性別】

「特に何も利用していない」でみると、男性(93.8%)は女性(86.8%)より7.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

「特に何も利用していない」でみると、18～59歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 13-2 (性別・年齢別) ×
身近な方を亡くしたとき、あなたは公的な相談機関や民間団体の支援を利用
しましたか。(あてはまるもの全て)】



問 13-3 もしそのとき知っていれば利用したかった支援内容について、あてはまるもの全てに○をつけてください。(当時、支援を必要としなかった方は、「6. 特に支援を必要としていなかった」を回答ください)(問 13-2 で「7. 特に何も利用していない」と答えた方のみ)

【合計】

「特に支援を必要としていなかった」(74.2%)が最も高く、次いで「医師やカウンセラーなどのこころの健康に関する専門家への相談」(11.1%)、「その他」(10.6%)となっています。

【性別】

性別で大きな差はみられません。

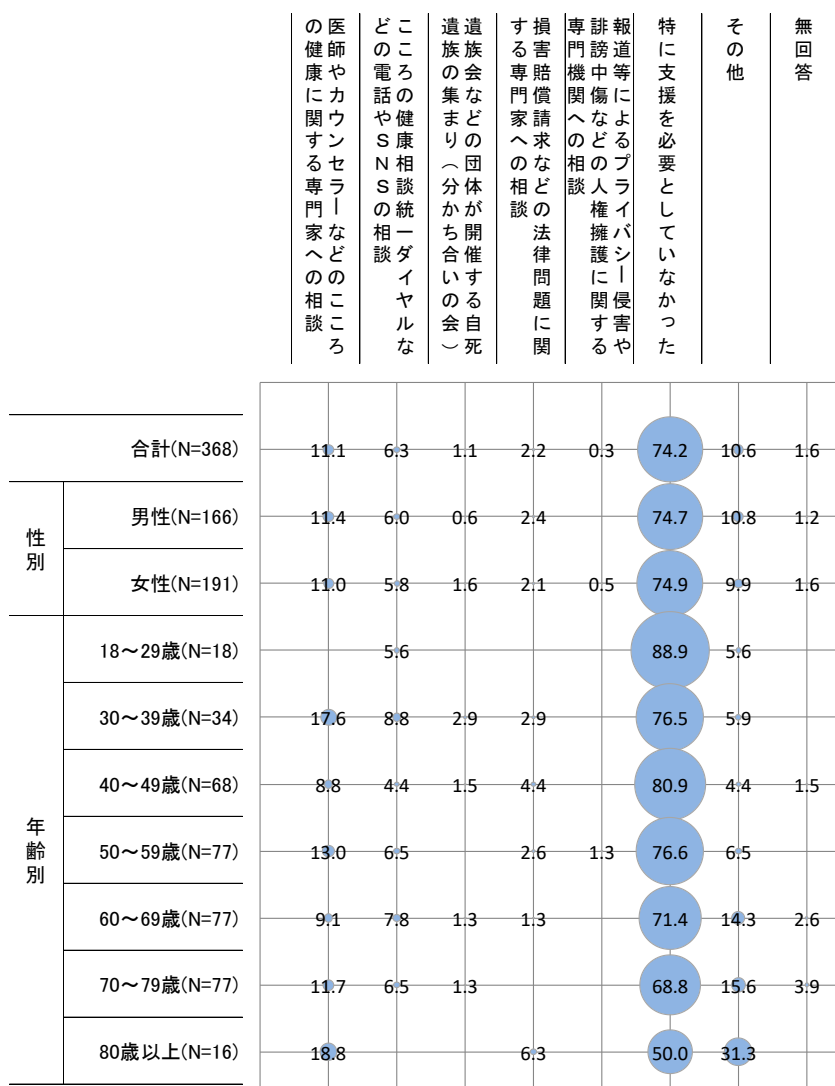
【年齢別】

「特に支援を必要としていなかった」で見ると、18～29歳(88.9%)は他の年齢層より高くなっています。

30～80歳以上が利用したかった支援内容は、「医師やカウンセラーなどのこころの健康に関する専門家への相談」が第1位となっています。

【図 問 13-3 (性別・年齢別) ×

もしそのとき知っていれば利用したかった支援内容について(あてはまるもの全て)】



問 14 あなたは、これまでに自ら命を絶とうとした経験がありますか。

【合計】

「経験がある」(6.7%)、「経験がない」(83.6%)、「答えたくない」(4.0%) となっています。

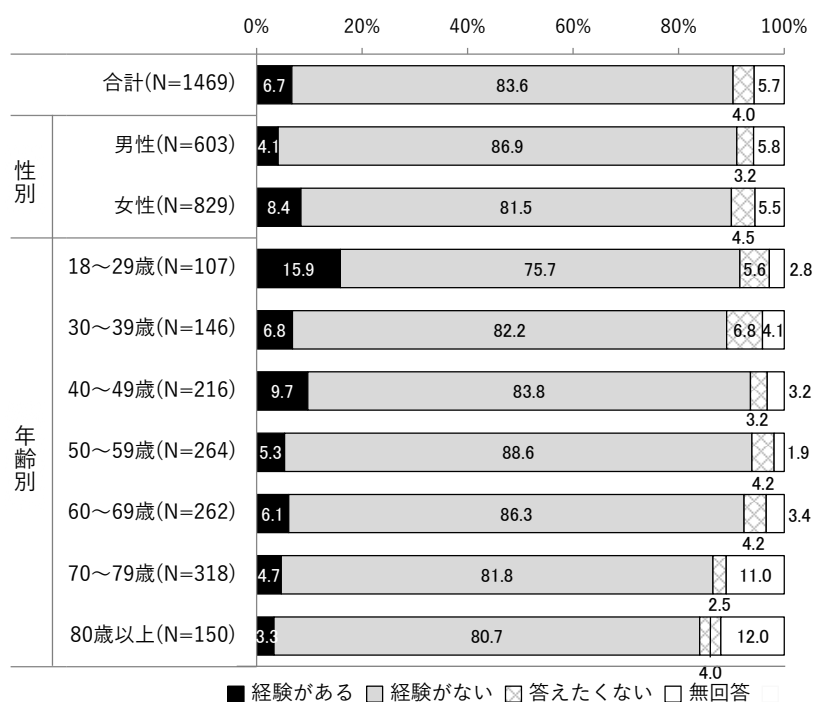
【性別】

「経験がある」で見ると、女性(8.4%)は男性(4.1%)より高くなっています。

【年齢別】

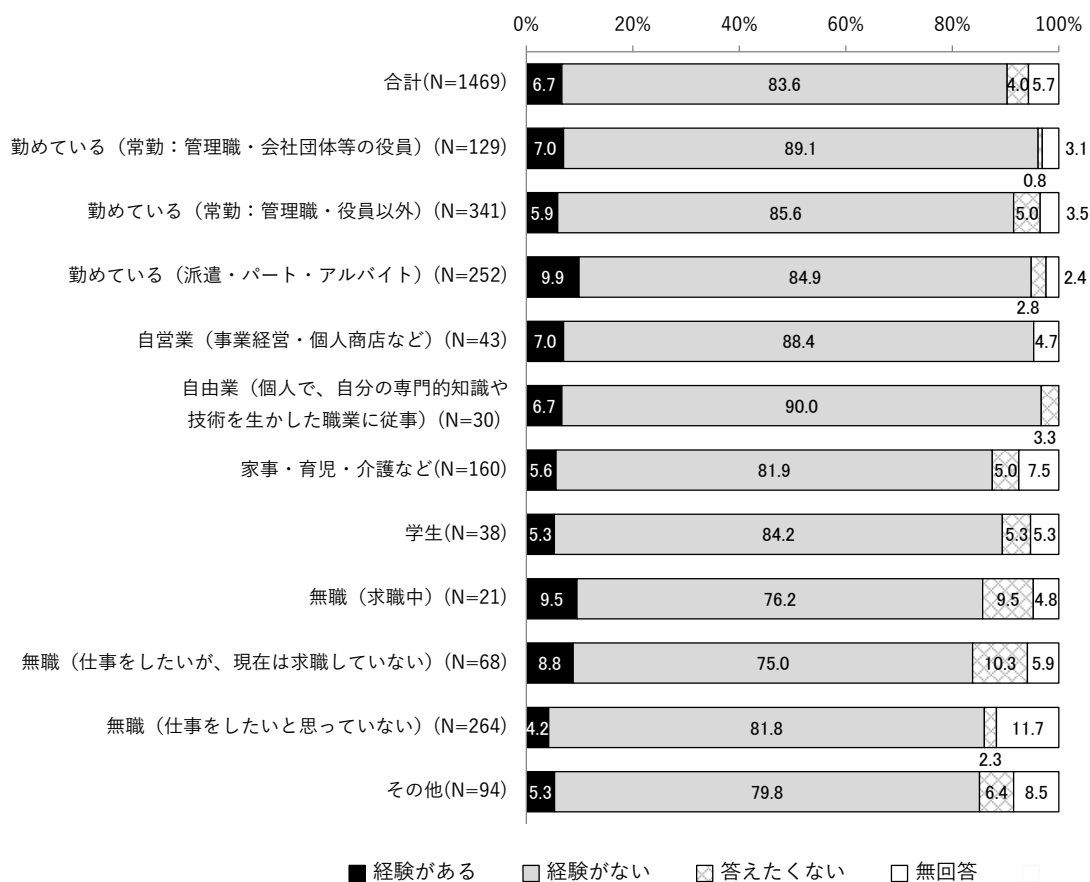
「経験がある」で見ると、18～29歳(15.9%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 14 (性別・年齢別) ×
あなたは、これまでに自ら命を絶とうとした経験がありますか。】



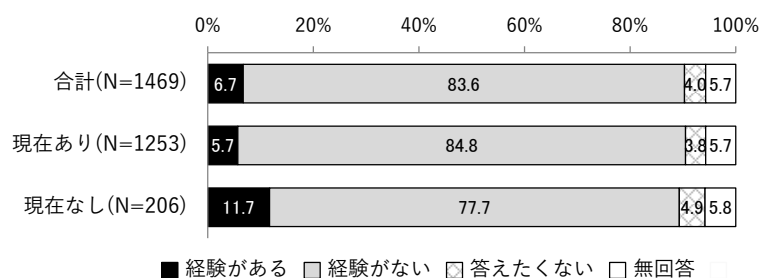
【問3 職業】

問3 職業×問14 自ら命を絶とうとした経験の有無



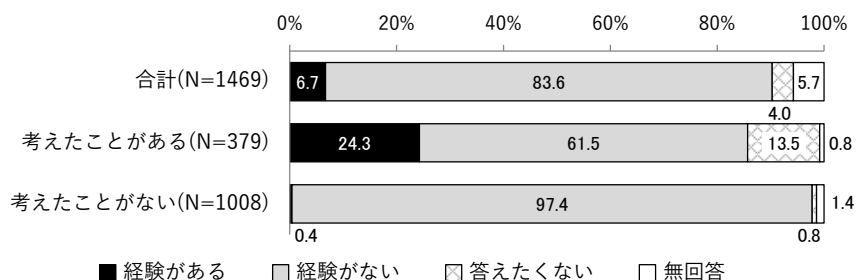
【問4 同居家族の有無別】

問4 同居家族の有無 ×問14 自ら命を絶とうとした経験の有無



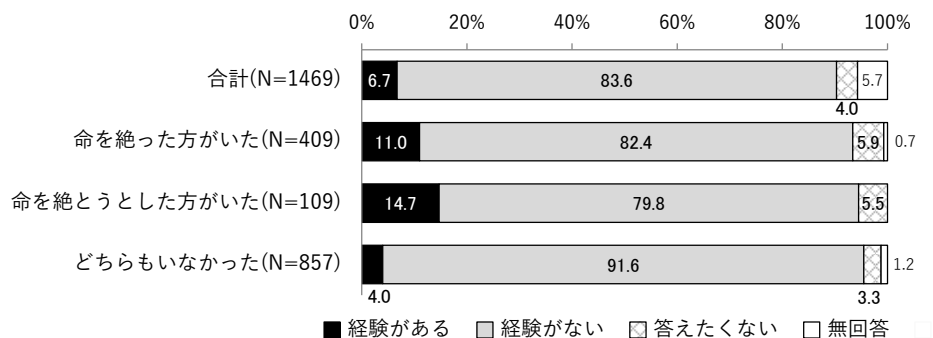
【問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無 ×問14 自ら命を絶とうとした経験の有無



【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がいたか ×問14 自ら命を絶とうとした経験の有無



問 15 あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが良いと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「ひたすら耳を傾けて聞く」(55.3%)が最も高く、次いで「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す(39.8%)、「医師などの専門家に相談した方が良い」と提案する(29.9%)、「死んではいけない」と説得する(25.7%)、「がんばって生きよう」と励ます(19.7%)となっています。

【性別】

「ひたすら耳を傾けて聞く」でみると、女性(61.9%)は男性(46.8%)より15.1ポイント高くなっています。

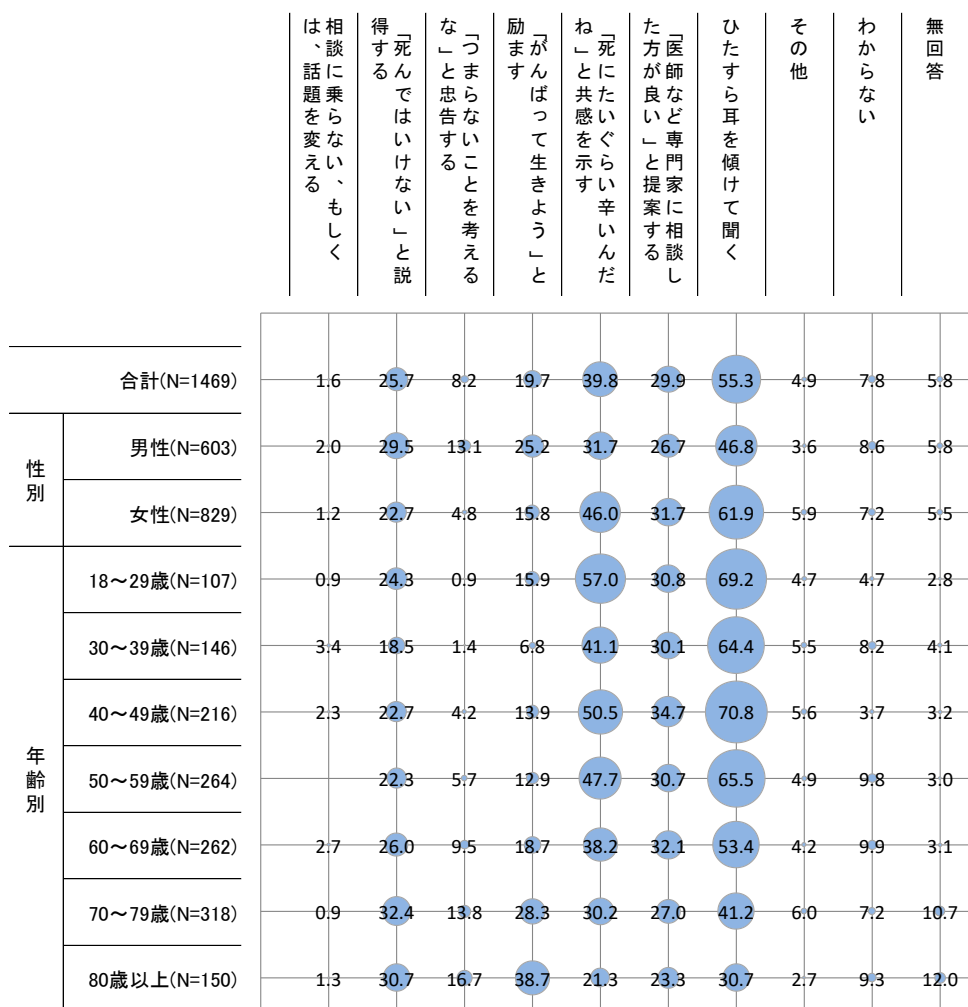
【年齢別】

「ひたすら耳を傾けて聞く」でみると、18~59歳(64.4%~70.8%)は高いですが、60~69歳(53.4%)から年齢が高くなるに従って低くなっています。また、「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示すでみると、18~59歳(41.1%~57.0%)は高いですが、60~69歳(38.2%)から年齢が高くなるに従って低くなっています。

「がんばって生きよう」と励ますでみると、70~80歳以上(28.3%~38.7%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 15 (性別・年齢別) ×

あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、
どう対応するのが良いと思いますか。(あてはまるもの全て)】



【職業】

問3 職業×問15 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応で良いと思うもの

	相談に乗らない、もしくは、話題を変える	「死んではいけない」と説得する	「つまらないことを考えるな」と忠告する	「がんばって生きよう」と励ます	「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す	「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する	ひたすら耳を傾けて聞く	その他	わからない	無回答
合計 (N=1469)	1.6	25.7	8.2	19.7	39.8	29.9	55.3	4.9	7.8	5.8
勤めている（常勤：管理職・会社団体等の役員）(N=129)	0.8	27.9	7.8	14.7	47.3	32.6	63.6	5.4	4.7	3.1
勤めている（常勤：管理職・役員以外）(N=341)	2.6	22.3	6.5	14.7	44.9	31.1	62.8	2.9	7.0	3.8
勤めている（派遣・パート・アルバイト）(N=252)	0.8	25.4	4.8	19.0	45.6	30.2	62.7	6.0	8.3	2.4
自営業（事業経営・個人商店など）(N=43)		25.6	7.0	20.9	37.2	25.6	48.8	2.3	16.3	4.7
自由業（個人で、自分の専門的知識や技術を生かした職業に従事）(N=30)	3.3	26.7	13.3	36.7	40.0	16.7	50.0	6.7	3.3	
家事・育児・介護など(N=160)	1.3	24.4	2.5	17.5	44.4	35.6	63.8	8.1	5.6	7.5
学生(N=38)		26.3		10.5	50.0	34.2	73.7	2.6	2.6	5.3
無職（求職中）(N=21)	4.8	28.6	9.5	9.5	52.4	14.3	66.7	4.8	14.3	4.8
無職（仕事をしたいが、現在は求職していない）(N=68)		27.9	14.7	23.5	35.3	26.5	44.1	5.9	5.9	4.4
無職（仕事をしたいと思っていない）(N=264)	1.5	29.5	15.9	26.5	29.5	29.5	38.6	3.8	10.2	11.7
その他(N=94)	3.2	27.7	11.7	25.5	22.3	23.4	37.2	7.4	9.6	9.6

【問4 同居家族の有無別】

【問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

【問14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

×問15 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応で良いと思う

相談に乗らない、もしくは、話題を変える	「死んではいけない」と説得する	「つまらないことを考えるな」と忠告する	「がんばって生きよう」と励ます	「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す	「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する	ひたすら耳を傾けて聞く	その他	わからない	無回答
---------------------	-----------------	---------------------	-----------------	----------------------	-------------------------	-------------	-----	-------	-----

合計 (N=1469)	1.6	25.7	8.2	19.7	39.8	29.9	55.3	4.9	7.8	5.8
問4 同居家族 現在あり (N=1253)	1.4	26.5	8.4	19.7	40.7	30.2	55.9	4.9	7.3	5.7
問4 同居家族 現在なし (N=206)	2.4	22.3	7.8	19.9	35.0	28.2	52.4	4.9	10.7	6.3
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えたことがある (N=379)	2.4	19.8	4.0	12.7	49.6	26.9	67.3	6.6	7.9	0.8
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えたことがない (N=1008)	1.4	29.9	10.5	23.7	38.9	33.1	54.7	4.7	8.2	1.3
問13 これまでに周りで命を絶った方がいた (N=409)	1.0	25.2	7.8	19.1	43.5	30.6	64.3	6.8	5.1	0.7
問13 これまでに周りで命を絶とうとした方がいた (N=109)	0.9	20.2	4.6	17.4	57.8	33.9	66.1	6.4	6.4	
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がどちらもいなかった (N=857)	2.1	28.8	9.7	22.1	39.6	31.7	55.0	4.1	9.8	1.3
問14 自ら命を絶とうとした経験がある (N=98)	2.0	17.3	2.0	11.2	53.1	27.6	64.3	8.2	9.2	2.0
問14 自ら命を絶とうとした経験がない (N=1228)	1.5	28.2	9.2	21.7	41.1	31.8	58.2	5.2	7.8	0.7
問14 自ら命を絶とうとした経験を答えたくない (N=59)	3.4	18.6	5.1	15.3	42.4	30.5	55.9		11.9	

問 16 もし仮に、あなたが家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、専門の相談窓口へ相談することを勧めますか。

【合計】

「勧める」(71.1%)、「勧めない」(4.3%)、「わからない」(19.2%) となっています。

【性別】

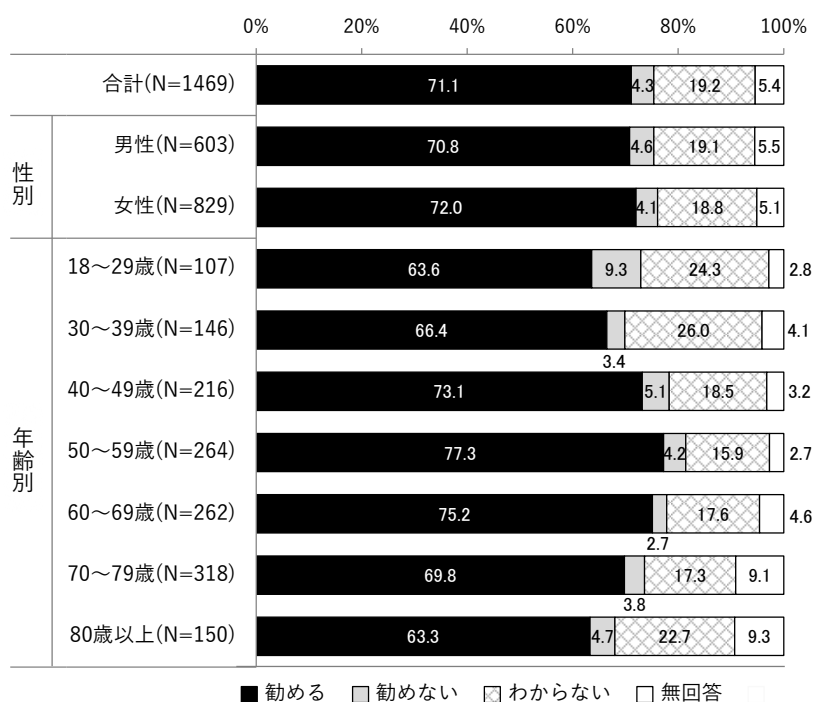
性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

「勧める」でみると、40～69歳(73.1%～77.3%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 15 (性別・年齢別) ×

もし仮に、あなたが家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、専門の相談窓口へ相談することを勧めますか】



■ 勧める □ 勧めない ▨ わからない □ 無回答

問 16-1 医療機関などの専門の相談窓口へ相談することを勧めないのはなぜですか。以下の中であてはまるもの全てに○をつけてください。(問 16 で「2. 勧めない」と答えた方のみ)

【合計】

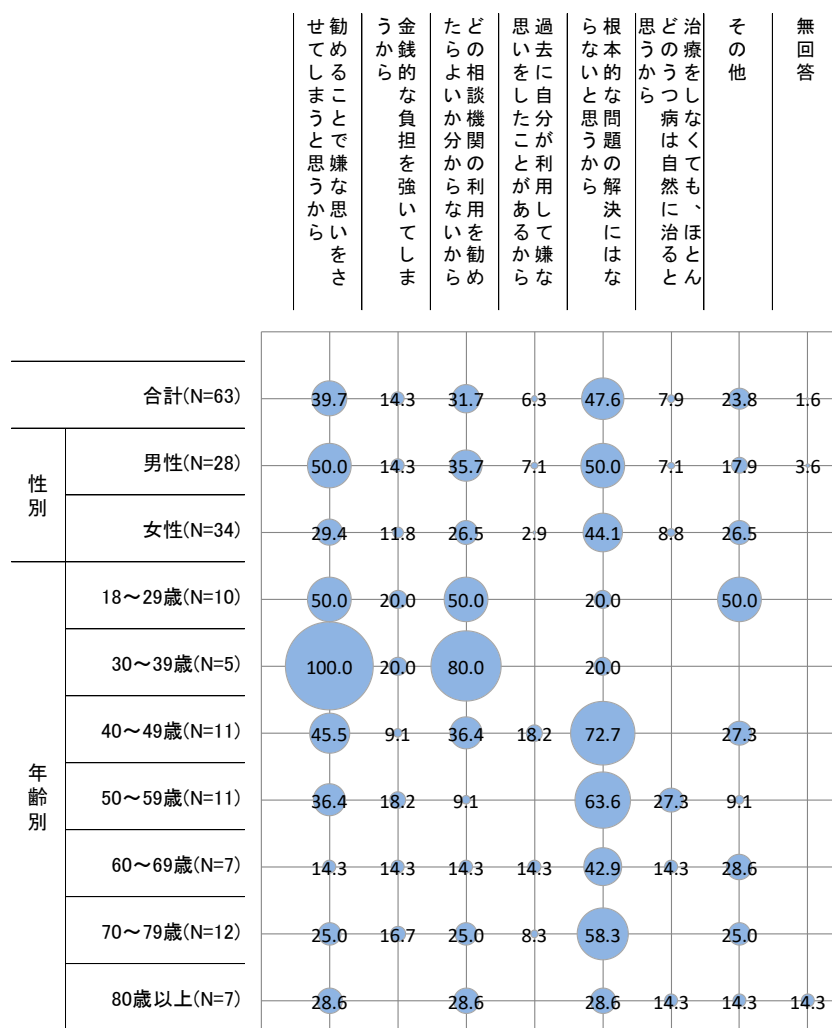
「根本的な問題の解決にはならないと思うから」(47.6%)、「勧めることで嫌な思いをさせてしまうと思うから」(39.7%)、「どの相談機関の利用を勧めたらよいか分からないから」(31.7%) となっています。

【性別】

「根本的な問題の解決にはならないと思うから」、「勧めることで嫌な思いをさせてしまうと思うから」、「どの相談機関の利用を勧めたらよいか分からないから」でみると、いずれも男性は女性より高くなっています。

【図 問 16-1 (性別・年齢別) ×

医療機関などの専門の相談窓口へ相談することを勧めないのはなぜですか。(あてはまるもの全て)】



問 17 もし仮に、自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、あなたは以下の専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「精神科や心療内科などの医療機関」(52.8%)、「かかりつけの医療機関(精神科や心療内科などを除く)」(24.7%)、「何も利用しない」(14.4%)、「いのちの電話などの民間機関の相談窓口」(12.3%)、「保健所などの公的機関の相談窓口」(11.5%) となっています。

【性別】

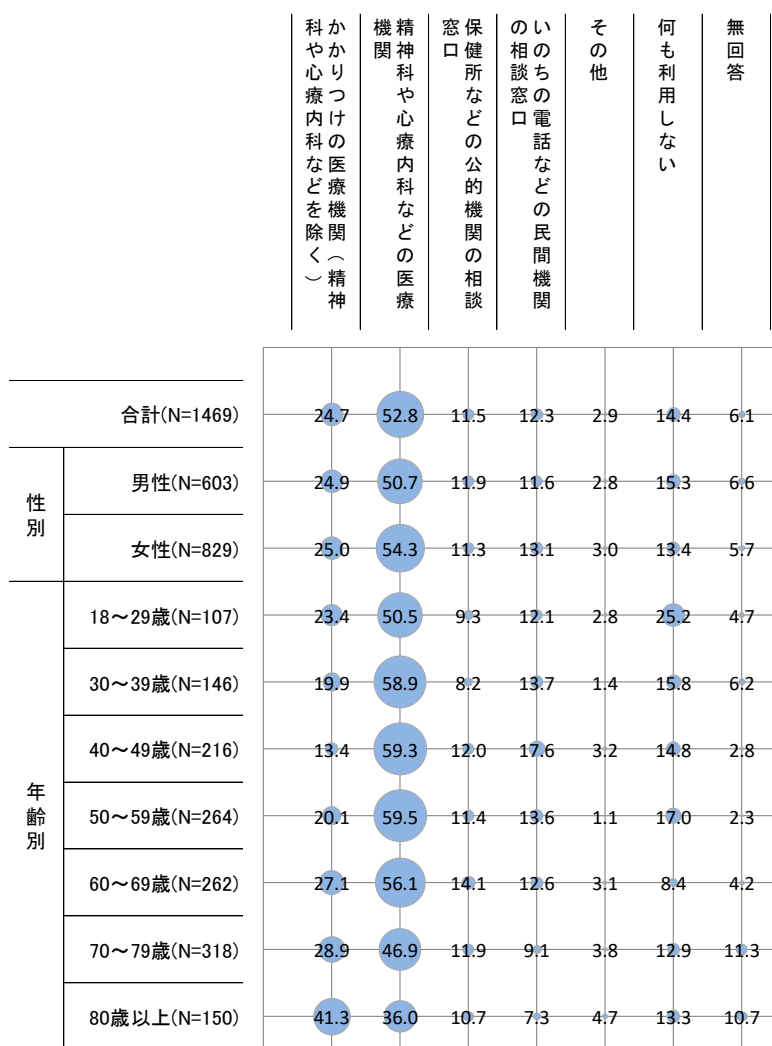
性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

「精神科や心療内科などの医療機関」で見ると、70～80歳以上は他の年齢層より低く、「かかりつけの医療機関(精神科や心療内科などを除く)」で見ると、60～80歳以上は他の年齢層より高くなっています。

「何も利用しない」で見ると、18～29歳(25.2%)は他の年齢層(8.4%～17.0%)より高くなっています。

【図 問 17 (性別・年齢別) × もし仮に、自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、あなたは以下の専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思いますか。(あてはまるもの全て)】



問 17-1 その理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(問 17 で「6. 何も利用しない」と答えた方のみ)

【合計】

「根本的な問題の解決にはならないから」(52.1%)、「どれを利用したらよいか分からないから」(34.6%)、「精神的な悩みを話すことに抵抗があるから」(30.3%) となっています。

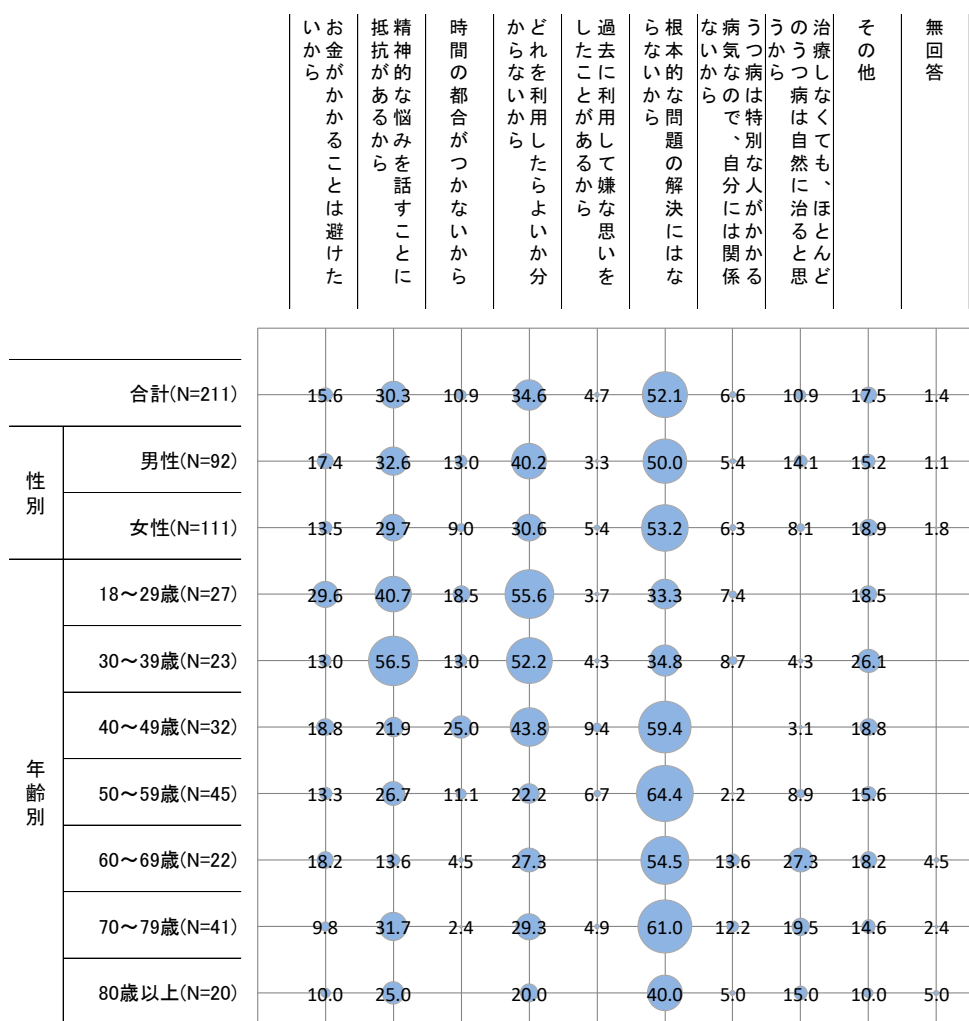
【性別】

「どれを利用したらよいか分からないから」でみると、男性(40.2%)は女性(30.6%)よりの9.6ポイント高くなっています。

【年齢別】

「根本的な問題の解決にはならないから」でみると、40～79歳(54.5%～64.4%)は他の年齢層より高くなっています。「どれを利用したらよいか分からないから」でみると、18～49歳(43.8%～55.6%)は他の年齢層より高くなっています。「精神的な悩みを話すことに抵抗があるから」でみると、18～39歳(40.7%～56.5%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 17-1 (性別・年齢別) × その理由は何ですか。(あてはまるもの全て)】



6. メディア（新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体）について

問 18 メディアの接触頻度について質問します。

1) あなたは普段、仕事や学業以外で、新聞をどのくらい見ますか。

【合計】

「ほぼ毎日」(43.3%)、「週に3～5日程度」(4.9%)、「週に1～2日程度」(8.8%)を合わせた『見る』は57.0%となっています。

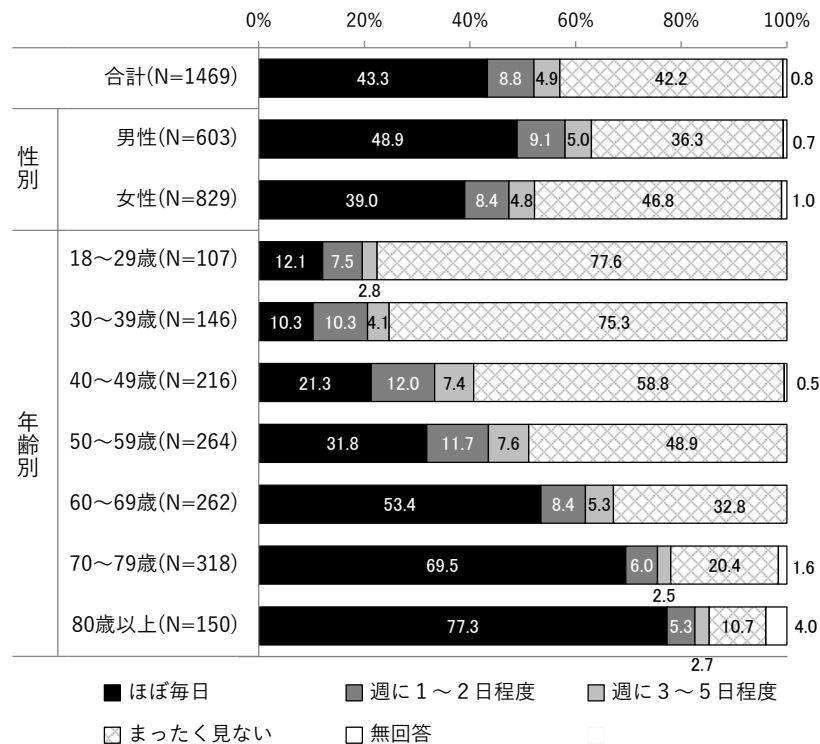
【性別】

『見る』で見ると、男性(63.0%)は女性(52.2%)より10.8ポイント高くなっています。

【年齢別】

『見る』で見ると、80歳以上(85.3%)から年齢が低くなるに従って低くなっており、18～29歳(22.4%)は最も低くなっています。

【図 問 18 (性別・年齢別) × 1) あなたは普段、仕事や学業以外で、新聞をどのくらい見ますか。】



問 18 メディアの接触頻度について質問します。

2) あなたは普段、仕事や学業以外で、テレビをどのくらい見ますか。

【合計】

「ほぼ毎日」(83.0%)、「週に3～5日程度」(5.5%)、「週に1～2日程度」(5.7%)を合わせた『見る』は94.2%となっています。

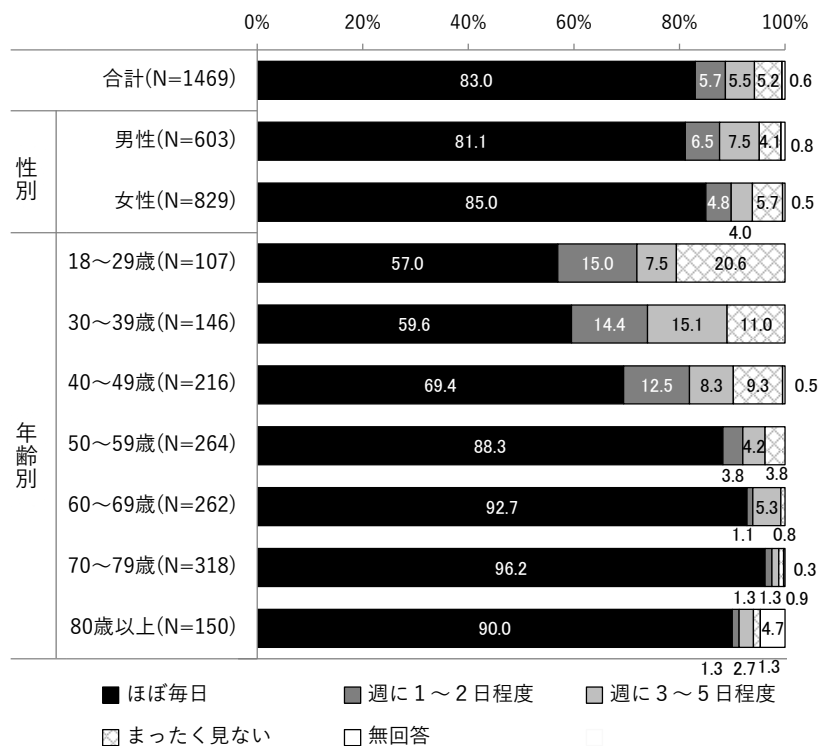
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『見る』でみると、50～80歳以上は他の年齢層より高くなっています。40～49歳より年齢が低くなるに従って低くなっています。

【図 問 18 (性別・年齢別) × 2) あなたは普段、仕事や学業以外で、テレビをどのくらい見ますか。】



問 18 メディアの接触頻度について質問します。

3) あなたは普段、仕事や学業以外で、ラジオをどのくらい聞きますか。

【合計】

「ほぼ毎日」(12.5%)、「週に3～5日程度」(5.3%)、「週に1～2日程度」(15.3%)を合わせた『聞く』は33.1%となっています。

【性別】

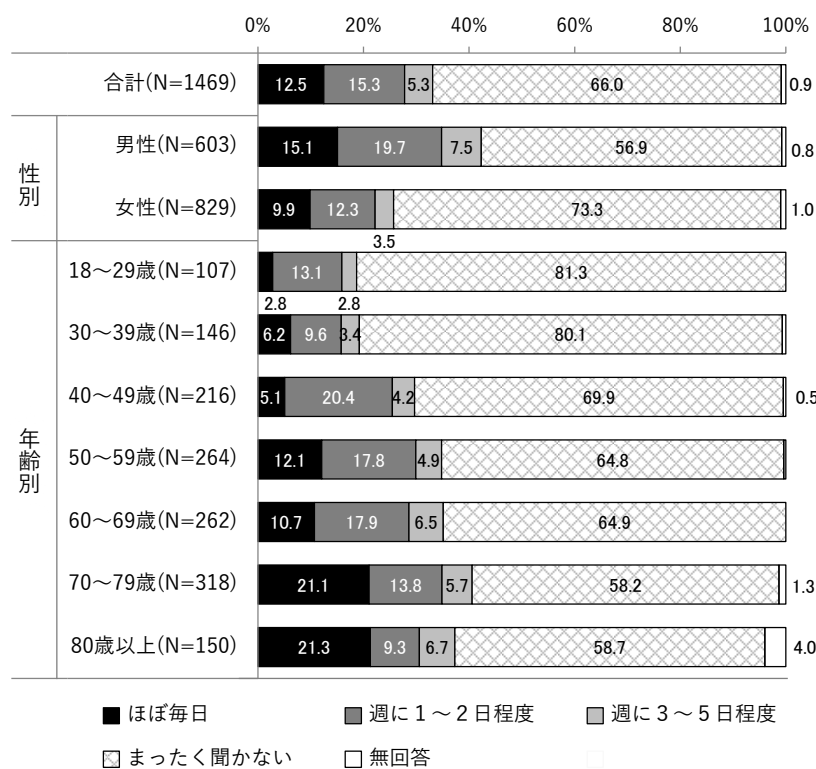
『聞く』で見ると、男性(42.3%)は女性(25.7%)より16.6ポイント高くなっています。

【年齢別】

『聞く』で見ると、40～80歳以上(29.7%～40.6%)は18～39歳(18.7%～19.2%)より高くなっています。

【図 問 18 (性別・年齢別) ×

3) あなたは普段、仕事や学業以外で、ラジオをどのくらい聞きますか。】



問 18 メディアの接触頻度について質問します。

4) あなたは普段、仕事や学業以外で、インターネットをどれくらい利用しますか。(SNS (LINE、Facebook、Twitter など) は除いてお答えください。)

【合計】

「ほぼ毎日」(60.5%)、「週に3～5日程度」(6.6%)、「週に1～2日程度」(7.8%)を合わせた『利用している』は74.9%となっています。

【性別】

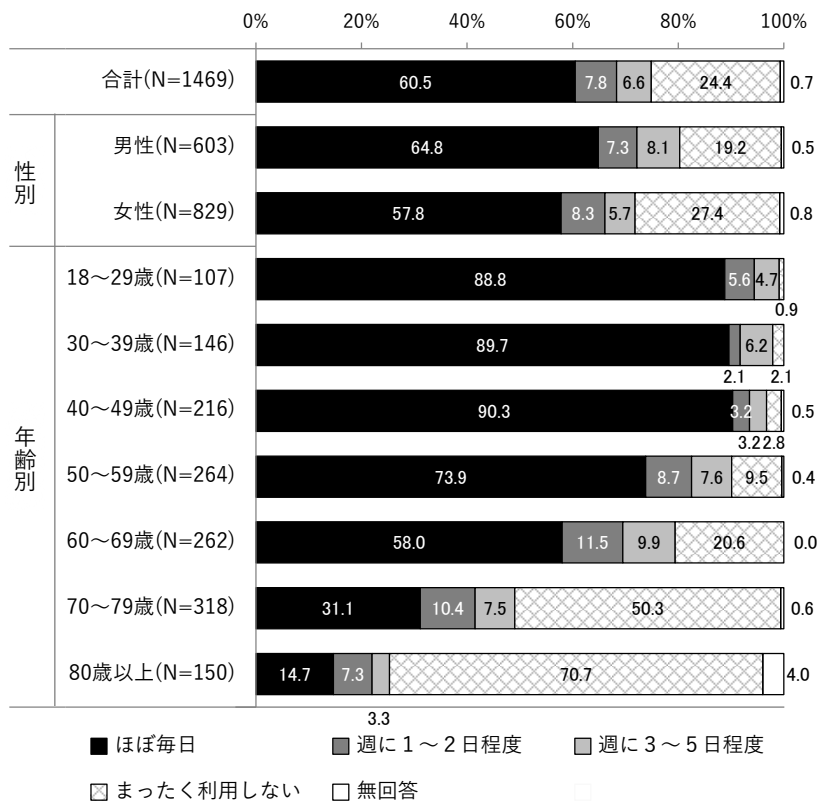
『利用している』で見ると、男性(80.2%)は女性(71.8%)より8.4ポイント高くなっています。

【年齢別】

『利用している』で見ると、18～49歳(96.7%～99.1%)は他の年齢より高くなっています。50～59歳(90.2%)から年齢が高くなるに従って低くなっています。

【図 問 18 (性別・年齢別) ×

4) あなたは普段、仕事や学業以外で、インターネットをどれくらい利用しますか。(SNS (LINE、Facebook、Twitter など) は除いてお答えください。)]



問 18 メディアの接触頻度について質問します。

5) あなたは普段、仕事や学業以外で、SNS (LINE、Facebook、Twitter など) をどのくらい利用しますか。

【合計】

「ほぼ毎日」(60.2%)、「週に3～5日程度」(6.1%)、「週に1～2日程度」(8.1%)を合わせた『利用している』は74.4%となっています。

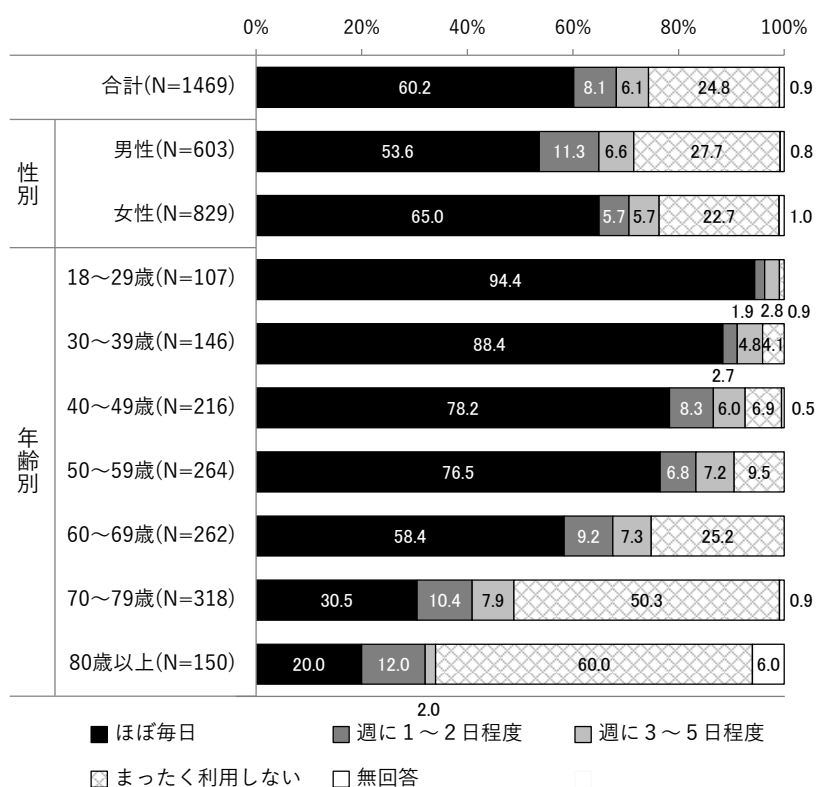
【性別】

『利用している』で見ると、女性(76.4%)は男性(71.5%)より高くなっています。

【年齢別】

『利用している』で見ると、18～29歳(99.1%)から年齢が高くなるに従って低くなっています。

【図 問 18 (性別・年齢別) ×
5) あなたは普段、仕事や学業以外で、
SNS (LINE、Facebook、Twitter など) をどのくらい利用しますか。】



問 19 自殺を扱った報道について質問します。

1) あなたは、自殺を扱ったどのような報道に関心がありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「有名人の自殺に関する報道」(57.0%) が最も高く、次いで「自殺の背景や自殺予防に関する報道」(44.7%)、「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」(29.0%) となっています。

【性別】

「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」でみると、女性(34.1%)は男性(21.7%)より12.4ポイント高くなっています。

「自殺の背景や自殺予防に関する報道」でみると、女性(49.2%)は男性(39.6%)より9.6ポイント高くなっています。

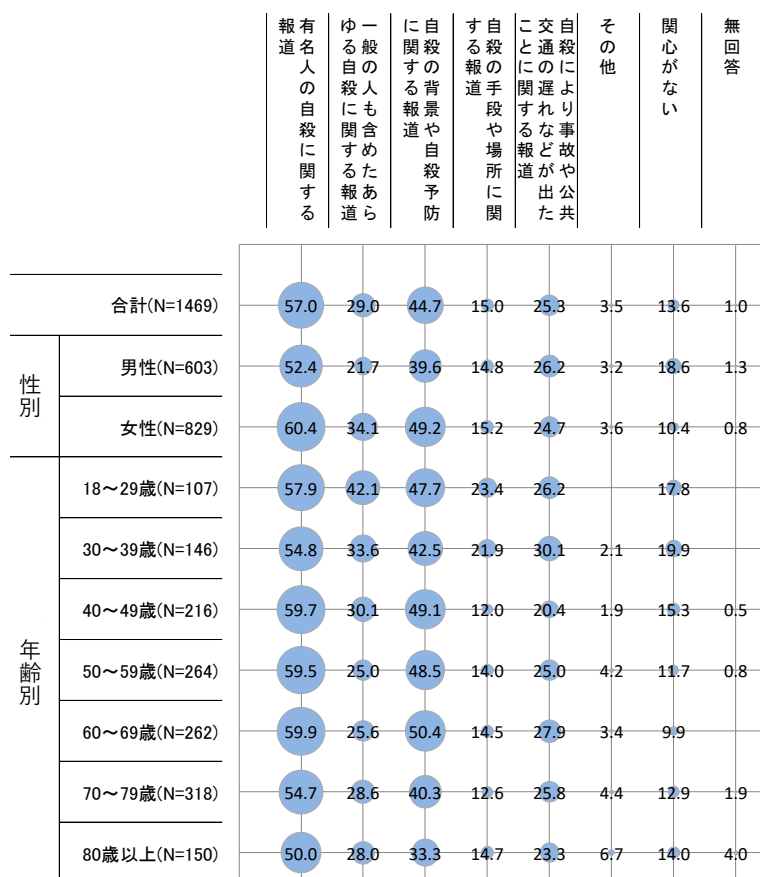
「有名人の自殺に関する報道」でみると、女性(60.4%)は男性(52.4%)より8.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」でみると、18～39歳(33.6%～42.1%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 19 (性別・年齢別) ×

1) あなたは、自殺を扱ったどのような報道に関心がありますか。(あてはまるもの全て)】



問 19 自殺を扱った報道について質問します。

2) あなたは、自殺を扱った報道についてどのように感じますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「自殺の原因を探るために遺族などにしつこく取材しているのが不快に感じた」(54.3%)、「何となく気分が落ち込んだ」(44.5%)、「自殺報道を受けて自殺する人が増えるのではないかと不安に感じた」(27.7%)、「自殺が身近な問題であると感じた」(23.8%) となっています。

【性別】

「何となく気分が落ち込んだ」で見ると、女性(52.2%)は男性(34.3%)より17.9ポイント高くなっています。

【年齢別】

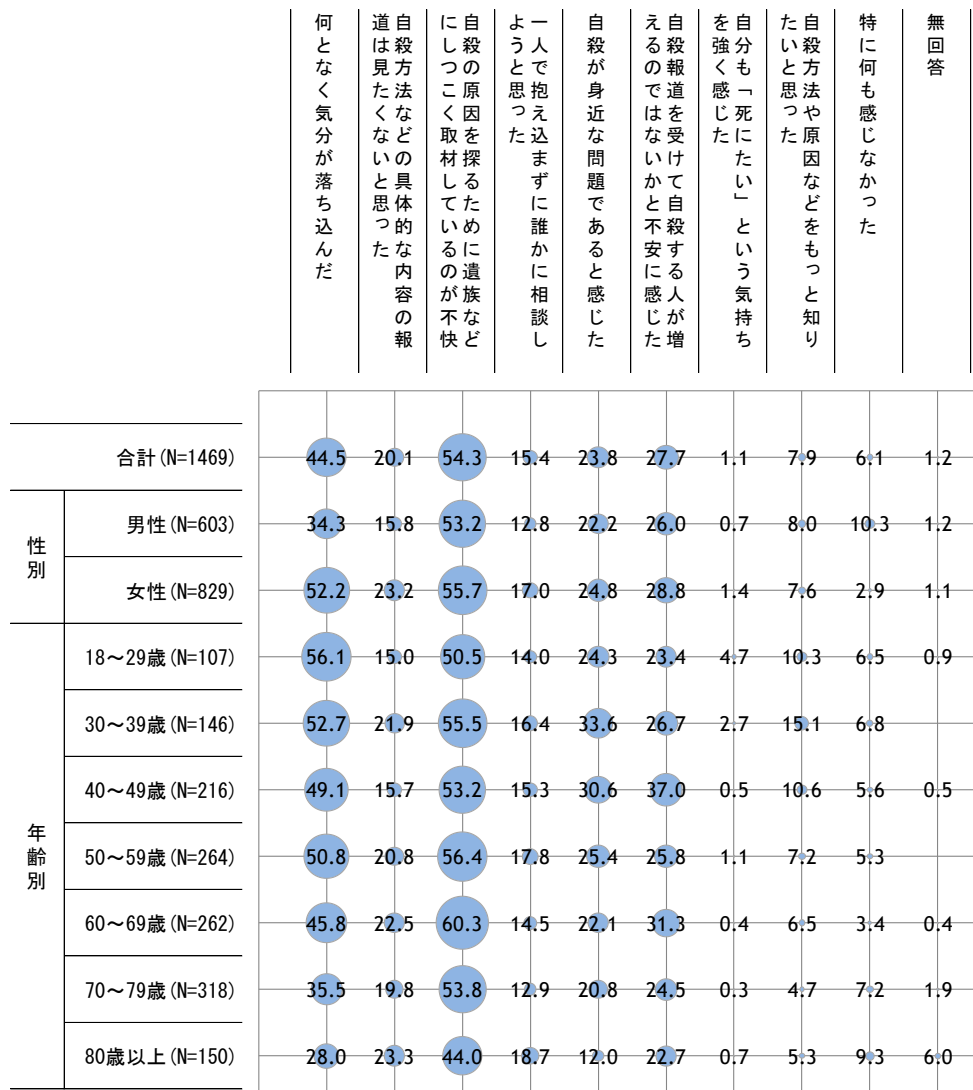
「何となく気分が落ち込んだ」で見ると、18～69歳(45.8%～56.1%)は他の年齢層より高くなっています。

「自殺報道を受けて自殺する人が増えるのではないかと不安に感じた」で見ると、40～49歳(37.0%)、60～69歳(31.3%)は他の年齢層より高くなっています。

「自殺が身近な問題であると感じた」で見ると、30～49歳(30.6%～33.6%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問19 (性別・年齢別) ×

2) あなたは、自殺を扱った報道についてどのように感じますか。(あてはまるもの全て)】



問 20 インターネット上には、自殺に関連する様々なサイトがあります。あなたは、自殺に関連する様々なサイトを積極的に見たことがありますか。以下の中で見たことがあるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「見たことがない」(90.5%) が最も高く、次いで「自殺予防情報を提供するサイト」(2.5%) となっています。

【性別】

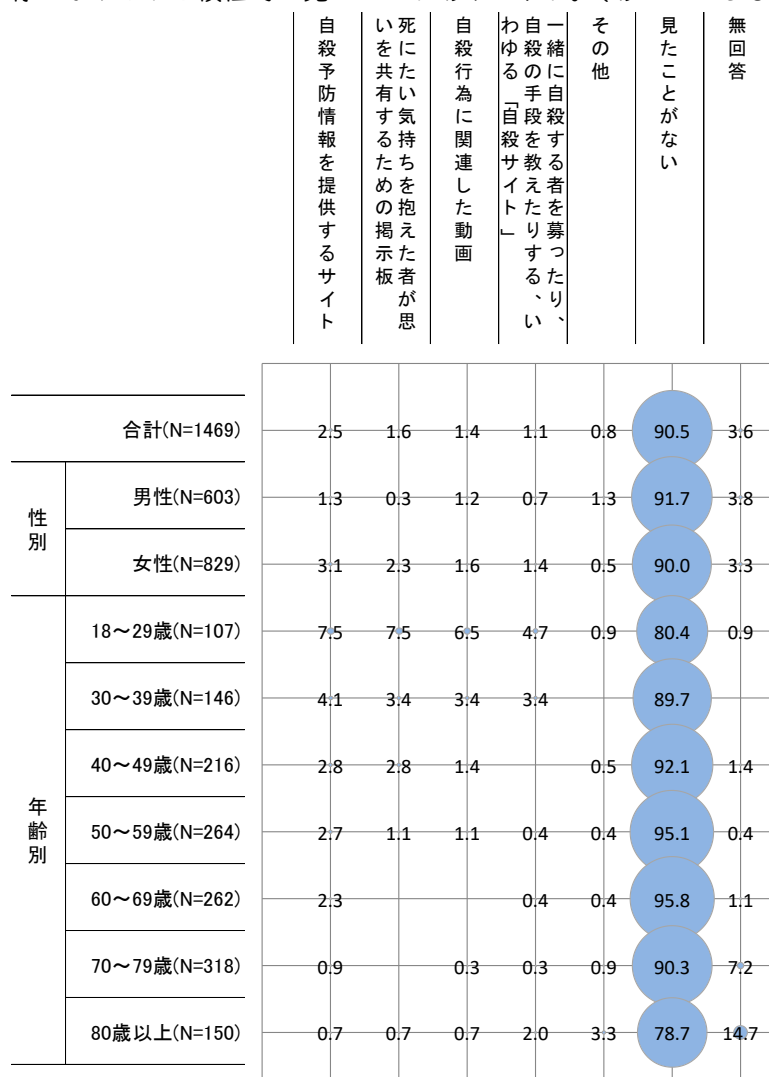
性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

18～29 歳は、「自殺予防情報を提供するサイト」(7.5%)、「死にたい気持ちを抱えた者が思いを共有するための掲示板」(7.5%)、「自殺行為に関連した動画」(6.5%)、「一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりする、いわゆる「自殺サイト」」(4.7%) を見えています。

【図 問 20 (性別・年齢別) ×

あなたは、自殺に関連する様々なサイトを積極的に見たことがありますか。(あてはまるもの全て)】



【問4 同居家族の有無別】

『(自殺に関連するサイトを)見たことがある』※でみると、「同居家族 現在なし」(9.3%)は「同居家族 現在あり」(5.4%)より高くなっています。

【問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

『(自殺に関連するサイトを)見たことがある』※でみると、「人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えたことがある」(12.7%)は「人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えたことがない」(3.7%)より9.0ポイント高くなっています。

【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

『(自殺に関連するサイトを)見たことがある』※でみると、「これまでに周りで命を絶とうとした方がいた」(14.6%)は、「これまでに周りで命を絶った方がいた」(6.6%)より8.0ポイント、「これまでに周りで命を絶とうとした人がどちらもいなかった」(4.6%)より10.0ポイント高くなっています。

【問14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

『(自殺に関連するサイトを)見たことがある』※でみると、「自ら命を絶とうとした経験を答えたくない」(20.3%)、「自ら命を絶とうとした経験がある」(18.3%)は、「自ら命を絶とうとした経験がない」(4.6%)より、それぞれ15.7ポイント、13.7ポイント高くなっています。

※『(自殺に関連するサイトを)見たことがある』の算出方法：100%－（「見たことがない」の構成比）－（「無回答」の構成比）

×問20 積極的に閲覧したことのある自殺に関するサイト

	自殺予防情報を提供するサイト	死にたい気持ちを抱えた者が思いを共有するための掲示板	自殺行為に関連した動画	一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりする、いわゆる「自殺サイト」	その他	見たことがない	無回答
合計 (N=1469)	2.5	1.6	1.4	1.1	0.8	90.5	3.6
問4 同居家族 現在あり (N=1253)	2.4	1.4	1.0	1.0	0.8	91.2	3.4
問4 同居家族 現在なし (N=206)	3.4	2.9	3.4	1.9	1.0	85.4	5.3
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えたことがある (N=379)	4.2	4.7	3.4	3.2	1.3	85.2	2.1
問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えたことがない (N=1008)	2.1	0.5	0.6	0.4	0.7	92.7	3.6
問13 これまでに周りで命を絶った方がいた (N=409)	2.4	1.2	2.2	1.0	0.5	91.2	2.2
問13 これまでに周りで命を絶とうとした方がいた (N=109)	6.4	6.4	6.4	5.5	0.9	82.6	2.8
問13 これまでに周りで命を絶とうとした人がどちらもいなかった (N=857)	2.2	1.3	0.4	0.7	0.8	92.2	3.2
問14 自ら命を絶とうとした経験がある (N=98)	6.1	8.2	4.1	8.2	2.0	77.6	4.1
問14 自ら命を絶とうとした経験がない (N=1228)	2.1	0.9	1.1	0.6	0.7	92.3	3.1
問14 自ら命を絶とうとした経験を答えたくない (N=59)	8.5	6.8	3.4	1.7	3.4	78.0	1.7

問 20-1 あなたは、どのようなきっかけで【問 20】で答えられたサイトを開いてみましたか。
 以下の中であてはまるもの全てに○をつけてください。(問 20 で「1～5」のいずれかを
 答えた方のみ)

【合計】

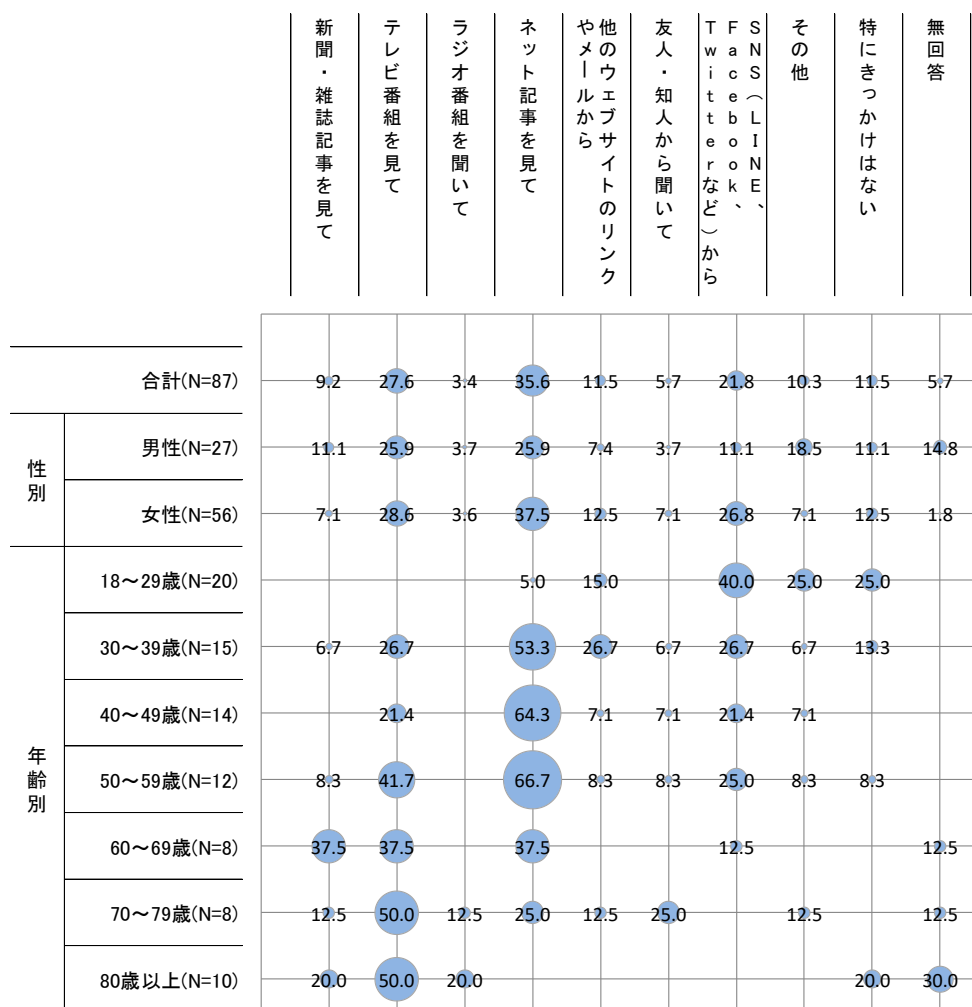
「ネット記事を見て」(35.6%)、「テレビ番組を見て」(27.6%)、「SNS (LINE、Facebook、Twitter など) から」(21.8%) となっています。

【性別】

「ネット記事を見て」で見ると、女性 (37.5%) は男性 (25.9%) より 11.6 ポイント高くなっています。「SNS (LINE、Facebook、Twitter など) から」で見ると、女性 (26.8%) は男性 (11.1%) より 15.7 ポイント高くなっています。

【図 問 20-1 (性別・年齢別) ×

あなたは、どのようなきっかけで問 20 で答えられたサイトを開いてみましたか。(あてはまるもの全て)】



7. 新型コロナウイルス感染症について

問 21 新型コロナウイルス感染症流行以降、あなたの心情や考えに変化がありましたか。コロナ流行から回答時点までのあなたの気持ちについて、以下の中であてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた」(37.8%)、「不安を強く感じるようになった」(32.4%)、「家で過ごす時間が増え、家族と過ごす時間の大切さを再認識した」(25.1%)となっています。

【性別】

「感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた」で見ると、女性(41.9%)は男性(32.5%)より9.4ポイント高くなっています。

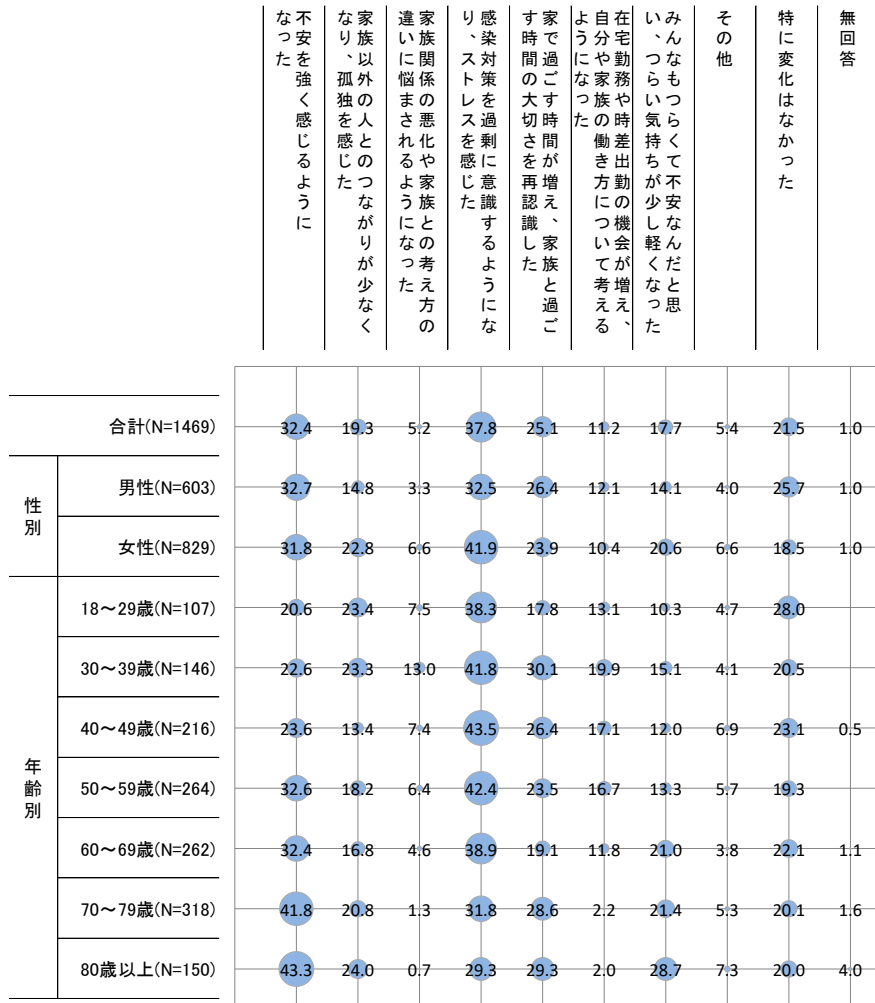
「特に変化はなかった」で見ると、男性(25.7%)は女性(18.5%)より7.2ポイント高くなっています。「家族以外の人とのつながりが少なくなり、孤独を感じた」で見ると、女性(22.8%)は男性(14.8%)より8.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

「不安を強く感じるようになった」で見ると、年齢が高くなるに従って高くなっています。

【図 問21 (性別・年齢別) ×

新型コロナウイルス感染症流行以降、あなたの心情や考えに変化がありましたか。
 コロナ流行から回答時点までのあなたの気持ちについて (あてはまるもの全て)



問 22 新型コロナウイルス感染症流行以降、あなたの家族や友人・知人など、身近な人の心情や考えに変化があったと感じますか。以下の中であてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じたようだ」(37.8%)、「不安を強く感じるようになったようだ」(29.6%)、「特に変化はなかったようだ」(23.4%) となっています。

【性別】

「感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じたようだ」でみると、女性(40.8%)は男性(34.2%)より6.6ポイント高くなっています。

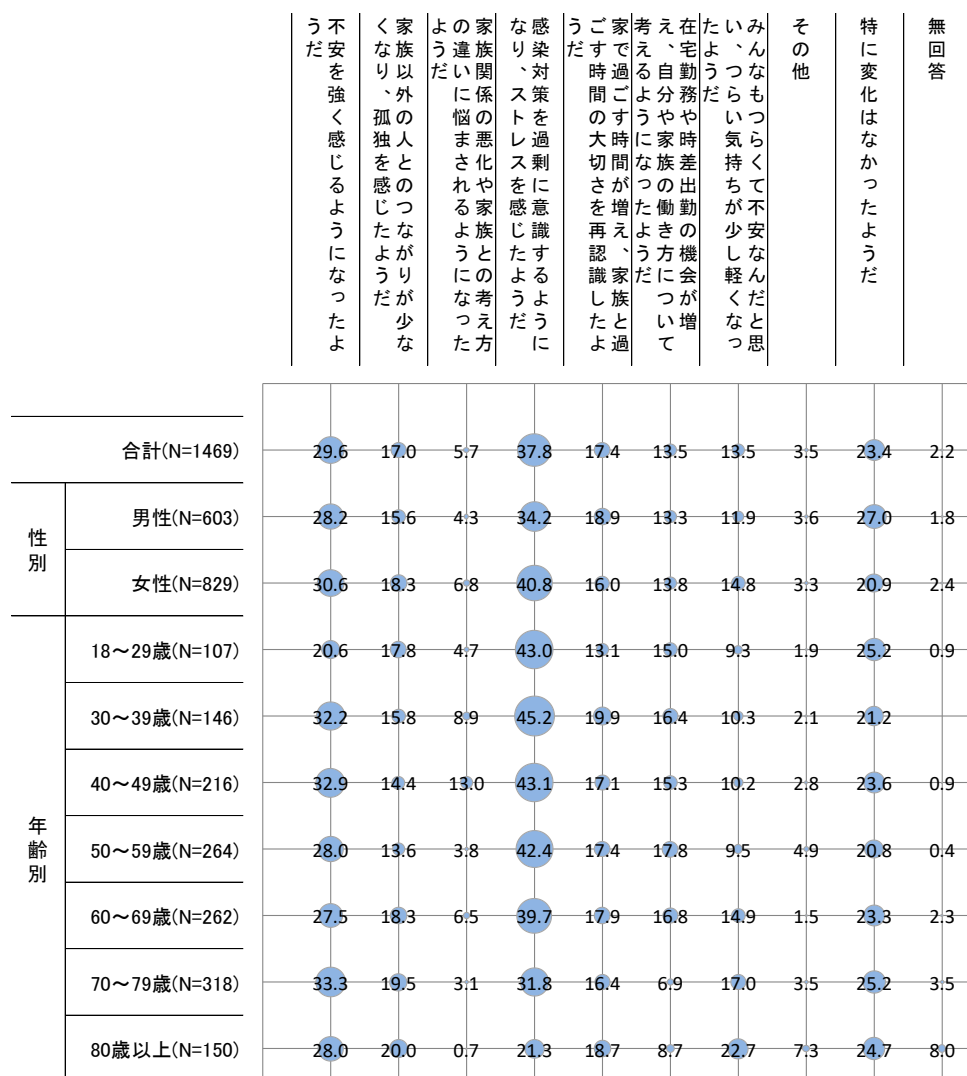
「特に変化はなかったようだ」でみると、男性(27.0%)は女性(20.9%)より6.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

「不安を強く感じるようになったようだ」でみると、18～29歳(20.6%)は他の年齢層(28.0%～33.3%)より低くなっています。

【図 問 22 (性別・年齢別) ×

新型コロナウイルス感染症流行以降、あなたの心情や考えに変化がありましたか。
 コロナ流行から回答時点までのあなたの気持ちについて(あてはまるもの全て)】



問 23 コロナ禍における身近な人の心情や考えの変化に対し、具体的な行動を起こしましたか。以下の中であてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「特に何もしなかった」(38.7%)、「家族でコミュニケーションをとる機会を多く持つようにした」(22.2%)、「有効な感染症対策を調べ、アドバイスをした」(15.6%)、「積極的に声をかけたり、連絡をしたりと悩みを聞くように努めた」(14.9%) となっています。

【性別】

「特に何もしなかった」でもみると、男性(41.8%)より女性(36.2%)のほうが5.6ポイント高くなっています。

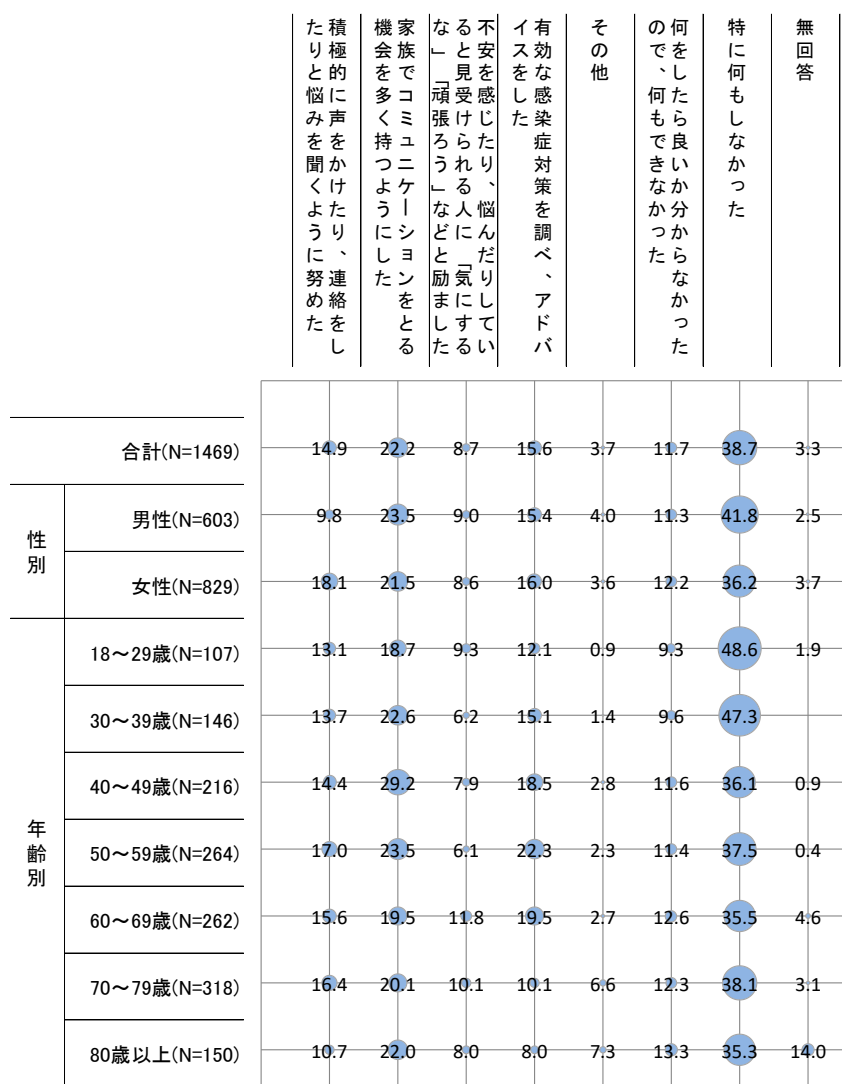
「積極的に声をかけたり、連絡したりと悩みを聞くように努めた」でもみると、女性(18.1%)は男性(9.8%)より8.3ポイント高くなっています。

【年齢別】

「特に何もしなかった」でみると、18～39歳(47.3%～48.6%)は他の年齢層より高くなっています。

「有効な感染症対策を調べ、アドバイスをした」でみると、40～69歳(18.5%～22.3%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 23 (性別・年齢別) × コロナ禍における身近な人の心情や考えの変化に対し、具体的な行動を起こしましたか。(あてはまるもの全て)】



問 24 コロナ禍での心情や考えの変化に伴い、どのような支援や対策が必要だと思えますか。
以下の中であてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「感染対策やワクチン、各種給付金制度や相談先などの情報の周知」(50.9%)、「曜日や時間帯を問わずいつでも相談できる相談体制の強化」(45.1%)、「生活支援・就労支援」(44.3%) となっています。

【性別】

「感染対策やワクチン、各種給付金制度や相談先などの情報の周知」でみると、男性(53.9%)より女性(48.4%) 5.5ポイント高くなっています。

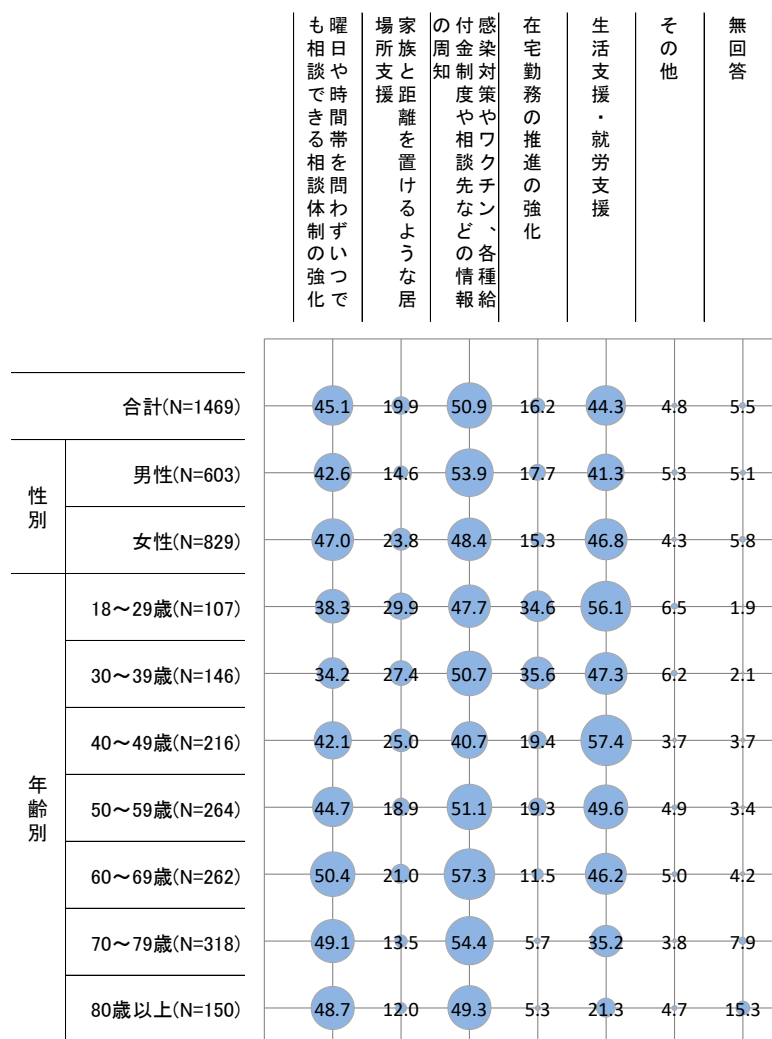
「生活支援・就労支援」でみると、女性(46.8%)は男性(41.3%)より5.5ポイント高くなっています。

【年齢別】

「曜日や時間帯を問わずいつでも相談できる相談体制の強化」でみると、40～80歳以上は他の年齢層より高くなっています。

「生活支援・就労支援」でみると、18～69歳は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 24 (性別・年齢別) × コロナ禍での心情や考えの変化に伴い、
どのような支援や対策が必要だと思えますか。(あてはまるもの全て)】



8. 今後の自殺対策について

問 25 あなたは、子ども・若者が自殺予防について学ぶ機会があったほうがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いもの1つに○をつけてください。

【合計】

「そう思う」(47.2%)と「どちらかといえばそう思う」(33.6%)を合わせた『そう思う』は80.8%となっています。

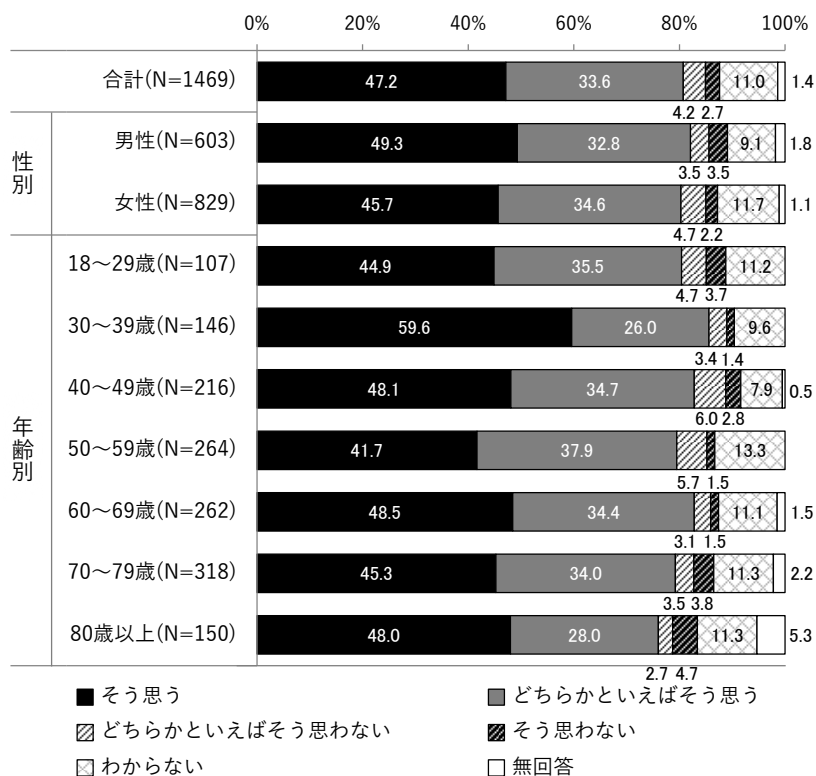
【性別】

性別で大きな差はみられません。

【年齢別】

『そう思う』でみると、年齢別に大きな差はみられません。

【図 問 25 (性別・年齢別) × あなたは、子ども・若者が自殺予防について学ぶ機会があったほうがよいと思いますか。(○を1つ)】



問 26 あなたは、子ども・若者の段階において、どのようなことを学べば、自殺予防につながるとお考えですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「周囲の人に助けを求めることは恥ずかしいことではないこと」(67.3%)が最も高く、次いで「ストレスへの対処方法」(59.1%)、「心の問題を抱えた際の心理、身体状況について正しく知ること」(53.4%)、「自殺が誰にでも起こりうる問題であると認識すること」(45.9%)となっています。

【性別】

「周囲の人に助けを求めることは恥ずかしいことではないこと」でみると、女性(73.0%)は男性(60.5%)より12.5ポイント高くなっています。

「自殺が誰にでも起こりうる問題であると認識すること」でみると、女性(49.5%)は男性(41.1%)より8.4ポイント高くなっています。

「心の問題を抱えた際の心理、身体状況について正しく知ること」でみると、女性(56.0%)は男性(50.1%)より5.9ポイント高くなっています。

「ストレスへの対処法」でみると、女性(61.4%)は男性(55.9%)より5.5ポイント高くなっています。

【年齢別】

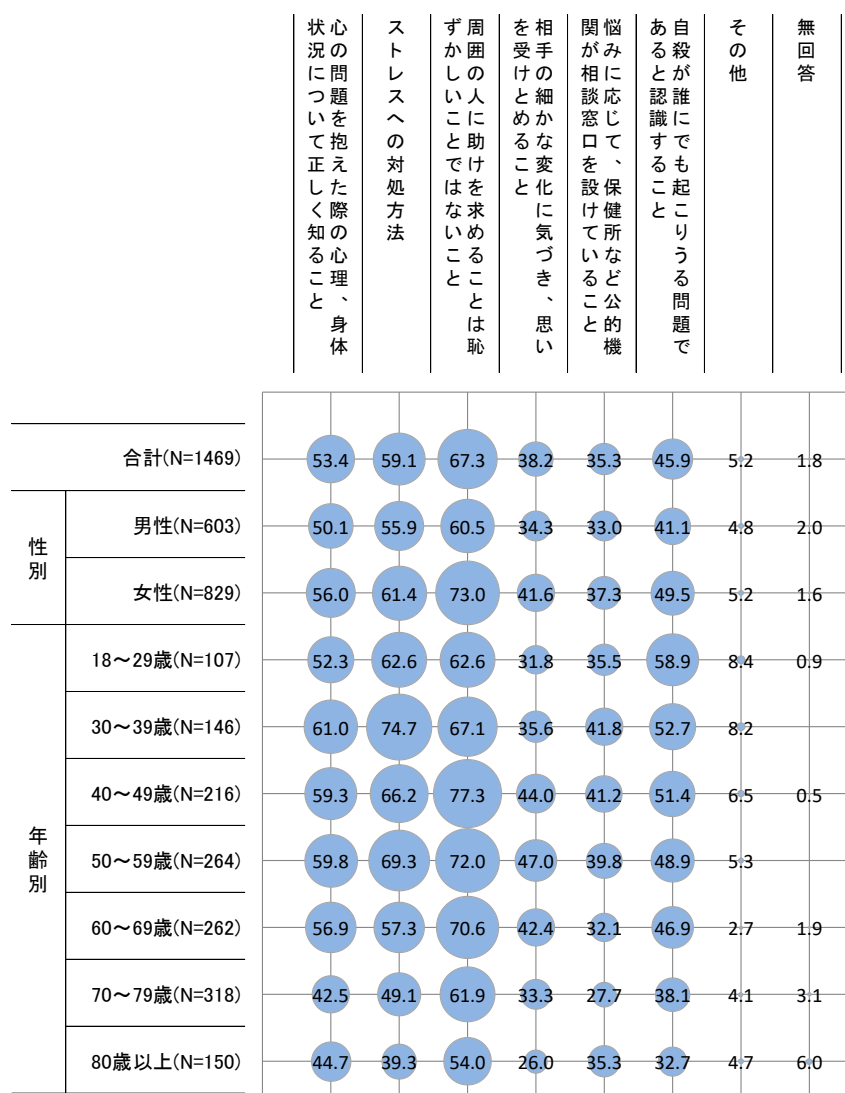
「ストレスへの対処法」でみると、18～69歳(52.3%～61.0%)は他の年齢より高くなっています。

「自殺が誰にでも起こりうる問題であると認識すること」でみると、18～69歳(46.9%～58.9%)は他の年齢より高くなっています。

「悩みに応じて、保健所など公的機関が相談窓口を設けていること」でみると、30～59歳(39.8%～41.8%)は他の年齢より高くなっています。

「相手の細かな変化に気づき、思いを受けとめること」でみると、40～69歳(42.4%～47.0%)は他の年齢より高くなっています。

【図 問 26 (性別・年齢別) ×あなたは、子ども・若者の段階において、
 どのようなことを学べば、自殺予防につながると思いますか。(あてはまるもの全て)】



問 27 今後求められるものとして、どのような子ども・若者向けの自殺対策が有効であると思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育（SOS の出し方教育）」（70.3%）、「いじめ防止対策の強化」（66.4%）、「子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施」（60.2%）、「ネット上での誹謗中傷に関する対策」（56.2%）となっています。

【性別】

「家族や友人関係などに悩む若者向けの相談先や居場所支援、虐待対策」でみると、女性（53.8%）は男性（41.6%）より 12.2 ポイント高くなっています。

「ネットパトロール（一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり）」でみると、女性（48.7%）は男性（38.1%）より 10.6 ポイント高くなっています。

「悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育（SOS の出し方教育）」でみると、女性（73.3%）は男性（66.5%）より 6.8 ポイント高くなっています。

「ネット上での誹謗中傷に関する対策」でみると、女性（59.0%）は男性（52.4%）より 6.6 ポイント高くなっています。

「子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施」でみると、女性（63.1%）は男性（57.0%）より 6.1 ポイント高くなっています。

【年齢別】

「ストレスとその対処法についての学び」でみると、18～59 歳（55.5%～58.7%）は他の年齢層より高くなっています。

「ネットパトロール（一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり）」でみると、30～69 歳（46.6%～50.4%）は他の年齢層より高くなっています。

【図 問 27 (性別・年齢別) × 今後求められるものとして、
 どのような子ども・若者向けの自殺対策が有効であると思いますか。(あてはまるもの全て)】

		育(悩みを抱え込まず周囲に助けを求め、SOSを出し方教育)	子どもが抱え出したSOSに気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施	子どもが抱え出したSOSに気づき、適切な対応をとる人)研修の実施	小中学校における、相談窓口の積極的な周知・啓発(プリント配布、ポスター掲示など)	小中学校における、相談窓口の積極的な周知・啓発	ストレスとその対処法についての学び	いじめ防止対策の強化	家族や友人関係などに悩む若者向けの相談先や居場所支援、虐待対策	SNSでの広報・啓発	ネット上で「死にたい」などと検索した際に相談窓口の情報を表示する仕組み	ネット上での誹謗中傷に関する対策	ネット上で「死にたい」などと検索した際に相談窓口の情報を表示する仕組み	その他	無回答
性別	合計(N=1469)	70.3	60.2	47.1	27.6	47.1	66.4	48.6	19.8	44.2	56.2	32.1	3.8	1.6	
	男性(N=603)	66.5	57.0	44.1	27.7	45.8	65.0	41.6	17.4	38.1	52.4	27.4	5.1	1.7	
	女性(N=829)	73.3	63.1	49.5	27.5	48.5	67.2	53.8	21.6	48.7	59.0	35.5	3.0	1.7	
年齢別	18~29歳(N=107)	61.7	62.6	42.1	31.8	56.1	58.9	50.5	25.2	39.3	57.9	28.0	1.9		
	30~39歳(N=146)	71.9	59.6	48.6	28.1	55.5	61.0	47.9	27.4	46.6	54.8	34.2	4.1	0.7	
	40~49歳(N=216)	73.6	63.4	47.7	31.9	56.0	58.8	56.0	21.3	46.3	60.6	29.2	3.2	0.5	
	50~59歳(N=264)	72.7	63.3	45.5	27.7	58.7	66.7	54.5	21.2	50.4	65.5	36.4	4.5	0.4	
	60~69歳(N=262)	75.6	63.0	53.1	28.6	46.2	72.1	46.6	22.1	48.5	58.8	38.9	3.4	0.8	
	70~79歳(N=318)	64.2	54.7	48.1	24.5	33.3	71.1	43.4	13.8	41.5	51.6	31.8	3.8	4.1	
	80歳以上(N=150)	70.0	58.0	40.0	23.3	32.0	66.7	42.0	13.3	30.7	39.3	18.7	5.3	4.0	

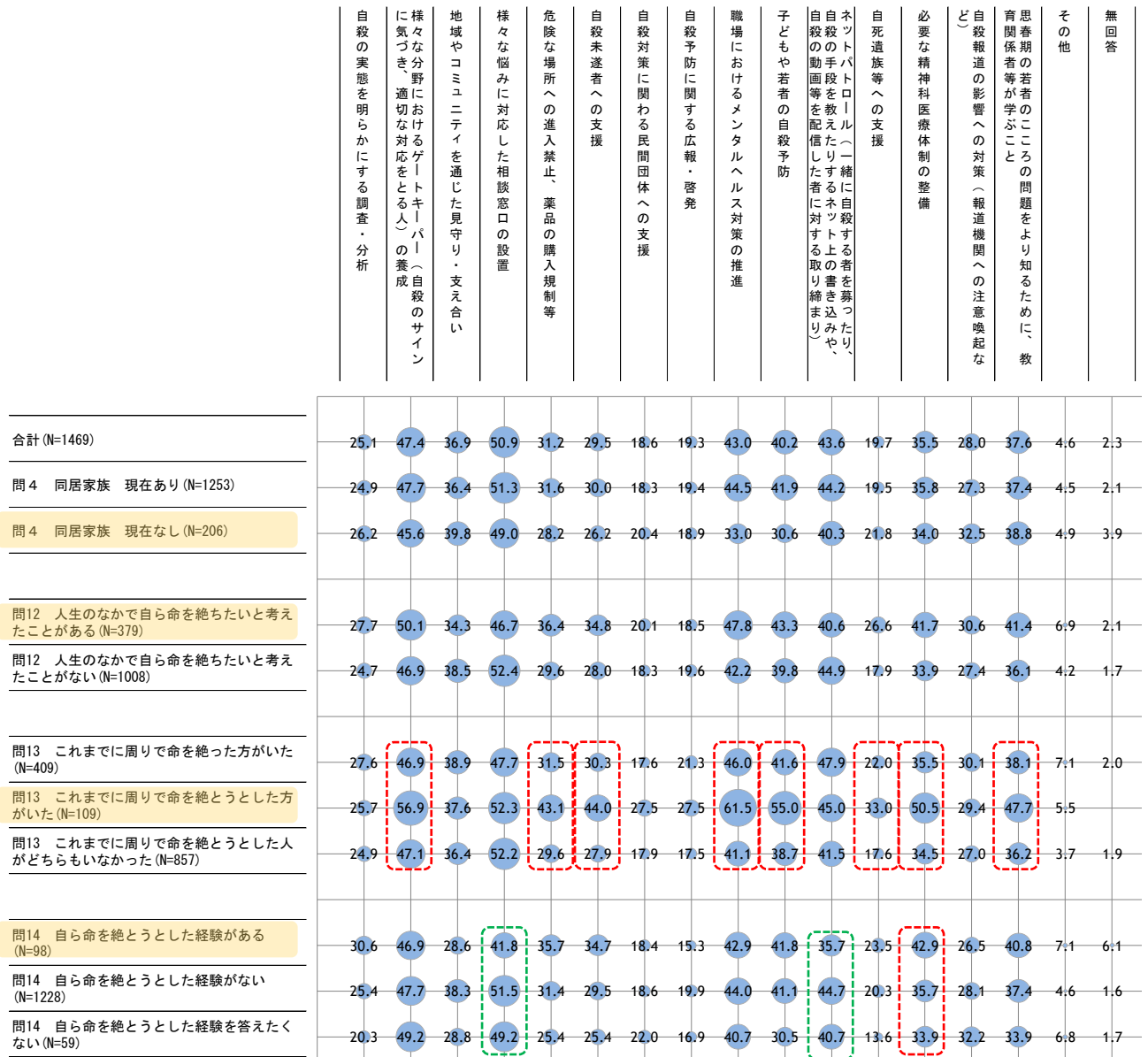
【問4 同居家族の有無別】

【問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

【問14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

×問28 有効だと思う自殺対策



問 28 今後求められるものとして、どのような自殺対策が有効であると思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(50.9%)、「様々な分野におけるゲートキーパー(自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人)の養成」(47.4%)、「ネットパトロール(一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり)」(43.6%)、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(43.0%)、「子どもや若者の自殺予防」(40.2%)となっています。

【性別】

「思春期の若者のこころの問題をより知るために、教育関係者等が学ぶこと」でみると、女性(41.7%)は男性(32.7%)より9.0ポイント高くなっています。

「ネットパトロール(一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり)」でみると、女性(46.9%)は男性(39.5%)より7.4ポイント高くなっています。

「様々な分野におけるゲートキーパー(自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人)の養成」でみると、女性(50.5%)は男性(43.4%)より7.1ポイント高くなっています。

「自殺未遂者への支援」でみると、女性(32.3%)は男性(25.9%)より6.4ポイント高くなっています。

一方、「自殺予防に関する広報・啓発」でみると、男性(23.4%)は女性(16.5%)より6.9ポイント高くなっています。

【年齢別】

「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」でみると、50～80歳以上(52.2%～58.0%)は他の年齢層より高くなっています。

「思春期の若者のこころの問題をより知るために、教育関係者等が学ぶこと」でみると、18～39歳(41.8%～49.5%)は他の年齢層より高くなっています。

「自殺の実態を明らかにする調査・分析」でみると、18～39歳(32.2%～34.6%)は他の年齢層より高くなっています。

【図 問28 (性別・年齢別)×今後求められるものとして、
どのような自殺対策が有効であると思いますか(あてはまるもの全て)】

		自殺の実態を明らかにする調査・分析	様々な分野におけるゲートキーパー(自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人)の養成	地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い	様々な悩みに対応した相談窓口の設置	危険な場所への進入禁止、薬品の購入規制等	自殺未遂者への支援	自殺対策に関わる民間団体への支援	自殺予防に関する広報・啓発	職場におけるメンタルヘルス対策の推進	子どもや若者の自殺予防	ネットパトロール(一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり)	自死遺族等への支援	必要な精神科医療体制の整備	自殺報道の影響への対策(報道機関への注意喚起など)	思春期の若者のこころの問題をより知るために、教育関係者等が学ぶこと	その他	無回答
合計(N=1469)		25.1	47.4	36.9	50.9	31.2	29.5	18.6	19.3	43.0	40.2	43.6	19.7	35.5	28.0	37.6	4.6	2.3
性別	男性(N=603)	30.3	43.4	38.6	49.4	28.5	25.9	20.4	23.4	40.1	39.3	39.5	17.7	33.7	29.0	32.7	5.6	2.7
	女性(N=829)	21.6	50.5	34.9	52.6	33.1	32.3	17.2	16.5	45.0	40.8	46.9	21.6	37.4	27.4	41.7	3.9	2.2
年齢別	18~29歳(N=107)	34.6	44.9	37.4	41.1	39.3	38.3	19.6	20.6	47.7	51.4	39.3	22.4	37.4	28.0	49.5	6.5	0.9
	30~39歳(N=146)	32.2	47.9	32.9	35.6	32.2	39.0	21.2	13.0	53.4	55.5	37.0	24.7	39.7	31.5	41.8	6.2	1.4
	40~49歳(N=216)	20.4	46.3	31.5	46.3	31.9	30.1	20.4	16.2	49.5	53.7	42.1	21.3	41.2	31.5	37.0	4.6	0.9
	50~59歳(N=264)	25.4	49.6	36.7	57.2	31.8	36.0	19.7	20.8	54.9	38.3	50.4	22.3	39.8	25.8	35.2	4.2	
	60~69歳(N=262)	23.3	47.7	38.9	55.3	29.4	26.3	19.5	20.2	43.5	39.3	50.4	20.2	35.9	30.5	34.7	4.6	2.7
	70~79歳(N=318)	24.2	48.4	38.7	52.2	28.3	23.9	16.0	21.1	32.4	29.9	42.1	16.4	27.0	26.1	37.4	3.8	4.4
	80歳以上(N=150)	23.3	43.3	41.3	58.0	32.7	19.3	15.3	22.0	20.7	24.7	35.3	13.3	32.7	24.0	36.0	4.7	5.3

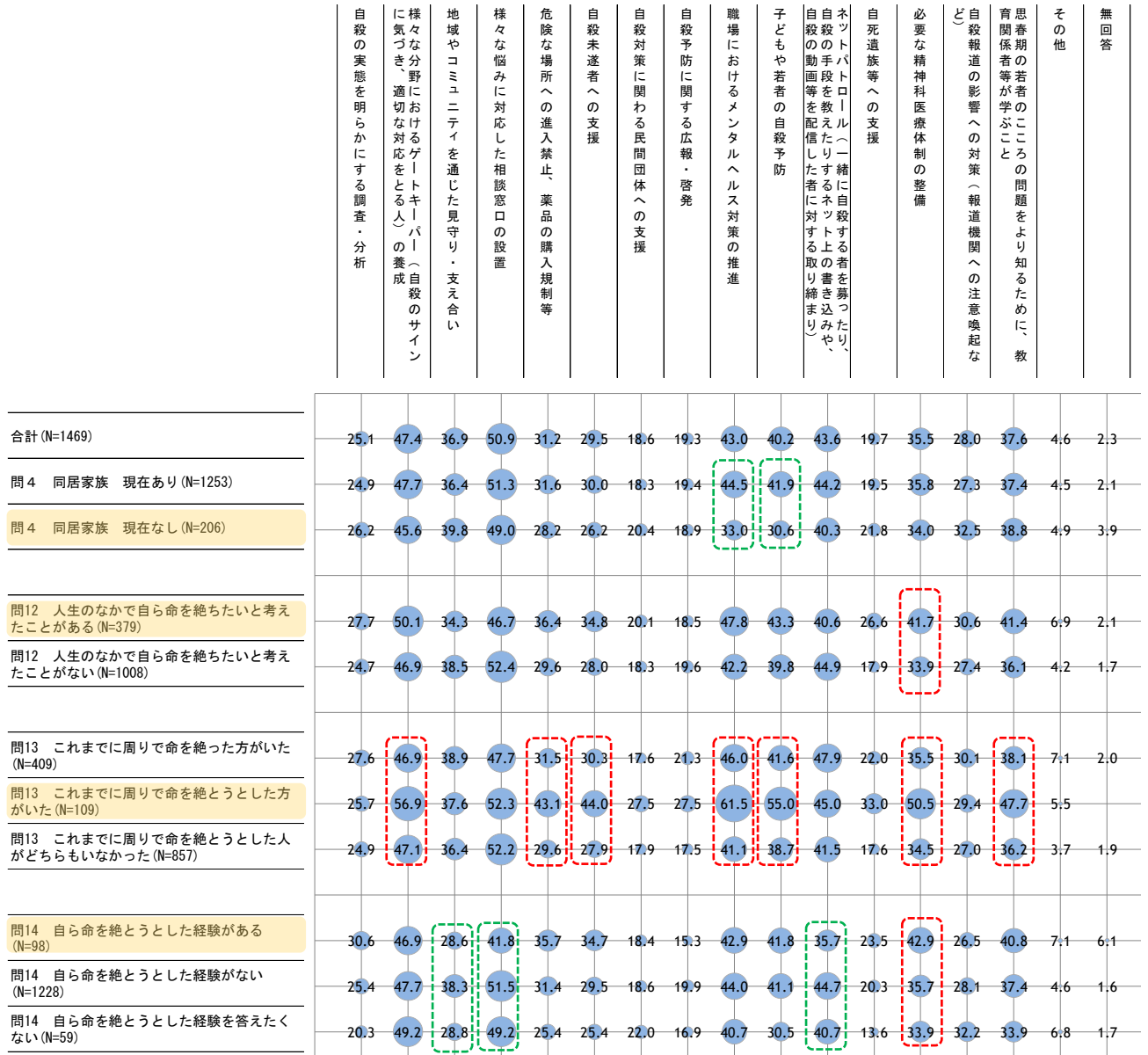
【問4 同居家族の有無別】

【問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

【問14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

×問28 有効だと思う自殺対策



問 29 今後の自殺対策として、あなたが大切だと思ふことはどのようなことですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【合計】

「相談体制の充実と、支援策や相談窓口情報のわかりやすい発信」(51.5%)、「高齢者の孤立を防ぐ対策」(47.2%)、「より精神科医療を受けやすくする体制の強化」(46.5%)、「子ども・若者の自殺対策のさらなる推進」(45.7%)、「勤務問題(過労死防止やメンタルヘルス等)による自殺対策のさらなる推進」(44.2%)となっています。

【性別】

「より精神科医療を受けやすくする体制の強化」でみると、女性(51.1%)は男性(41.1%)より10.0ポイント高くなっています。

「自殺電話相談(「いのちの電話」など)の充実」でみると、女性(42.2%)は男性(32.7%)より9.5ポイント高くなっています。

「自殺者とその親族(自死遺族)等への配慮と支援」みると、女性(27.7%)は男性(20.7%)より7.0ポイント高くなっています。

「女性に対する支援(コロナ禍における女性支援や妊娠されている方への支援等)」でみると、女性(29.4%)は男性(22.9%)より6.5ポイント高くなっています。

一方、「自殺防止に関する市民への啓発活動」でみると、男性(25.0%)は女性(17.7%)より7.3ポイント高くなっています。

【年齢別】

「相談体制の充実と、支援策や相談窓口情報のわかりやすい発信」でみると、60～80歳以上(57.3%～58.5%)は他の年齢層より高くなっています。

「高齢者の孤立を防ぐ対策」でみると、50～80歳以上(50.0%～57.3%)は他の年齢層より高くなっています。

「勤務問題(過労死防止やメンタルヘルス等)による自殺対策のさらなる推進」でみると、18～59歳(50.8%～61.0%)は他の年齢層より高くなっています。

「女性に対する支援(コロナ禍における女性支援や妊娠されている方への支援等)」でみると、18～39歳(37.7%～40.2%)は他の年齢より高くなっています。

【図 問29 (性別・年齢別) ×今後の自殺対策として、
あなたが大切だと思うことはどのようなことですか。(あてはまるもの全て)】

問2' 年齢2 × 問29 自殺対策として大切だと思うこと

		自殺防止に関する市民への啓発活動	相談体制の充実と、支援策や相談窓口情報	子ども・若者の自殺対策のさらなる推進	女性に対する支援(コロナ禍における女性支援や妊娠されている方への支援等)	勤務問題(過労死防止やメンタルヘルス等)による自殺対策のさらなる推進	高齢者の孤立を防ぐ対策	自殺者とその親族(自死遺族)等への配慮と支援	自殺未遂者への支援	自殺電話相談(「いのちの電話」など)の充実	より精神科医療を受けやすくする体制の強化	インターネット利用への対応	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた支援	関連施策(生活困窮者や子どもへの支援、孤独・孤立対策など)との連携強化	その他	特になし	無回答
性別	合計(N=1469)	20.8	51.5	45.7	26.6	44.2	47.2	24.6	26.5	38.1	46.5	30.9	20.4	36.2	3.9	2.5	2.5
	男性(N=603)	25.0	51.1	47.8	22.9	41.5	44.6	20.7	23.2	32.7	41.1	29.5	17.1	32.7	4.3	3.8	2.3
	女性(N=829)	17.7	52.5	44.6	29.4	46.6	49.0	27.7	29.0	42.2	51.1	32.4	23.0	39.1	3.7	1.6	2.7
年齢別	18~29歳(N=107)	15.0	42.1	48.6	40.2	59.8	26.2	32.7	37.4	27.1	56.1	37.4	30.8	31.8	1.9	3.7	0.9
	30~39歳(N=146)	16.4	39.7	58.2	37.7	61.0	37.7	32.2	32.9	27.4	50.7	33.6	27.4	39.0	6.8	4.8	
	40~49歳(N=216)	13.4	44.0	52.3	24.5	51.4	44.9	25.5	26.4	28.2	49.5	34.7	23.6	30.1	5.1	2.3	1.4
	50~59歳(N=264)	20.8	51.5	45.5	25.8	50.8	50.0	29.5	29.2	40.9	53.0	39.0	23.9	40.2	4.2	2.7	0.8
	60~69歳(N=262)	24.4	57.3	48.1	27.9	43.9	50.8	24.0	26.3	42.7	47.3	37.8	16.8	36.3	3.4	1.5	2.3
	70~79歳(N=318)	22.3	58.5	38.7	21.1	29.9	50.3	19.5	22.0	46.5	38.4	20.4	15.1	36.8	2.5	2.2	4.1
	80歳以上(N=150)	30.7	57.3	33.3	21.3	27.3	57.3	14.7	18.7	40.0	37.3	15.3	13.3	37.3	4.0	2.0	7.3

【問4 同居家族の有無別】

【問12 人生のなかで自ら命を絶ちたいと考えた経験の有無別】

【問13 これまでに周りで命を絶とうとした人の有無別】

【問14 自ら命を絶とうとした経験の有無別】

×問29 自殺対策として大切だと思うこと

